

特20
385

第三版

室蘭大觀

宮中顧問官公爵二條基弘閣下題辭
內閣總理大臣侯爵桂太郎閣下簡文
室蘭支廳長服部慶太郎君序文
鹿門岡千仞先生序文
渡部義顯君著

全

明治
40. 1. 8
内交

博文社藏版

海山

日

道

心

字

海山



拜復益御清穆之條賀上候陳は今般

貴著室蘭大觀壹部御心切に御送與

被下難有拜讀仕候右御禮申上度早

々拜具

五月十七日

桂

太郎

渡部義顯殿

拜讀陳者貴著室蘭大觀別冊御寄贈
被下辱く致領收候御厚志之段感謝
之至候右御挨拶如斯御座候早々拜
復

五月十七日

齋 藤 實

渡部義顯殿

拜復彌々御多祥奉賀候然ば貴下の
御著作に係る室蘭大觀壹部御贈與
に預り難有拜受致し候右乍略儀書
中御禮申上度如此御座候勿々不宣

五月十七日

澁 澤 榮 一

渡部義顯様

序

夫れ地方の殷盛を招致するの方多々あるべしと雖も其最も之が紹介を爲すの策は他をして我を知らしむるを以て第一と爲す渡部義顯氏茲に觀るあり曩きに室蘭大觀と題する冊子を編纂し管内の勝區と其繁榮の梗概とを洽く網羅し以て社會に紹介し裨益する所尠らぬが、さりしが今茲又最近變遷の實況を増補再刊し以て世に公にせらる是れ寔に時機に適したること、云ふべし其圖書たるや専ら産業を本位とせる經濟的觀察に加ふるに地理及沿革を明かにし併せて膽振國內に於ける樞要なる地區の案内記を以てせらる故に最近に於ける當地方拓植の狀勢と室蘭港現時の發展とを知らんと欲する者は須く此書を讀まば多大の便益を得ん豈獨り當地方殷盛を招致するの捷徑と爲るのみあらんや聊か所感を陳じ序に代ふ

明治四十二年十一月

室蘭支廳長 服部慶太郎 識

序

室蘭大觀成りて序を予に求む惟ふに輓近地方案內的の冊子何れの方面にも出版せられざるなしされども最も適切に地方の狀態を擧げて産業的實益を勸むるものは甚だ稀れなり既刊或は函館案内と云ひ或は小樽便覽と云ひ或は最近の札幌と云ひ旭川便覽と云ふも皆を寫眞帖に等しきものにして未だ悉く信賴すべからず唯だ産業の狀態と諸般の概況を一々實際に徴して集中せしものは信ずべし渡部義顯氏著述の室蘭大觀は蓋し是れならん果して然らば起業家旅行者等の信賴して讀むべきものなり一言以て序と爲す

芝新錢座

明治己酉初冬

岡 千 俣 識

序文

室蘭大觀第二版自序

北海道の地圖を繕けば本道の東南端に偏在し其の形狀恰も巴字形に似たるもの何人も問はずして室蘭港たるを知る願みれば四十年前まで其の地名も世人の記憶に止まらず微々として振はざりし一部落が近年長足の進歩を爲し將に函館小樽を凌駕せんとするの趨勢を示し來りたる反對の程度に膽振國の一部は逐年衰退の悲運に傾きつゝあるものゝ如く思惟するものあり知らず刻下膽振國の情態は果して退歩せるものか實に一ヶ年の海外輸出價額五百七十餘萬圓に上り年々五十六萬餘噸の輸送力を保てるは膽振國の現狀にありと知らずや若し室蘭港灣の設備完成せられ噴火灣内及び膽振日高の海洋に於ける沖合漁業發達し膽振鐵道と日高及び金山鐵道線開通され鐵道復線工事成り製銅製鐵兩所の外に製紙木材石灰鐵礦銅鑛砂鐵等の産額を

増加し更に北見線の連絡を觀るに至らば内外船舶の往來遠く歐亞の大陸に及び必ずや貿易市場たるべき幸運に向ひ天然の好地勢を獨占し無敵の漁利と工業の利益を包藏せる我室蘭の生産力は曠に今日に倍蓰し函館小樽に亞ぐの繁盛を招致し本道東南面の重鎮として其の雄姿を縦にすることを得んか然れども退て考ふるに室蘭港創始以來地方記録の公刊せられたるもの一再に止まらずと雖も其の多くは汎く發賣せられたるものあるを聽かず是れ實に地方開發上の一大障礙にして往々世人の爲めに誤解を招がるゝの原因も亦此の點に存す著者茲に深く慨するあり本年三月室蘭大觀を出版したるに僥倖にして意外の好評を博し今や僅々九ヶ月間に於て該書既に賣り切れんとするの盛況に迫まり茲に其の二版として膽振國一圓の記事をも掲載するに至り固より辨學非才其の器に乏しく加ふるに限りある短日數を

以て起稿したるものなれば遺漏のあるべきは勢ひの免がれざる慮之
を以て完璧と稱すべからずと雖も其趨勢の一斑を知るの便に供する
を得ば著者の幸榮之に過ぐるものなし聊か所感を述べて序と爲す

明治四十二年十二月 室蘭港に於て

著者 渡部義顯識

室蘭大觀初版掲載の題辭及序文

工業之室蘭 伯爵東郷平八郎閣下

北海之良灣 男爵伊達 基閣下

東瀛之金門 農學博士 佐藤昌介先生

序文 前室蘭支廳長山浦常吉君

例言

一本書は室蘭支廳管内に於ける諸般の事項を調査し之を一般に周知せしめ本港又は廣
振國內に移住者を勧誘せんとの目的を以て編述したるものにして理論又は學說等は
努めて之を避け文章は平意を旨とし起業家移住者旅行者をして通讀に使ならしむ
一本書中の事項を大別して三十一章と爲し室蘭港灣の實況、港灣海陸の設備、室蘭港の
概況、室蘭市街、室蘭の氣象、室蘭の潮流、室蘭教育、室蘭の風俗及宗教、室蘭の工業、
室蘭の實業大勢、室蘭の交通、室蘭の商業、室蘭の經濟、室蘭の衛生、室蘭の警察、室蘭
の漁業、室蘭港將來の趨勢、室蘭に對する將來の希望、伊達村に於ける起業策、室蘭に
於ける官公署其他、室蘭附近に於ける名勝、膽振國各郡の概況、輪西村外二ヶ村の概
況、有珠郡各村の概況、有珠郡壯瞥村の概況、虻田郡の概況、幌別郡各村の概況、
白老郡の概況、王子製紙株式會社苦小牧工場、勇拂郡の概況、結論附録是なり
一本書沿革其他の記事中引用に供せし書類夥多ありと雖も校舉するに遑わらず今略し
て卷首に之を掲げず

一本書出版の目的は獨り室蘭支廳管内のみならず漸次其調査區域を擴張し函館、檜
山、後志、札幌、空知、上川、浦河、河西、釧路、根室、網走、宗谷、増毛支廳等

の各管内に涉り詳密之を調査し其完成を待て北海道大觀を出版するの目的にして要
 は本道拓植事業の實況を唱道し併せて移住者勸誘の手引書と爲すものなれば既移住
 者と未移住者の別なく本書を購讀せしめんとす

一本書は明治四十二年十二月盡日を以て脱稿せしも印刷が豫定より遅れたるを以て記
 事中四十三年に涉りしものを掲げ又附録實業家畧傳中偶々官吏、醫師、僧侶其他の
 者を掲載せり

一本書中俱知安村の事項を掲げたるは同村開發の初期時代は室蘭支廳の管内たりしと
 國籍の膽振國に屬するを以て特に調査したり又膽振鐵道敷設の曉は將來密接の關係
 あるべきを豫期したるに由るものとす

一本書は將來室蘭港又は室蘭支廳管内の進運に伴ひ増補訂正し毎歳之を出版するもの
 なれば脱稿を急ぎしを以て殆んど反閲校訂する能はずして梓に上せり故に字句の如
 きは誤謬なきを免れざるべければ版を重ねるに随つて増補修訂せんとす

明治四十三年三月

東京上野公園の邊に於て

著者識

室蘭大觀第二版目次

題辭簡文及序

口繪

緒論

沿革及地圖

第一章 室蘭港灣の實況

- (一) 概言
- (二) 地位
- (三) 地勢及地理
- (四) 區域面積及深淺干満潮の差
- (五) 船舶入出の便否
- (六) 船舶碇泊の難易

第二章 港灣海陸の設備

- (一) 概言(甲)海上の設備(一)繫船浮標(二)舢舨(三)船入洞(四)船
- 船給水(五)海底浚渫(乙)陸上の設備(一)埋立及海陸連絡の設備
- (二)埋立地面積(三)棧橋(四)埠頭(五)貯炭場及倉庫(六)棧橋及
- 物揚場(七)荷役船回漕店(八)燈臺及警報

第三章 室蘭港の概況

- (一) 概言
- (二) 室蘭町の區畫
- (三) 室蘭港の町名
- (四) 室蘭人口及戶數

目次

目次

(五)室蘭の前途に就て……………三〇

第四章 室蘭市街……………三〇

(一)室蘭港の盛衰及状況……………(二)室蘭の最近十ヶ年戸口……………三五

第五章 室蘭の氣象……………三五

(一)概言……………(二)氣壓及氣温……………(三)室蘭港平均温度……………(四)降雨及雷鳴……………

(五)濃霧……………(六)降雪及結霜……………(七)風位及風力……………

第六章 室蘭港の潮流……………三九

(一)暖流……………(二)來滿流……………

第七章 室蘭の教育……………三八

(一)概言……………(二)各小學校兒童數……………(三)學校及職員數……………(四)室蘭尋常高等小學校生徒及職員其他……………(五)武揚尋常小學校兒童及經費其他……………(六)武揚尋常小學校沿革……………(七)武揚尋常小學校職員及概況……………(八)成徳尋常小學校沿革及概況……………(九)成徳尋常小學校兒童數及職員……………四九

第八章 室蘭の風俗及宗教……………四九

(一)概言……………(二)人情風俗……………(三)宗教……………(四)神社……………(五)寺院……………

第九章 室蘭の工業……………五四

(一)日本製鋼所創設概況……………(二)室蘭製鐵場創設當時の概況……………

第十章 室蘭の實業大勢……………六二

(一)概言……………(二)營業別戸數……………(三)勞働賃金……………(四)工場及職業月數……………(五)室蘭實業團體……………(六)學務委員氏名……………(七)衛生組長及消防組頭氏名……………

第十一章 室蘭の交通……………六七

(一)概言……………(二)郵便及電信線……………(三)交通……………(四)森室蘭間定期航路……………(五)室蘭函館間海底電話……………(六)鐵道乘客出入……………(七)室蘭上陸移民……………(八)海外要港に對する漚程……………(九)内國要港に對する漚程……………

第十二章 室蘭の商業……………七四

(一)概言……………(二)諸會社及支店……………(三)輸出入總計……………(四)輸出……………(五)輸入……………(六)外國貿易船入出港……………(七)外國船入出港……………(八)室蘭港寄港津輕海峽通過船……………(九)外國貿易船船用品……………(一〇)沿海商業輸出入……………(一一)沿海通航船入出港……………

第十三章 室蘭の經濟……………八七

(概言)……………(二)北海道銀行室蘭支店預金及貸付金……………(三)北海道銀行室蘭支店手形扱高……………(四)室蘭二等郵便局爲替及貯金……………(五)母戀郵便局郵便爲替……………

第十四章 室蘭の衛生……………九〇

(一)概言……………(二)衛生費累年支出額……………(三)室蘭町立病院……………(四)傳染病收容患者病名……………(五)開業醫數及資格……………(六)公私立病院及院長氏名……………(七)衛生組合……………

第十五章 室蘭の警察……………九七

(一)水上警察及母戀巡査派出所……………(二)消防組合……………

第十六章 室蘭の漁業……………九九

(一)概言……………(二)室蘭水産物額……………(三)漁船トロール漁業……………

第十七章 室蘭港將來の趨勢……………一〇五

第十八章 室蘭に對する將來の希望……………一〇九

(一)室蘭港灣修築に關する管見……………(二)伊達村に於ける起業策……………一九

第十九章 伊達村に於ける起業策……………二一四

第二十章 室蘭に於ける官公署其他……………(一)官署……………(二)學校……………(三)病院……………(四)會社……………(五)銀行……………(六)旅館……………(七)旗亭……………(八)娛樂場……………(九)名所……………一三三

第二十一章 室蘭附近に於ける名勝……………一三三

第二十二章 膽振國各郡の概況……………一三七

第二十三章 室蘭郡輪西村外二ヶ村の概況……………一四五

(一)輪西外二ヶ村沿革……………(二)人口及戸數……………(三)耕地反別及農家……………(四)果實……………(五)水産業……………(六)輪西村製造水産物……………(七)室蘭の製鐵場……………(八)室蘭製鐵場の概況……………(九)輪西製材所……………

第二十四章 有珠郡各村の概況……………一五四

(一)有珠郡各村の概況……………(二)伊達村沿革及狀況……………(三)有珠郡伊達村長流用水土功組合……………(四)人口及戸數……………(五)耕地反別及農家……………(六)桑畑及養蠶……………(七)漁船及漁網……………(八)製造水産物……………(九)生賣水産物……………(一〇)有珠灣及有珠嶽……………(一一)白善光寺の緣起……………(一二)帝國製麻株式會社の現況……………

第二十五章 有珠郡壯瞥村の概況……………一八四

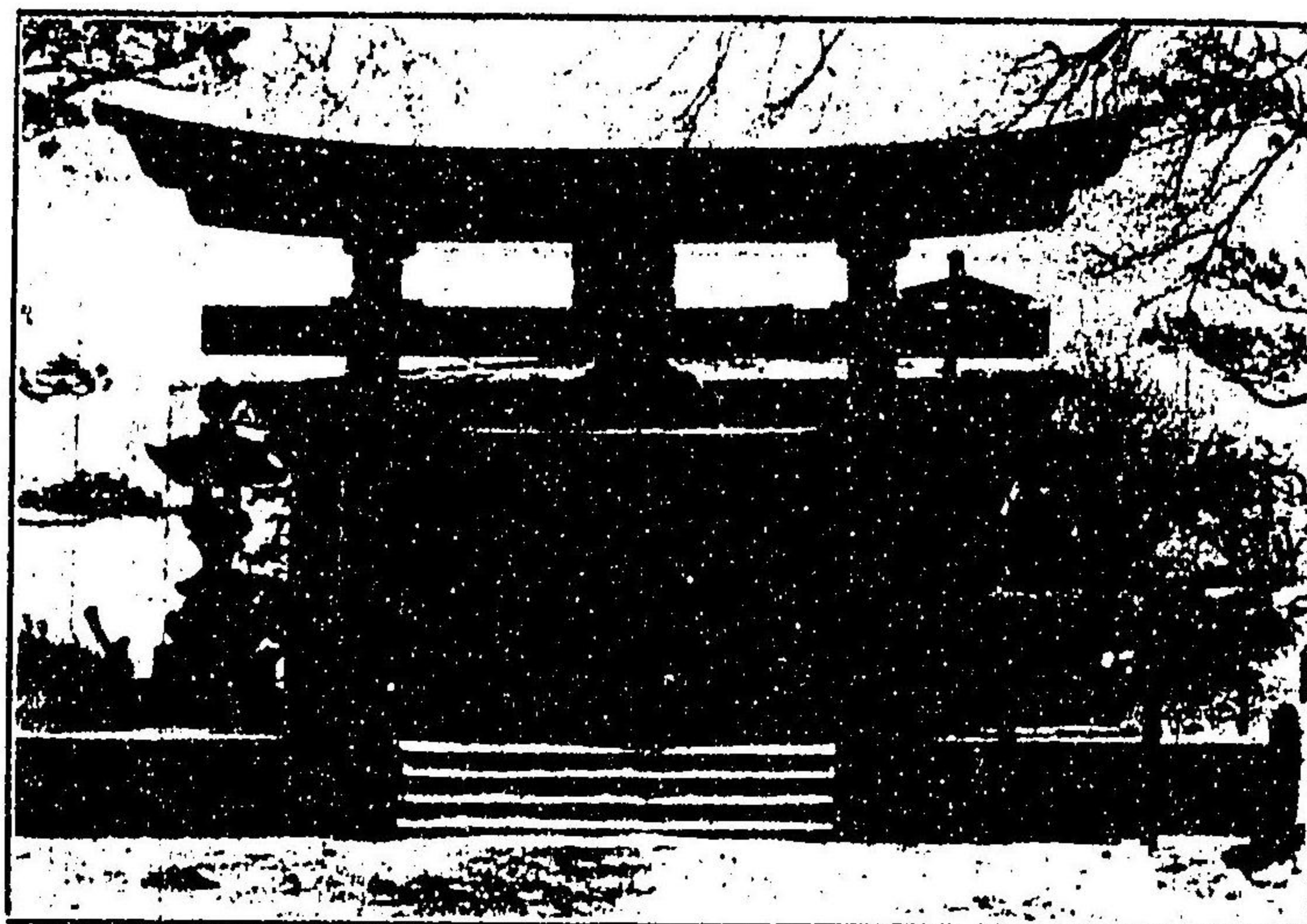
(一)壯瞥村沿革及地勢概況……………(二)壯瞥瀑布……………(三)洞爺湖深淺……………

第二十六章 虻田郡の概況……………一九一

(一)虻田村狀況……………(二)虻田村沿革……………(三)北海道舊土八實業補習學校……………(四)虻田第二尋常小學校……………(五)洞爺湖の風色……………(六)虻田郡加藤農場沿革概況……………(七)眞狩村加藤農場概況……………(八)眞狩村沿革狀況……………(九)辨邊村概況……………(一〇)……………

室蘭大觀二版目次終

辨邊村沿革……(一)狩太村の概況……(二)俱知安村の概況(一三)會我農協
 第二十七章 幌別郡の概況……………二二六
 (一)幌別郡各村の地勢及概況……(二)幌別村沿革及概況
 第二十八章 白老郡の概況……………二二八
 (一)白老郡各村の地勢及狀況……(二)白老村沿革及狀況
 第二十九章 王子製紙株式會社苦小牧工場……………二三一
 (一)苦小牧工場創設概況……(二)王子製紙會社苦小牧工場水力電氣工事
 第三十章 勇拂郡の概況……………二三六
 (一)勇拂郡各村の地勢及概況……(二)苦小牧沿革及狀況……(三)苦小牧村の
 前途に就て……(四)安平村の狀況
 第三十一章 結論……………
 (一)結論……(一)第一政府の決行を促さんとする件(二)第二室蘭町民の決
 起を促さんとするの件
 附録 實業家畧傳 ◎ 營業之案



八幡神社 (通幌札)

八幡神社は明治六癸酉年八月譽田別命を奉祀す室蘭郡元室蘭村字ベキリウダに安置の金刀比羅大神及び室蘭港字トキカリモイに安置の保食神を合祀して明治八乙亥年に至り郷社と公稱す社殿は本殿表口二間奥行一間三尺拜殿表口四間奥行三間境内の坪敷五百八十坪境外の所有地として山林千五百坪宅地二十坪あり社司は佐藤守雄氏にして氏子二百餘人を有す而して刻下社殿及び社務所を新築するの經營案成り其の工費約三萬圓を要し各有志家の盡力に因り進行中なるを以て明治四十二年中其起工を見るに至るべしと云ふ上欄の寫眞は舊社殿の紀念として之を撮影し永久に傳ふるものなり



曾我農場主
貴族院議員子爵曾我祐準君



製鐵起業先見家
故子爵榎本武揚君



私設母戀市街主
貴族院議員子爵本憲武君



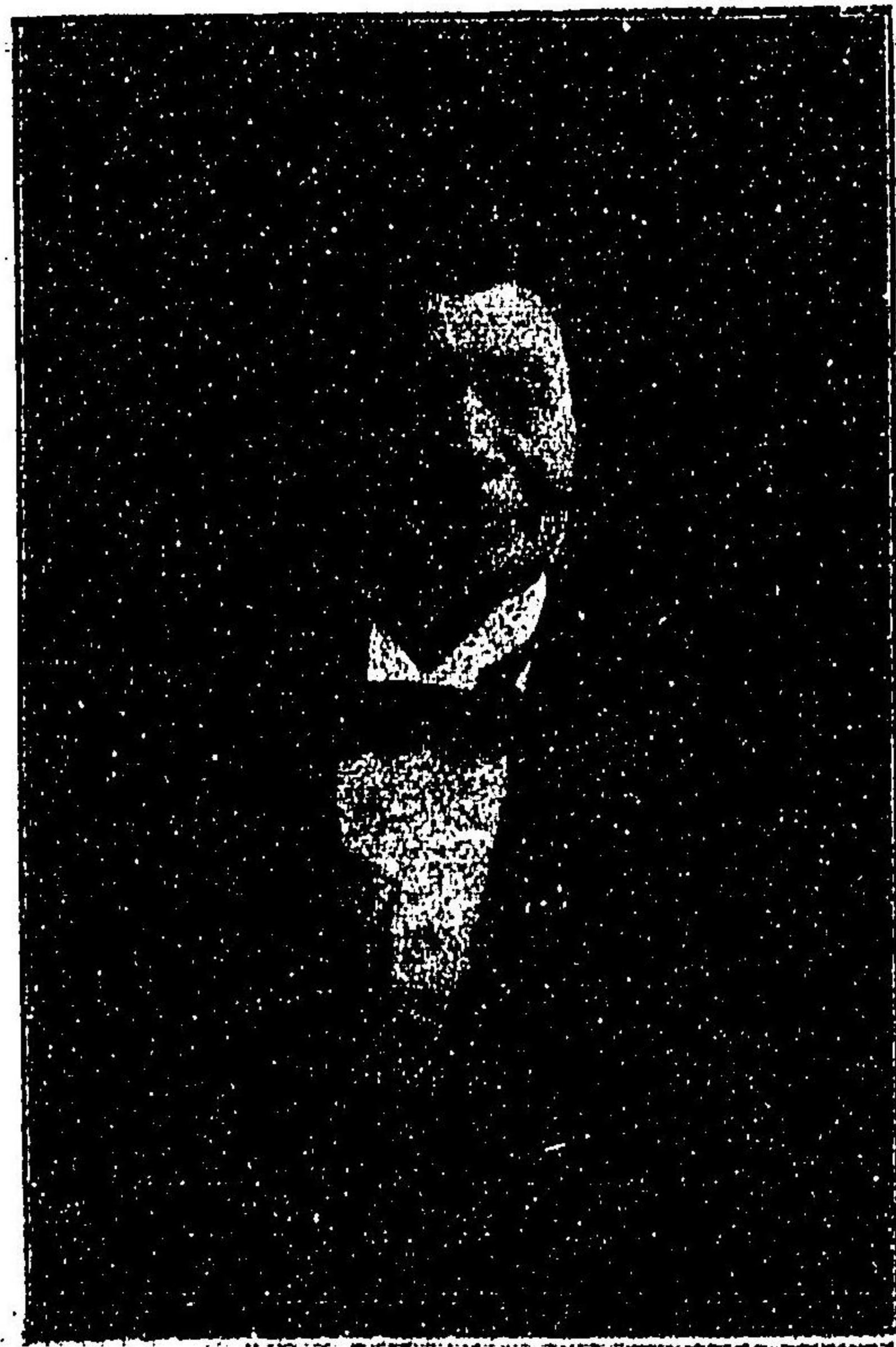
加藤農場主
子爵加藤泰秋君



日高農場主
男爵日高壯之丞君



前石狩石炭株式會社重役
男爵前島密君



帝國製麻株式會社取締役
大倉喜八郎君



男爵片倉景光君



室蘭支店長服部慶太郎君



眞狩太農場主
日本郵船株式會社社長藤廉平君



北海開拓先家
田村顯允翁



北海炭礦船株式會社
室蘭製鐵場工場學士江藤三君



君雄朝 谷長會業實蘭室



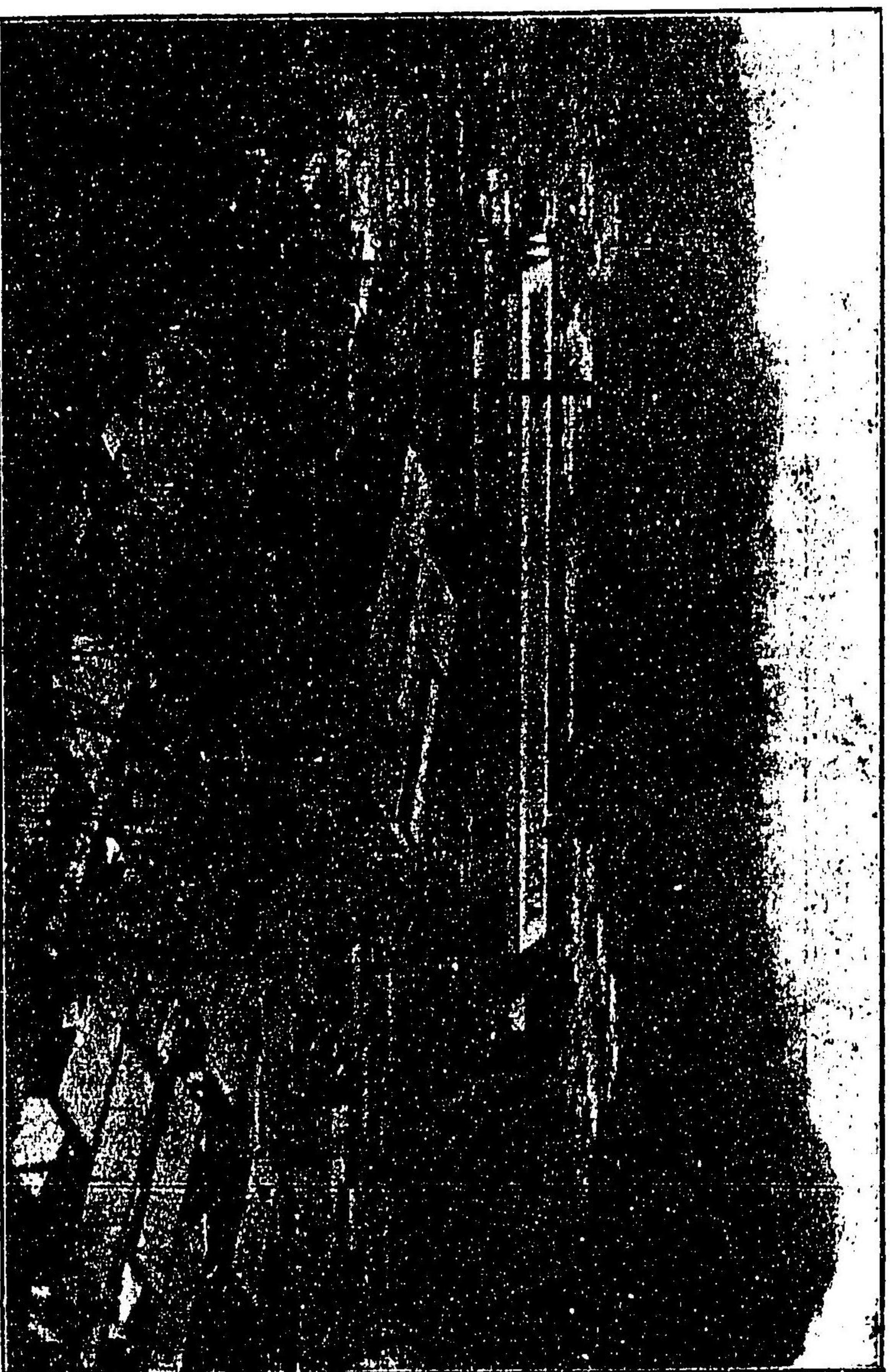
君湖五林栗員議會道海北



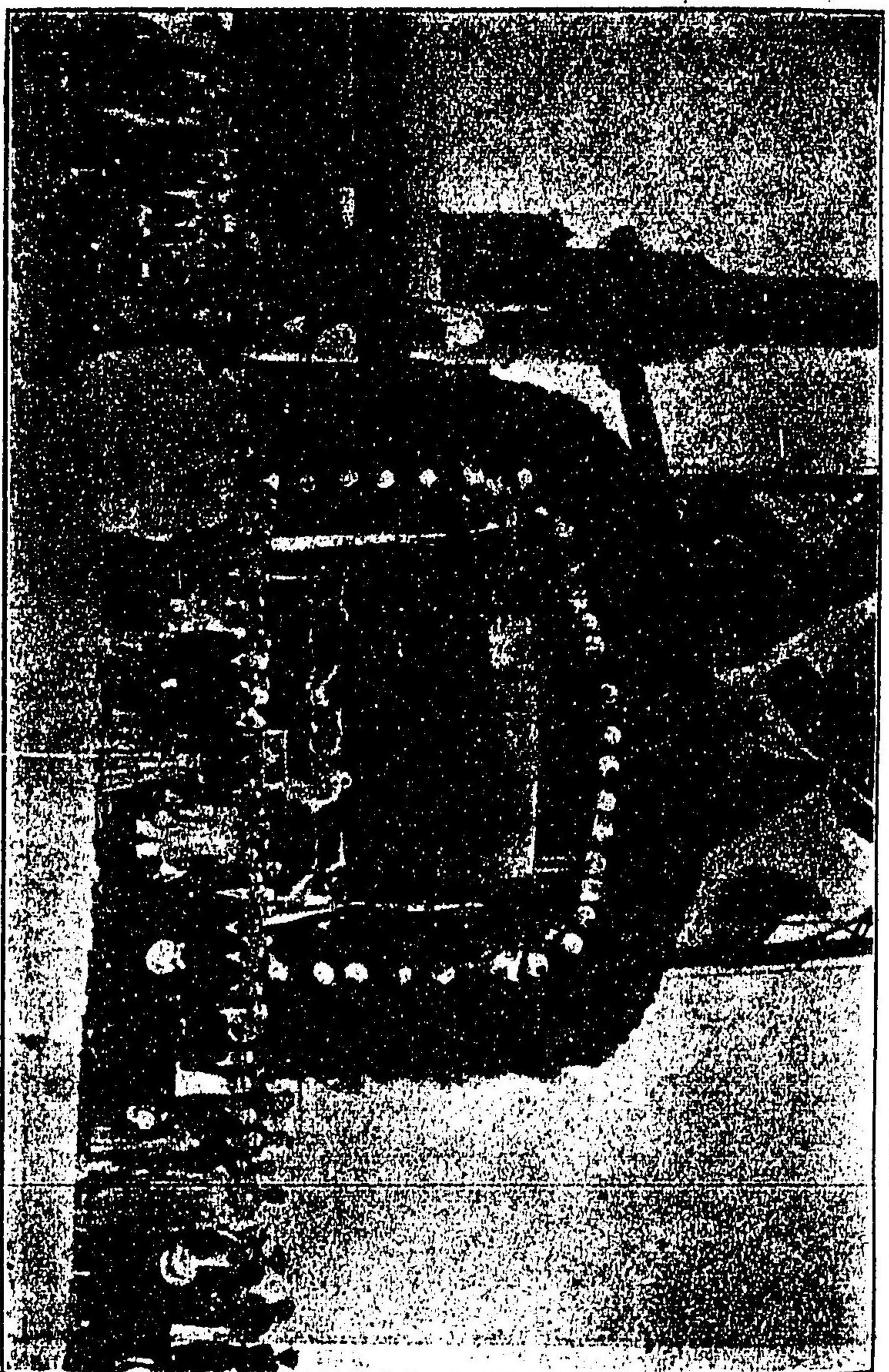
室蘭町立病院副院長
板澤庄五郎君



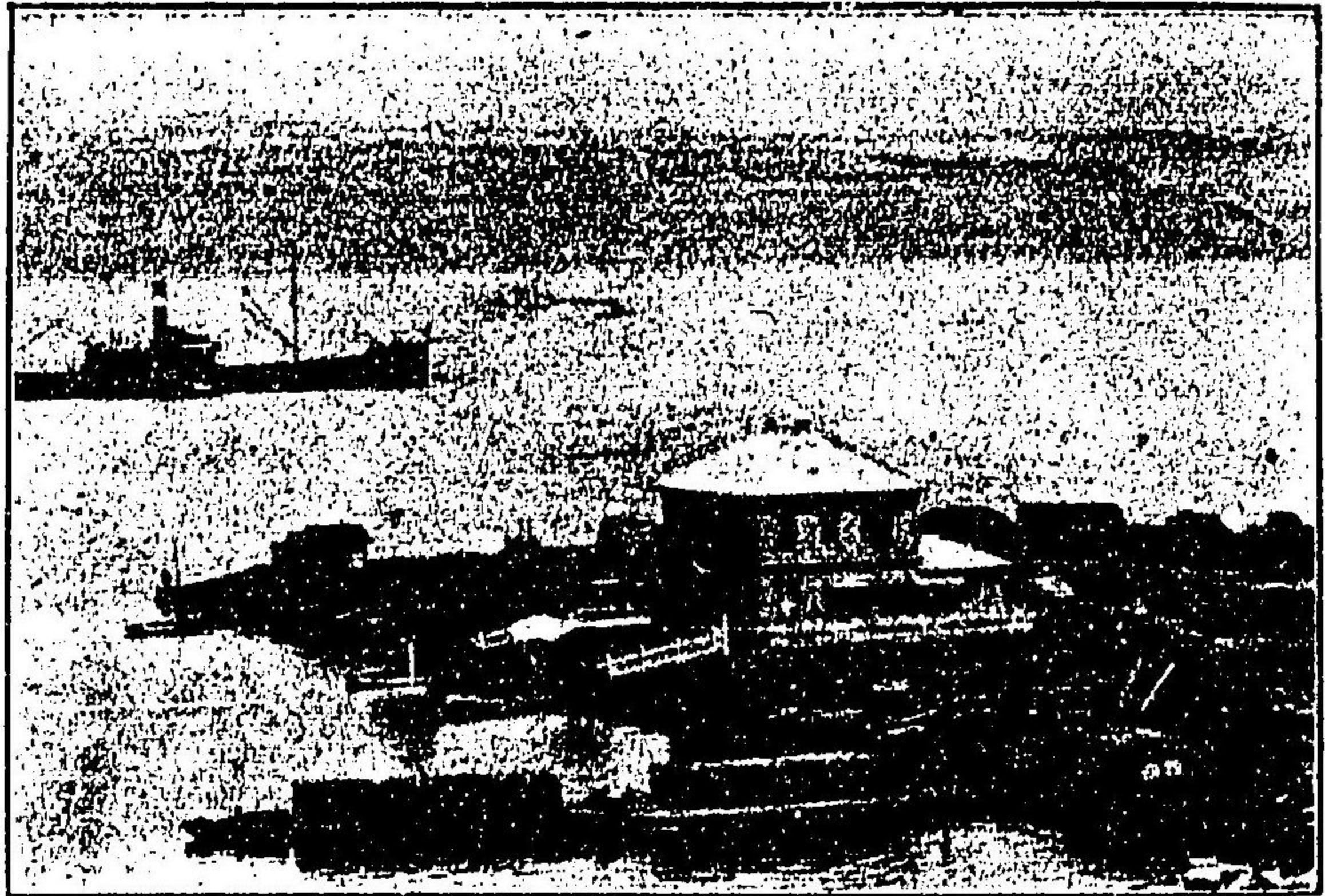
室蘭町立病院院長
醫學士中田好治君



(總 世) 景 全 所 鋼 製 本 日 社 會 式 株



(街市西繪) 場 式 火 燈 場 鐵 製 蘭 室 社 會 式 株 船 流 礦 炭 道 海 北



(前場止波) 署支關稅蘭室



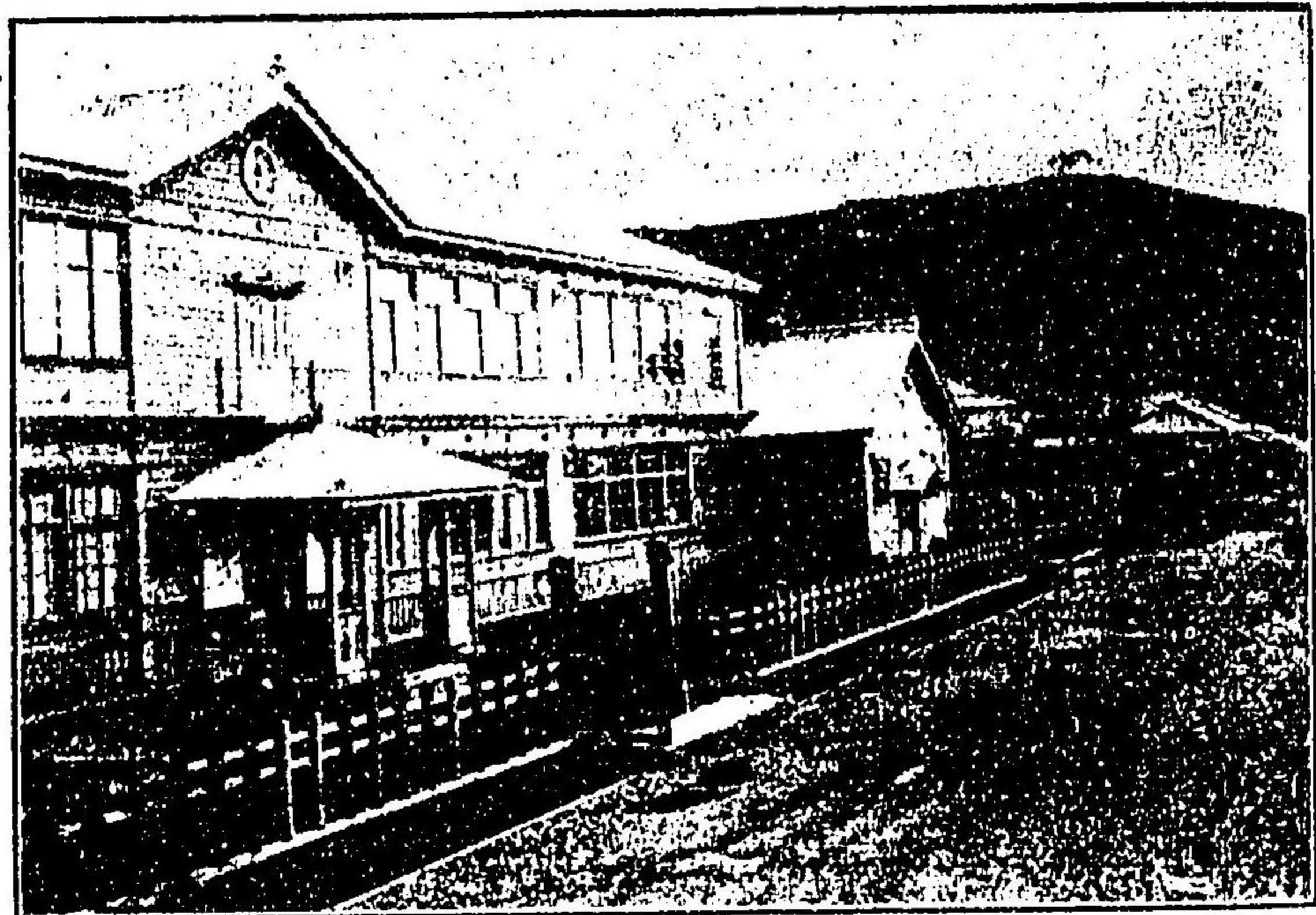
社會式株炭石狩石
(村川登郡張夕) 場車停谷の鹿張夕新



(戀母) 頭埠所鋼製本日社會式株



(岩 菜) 橋棧架高內構驛蘭室管所院道鐵



(町本) 校學小常尋揚武立町



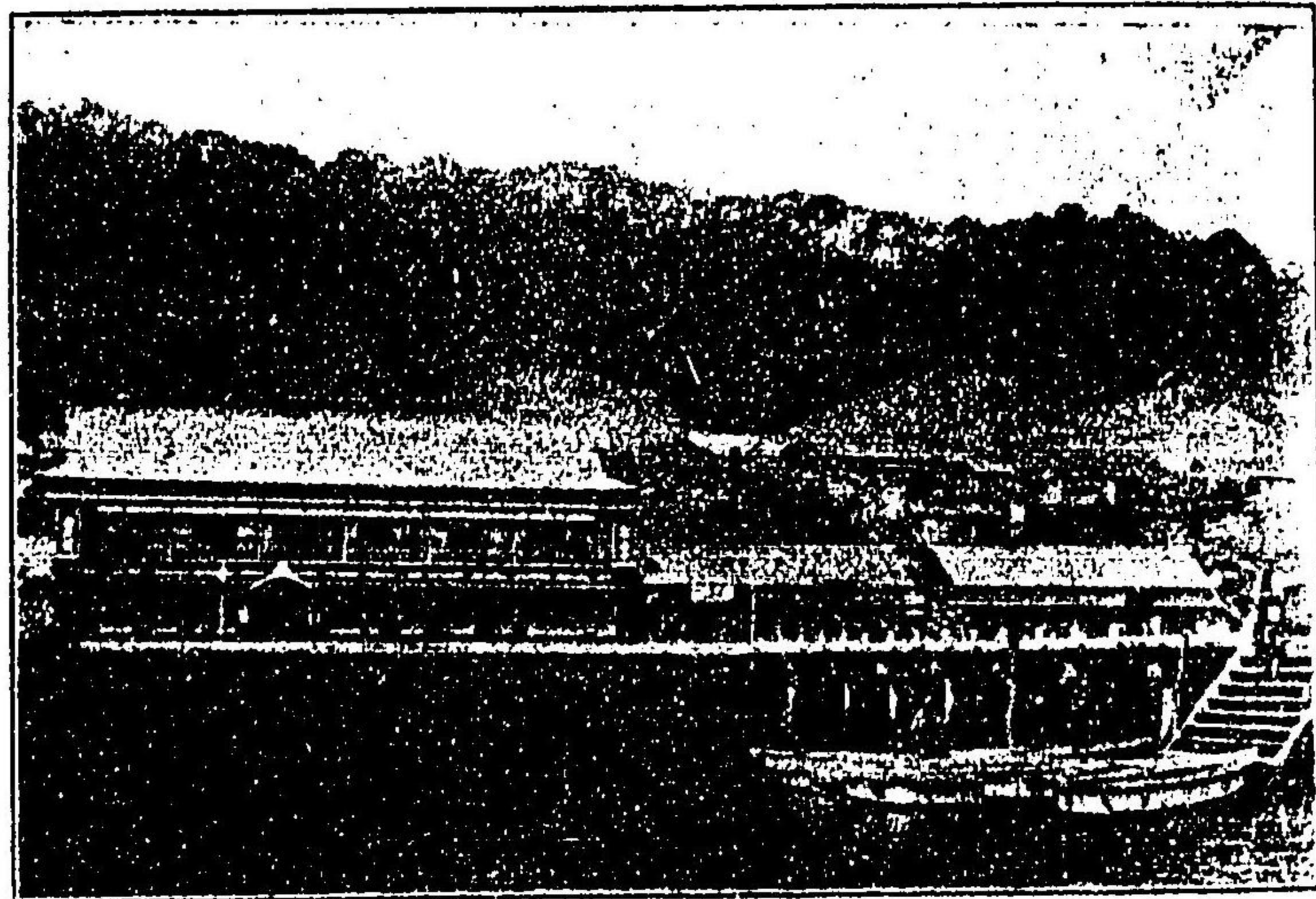
(町盤常) 場役町蘭室



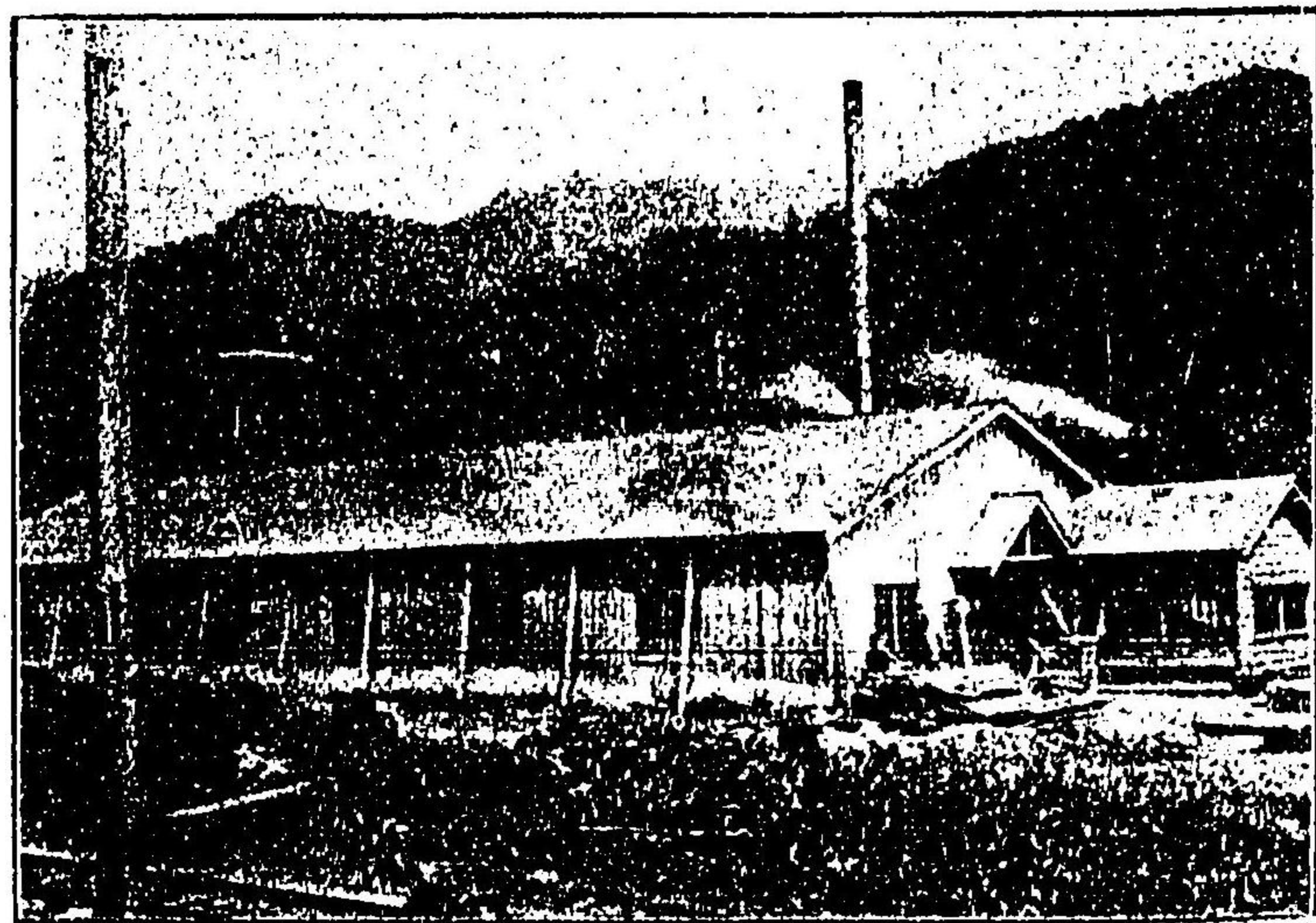
(村川登郡張夕) 宅社張夕新社會式株炭石狩石



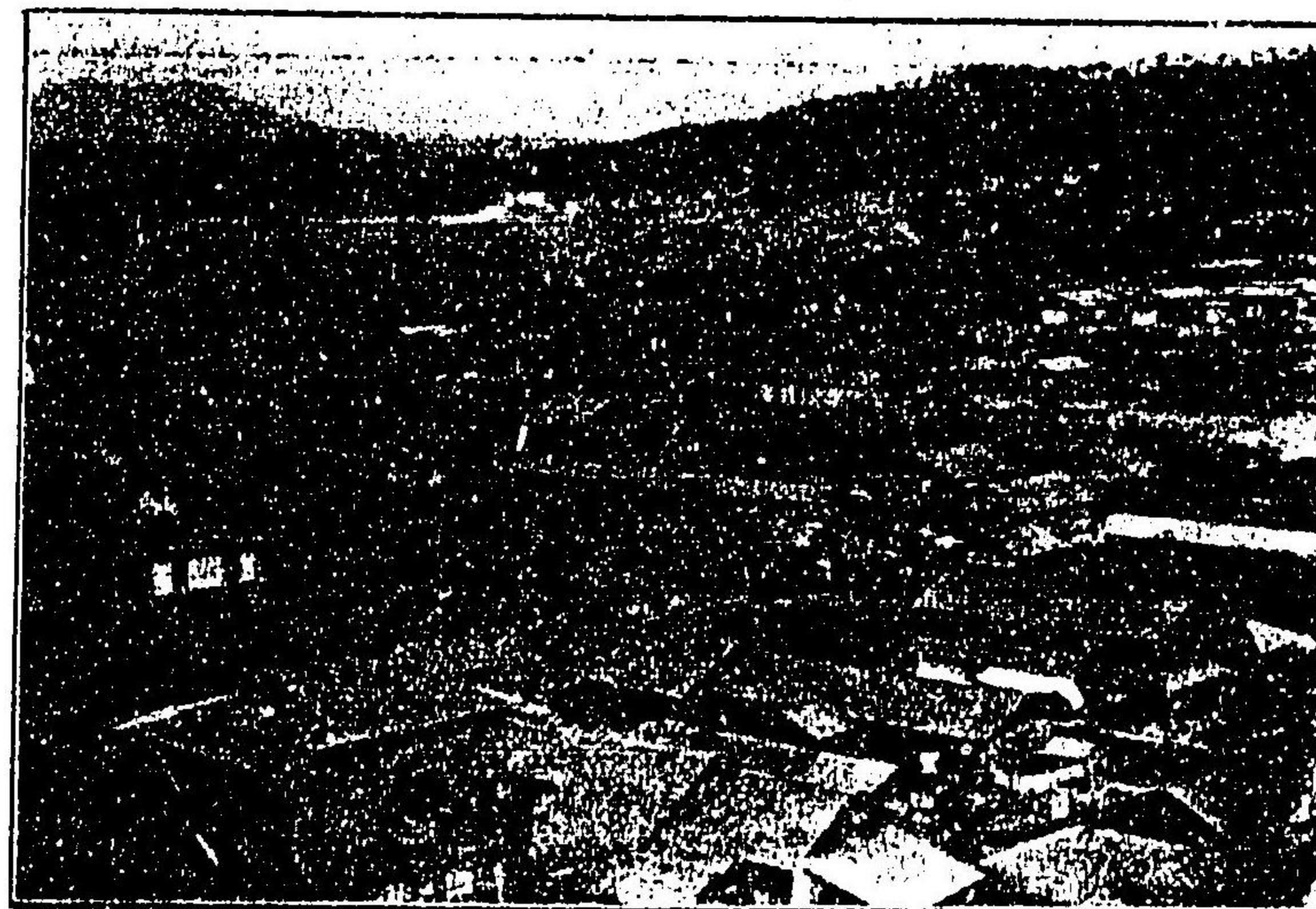
(戀母) 校學小常尋德成立町



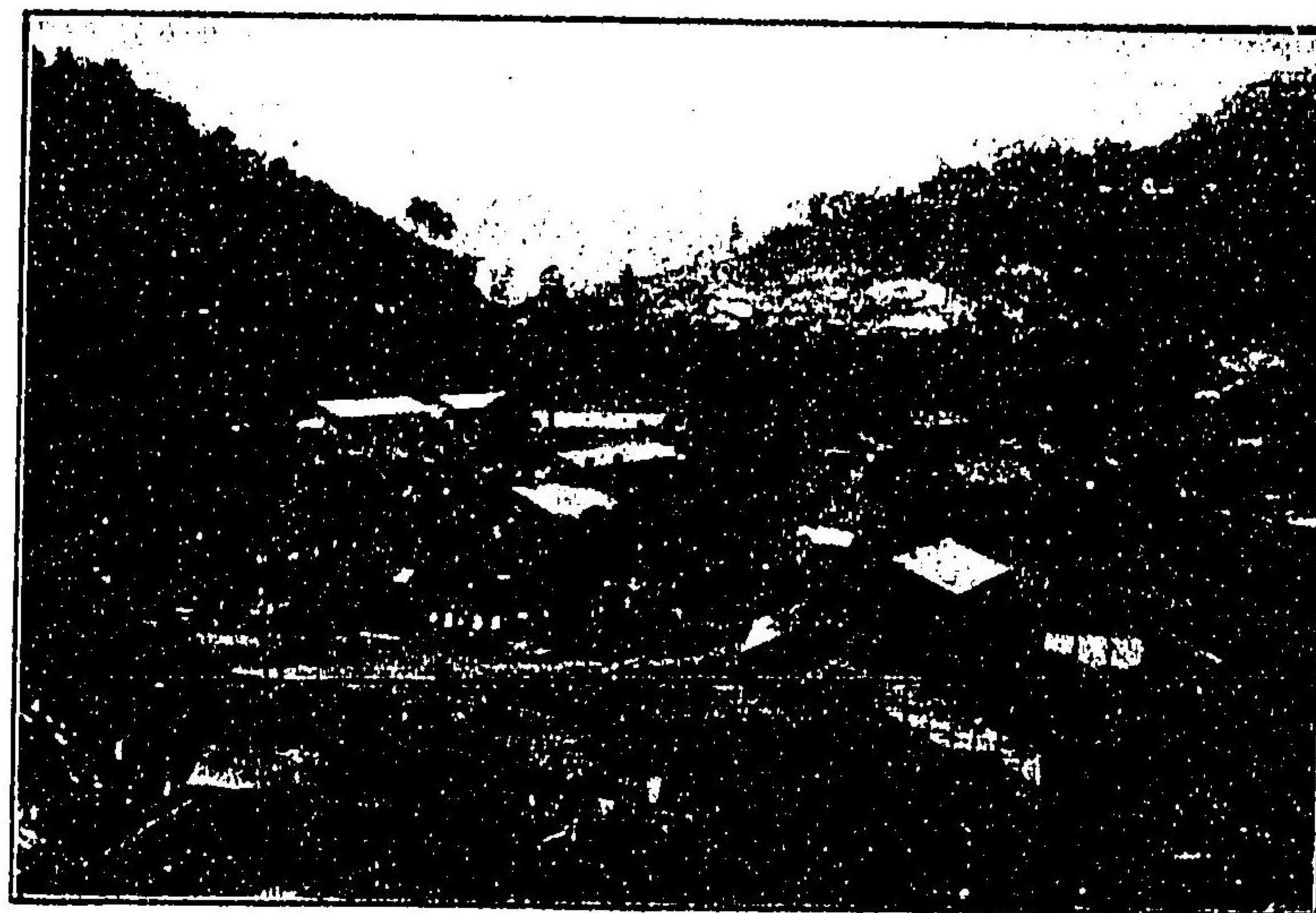
(町岸海) (番七三話電) 新多本館成創本丸館旅



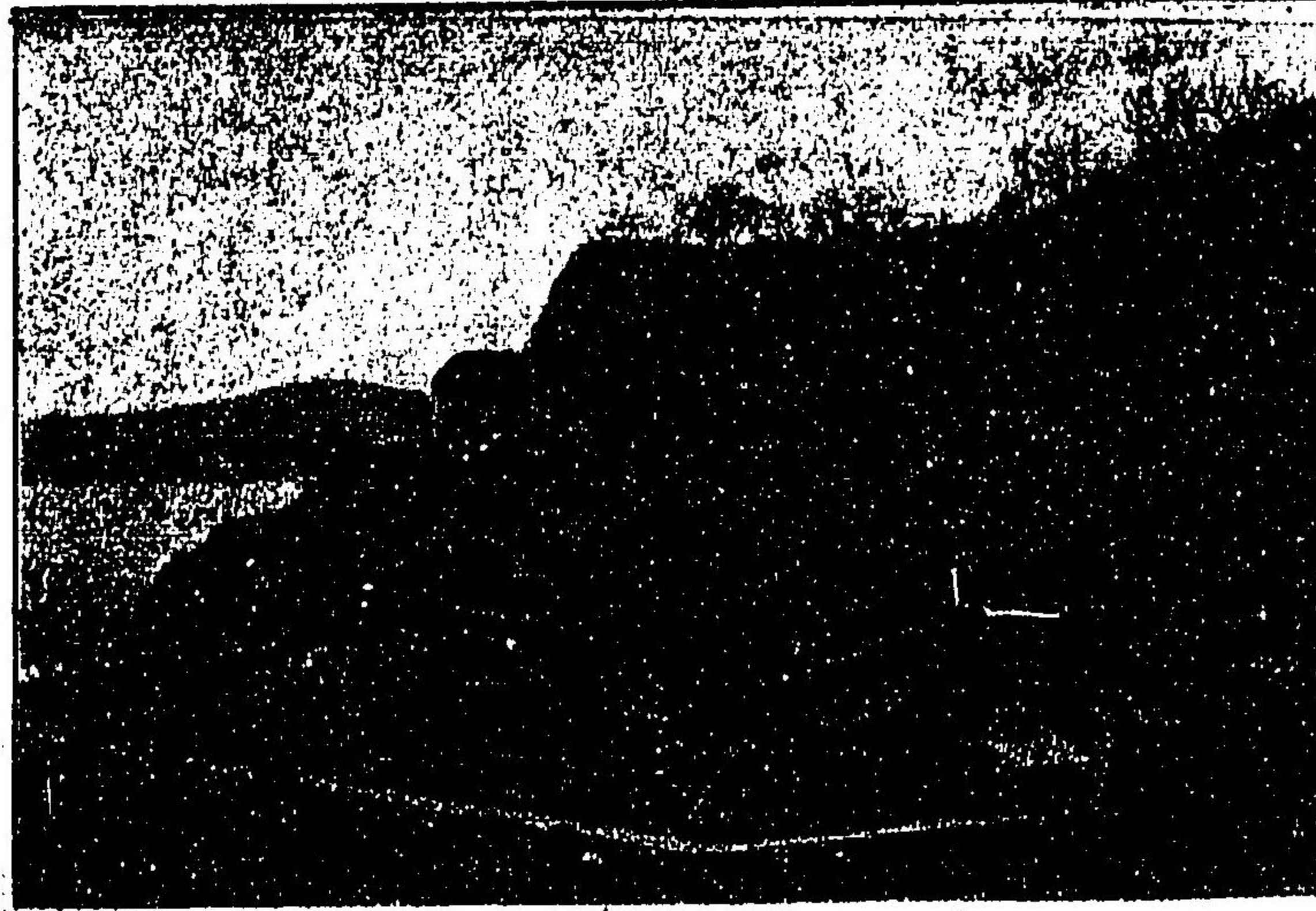
(村川登郡張夕) 場工張夕新社會式株炭石狩石



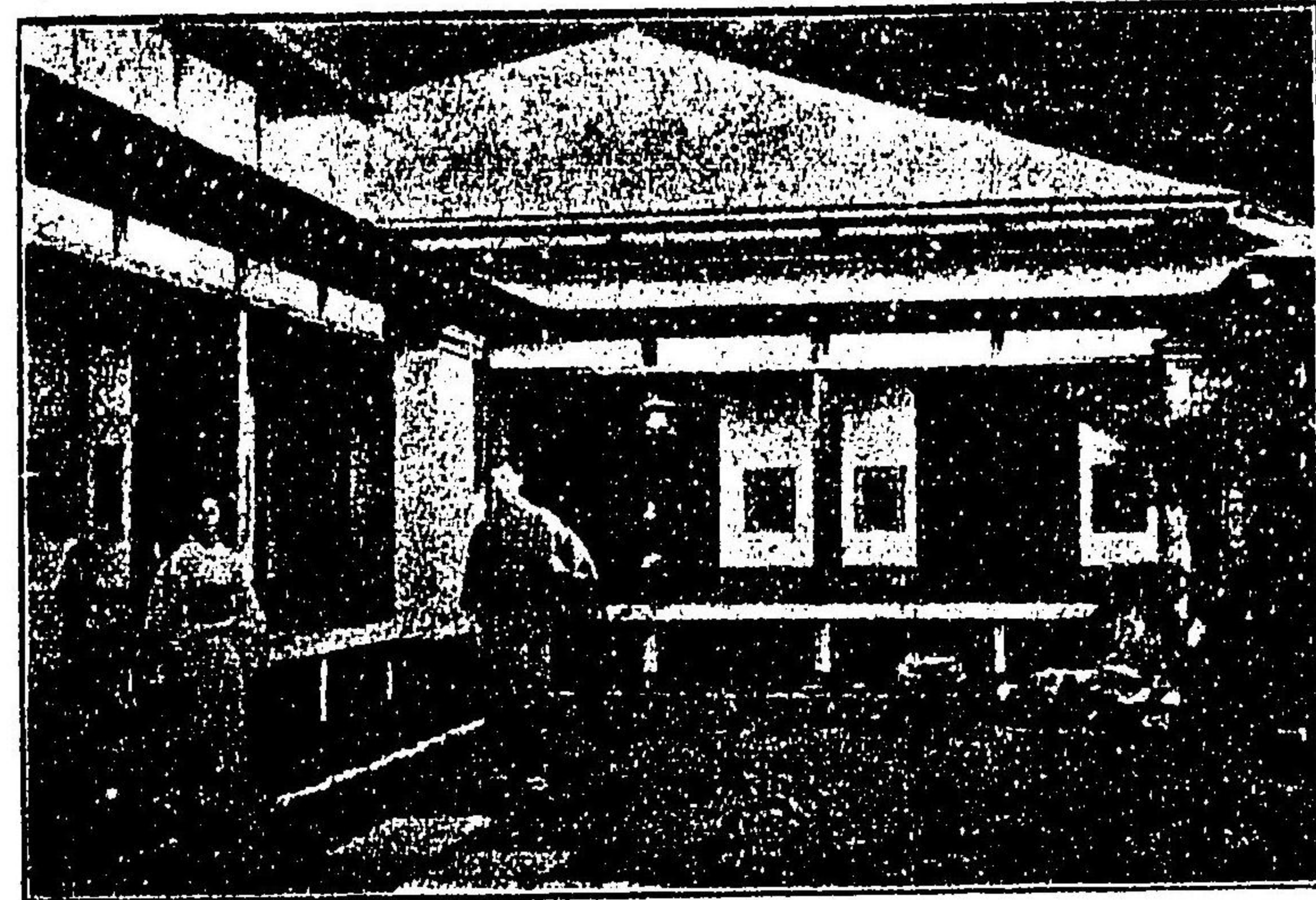
(街市戀母) 街市設私家爵子本榎



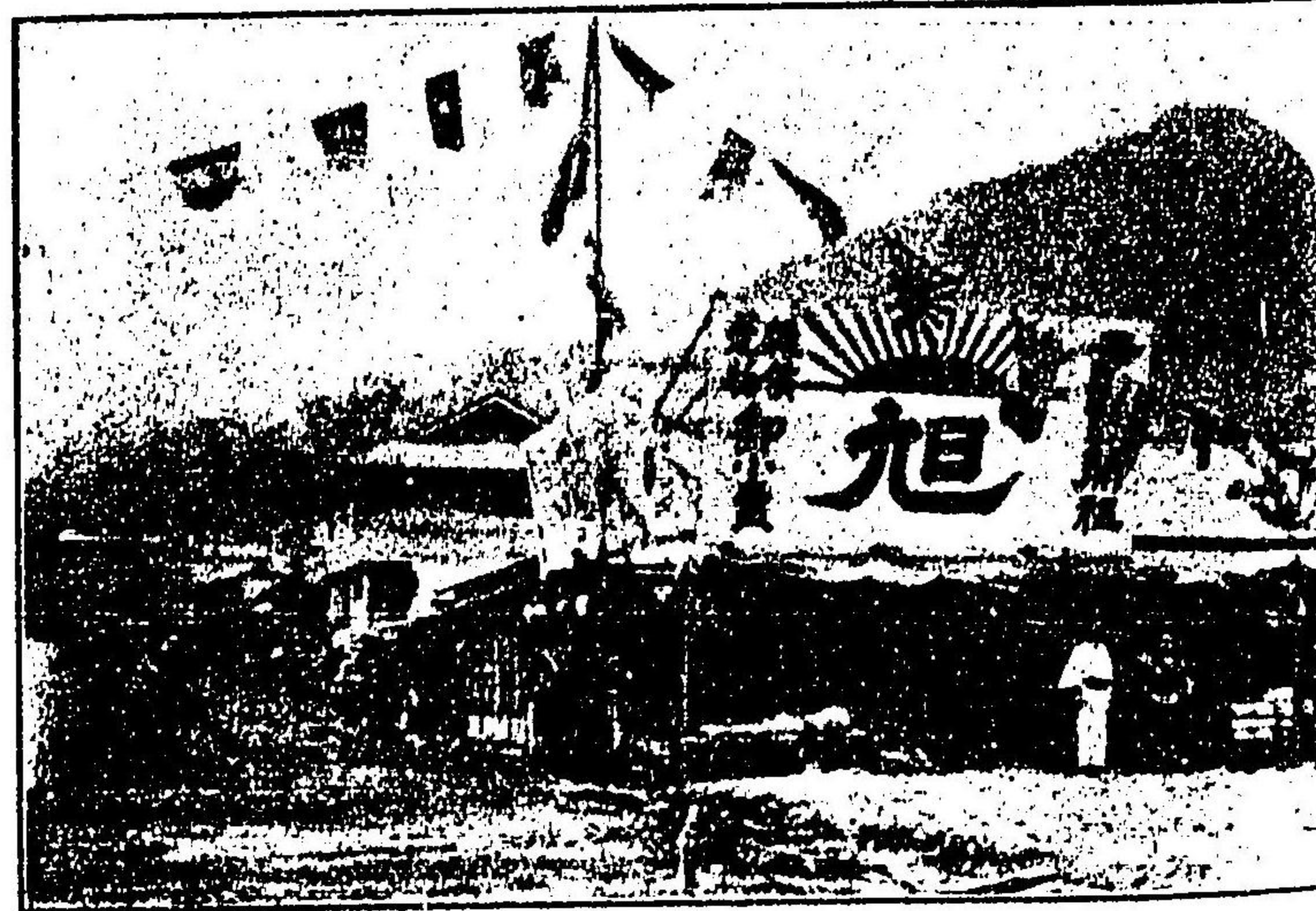
張夕新社會式株炭石狩石
(村川登郡張夕) 景遠街市及屋長夫坑



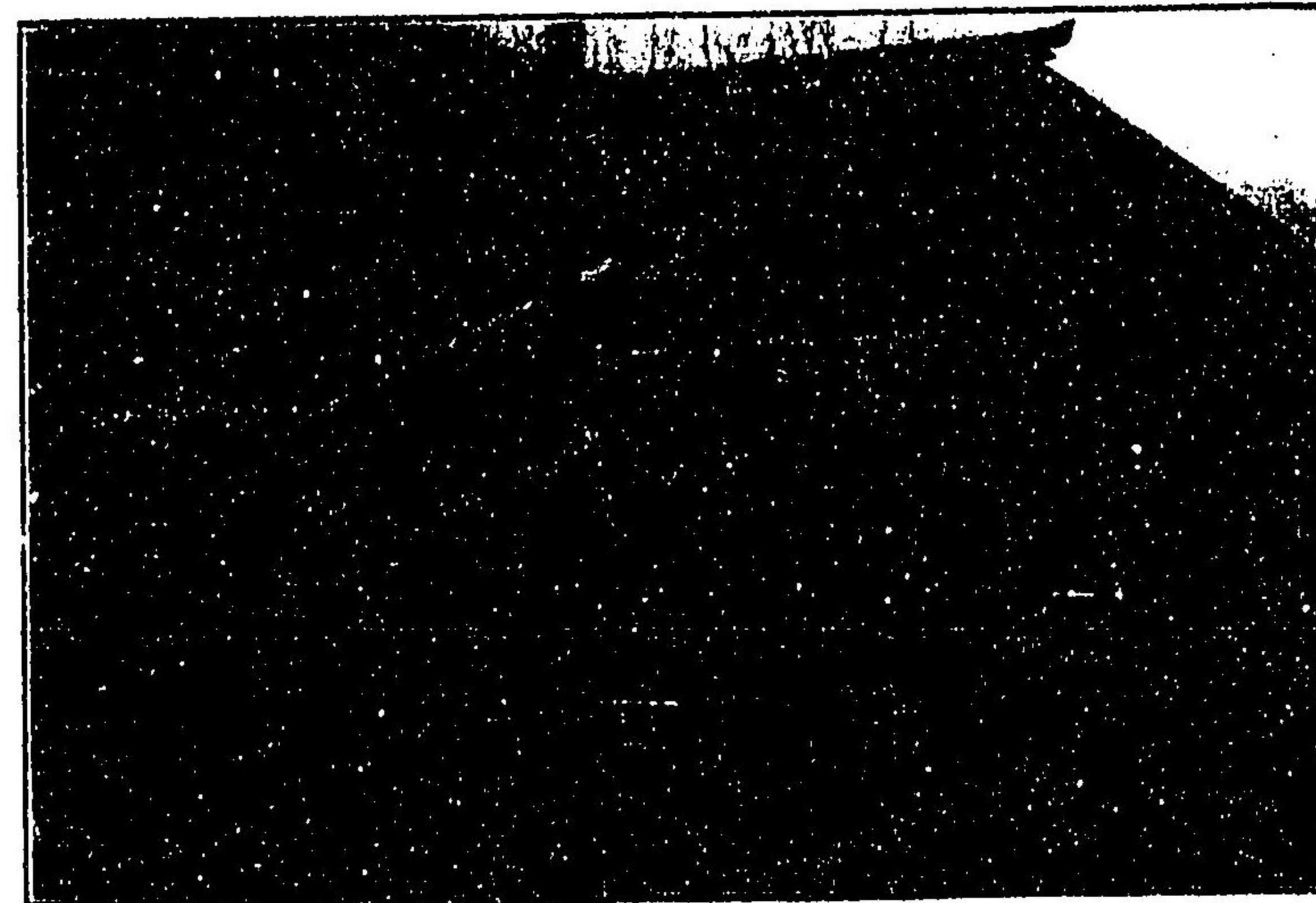
(町盤常) 宅邸氏朔五林栗



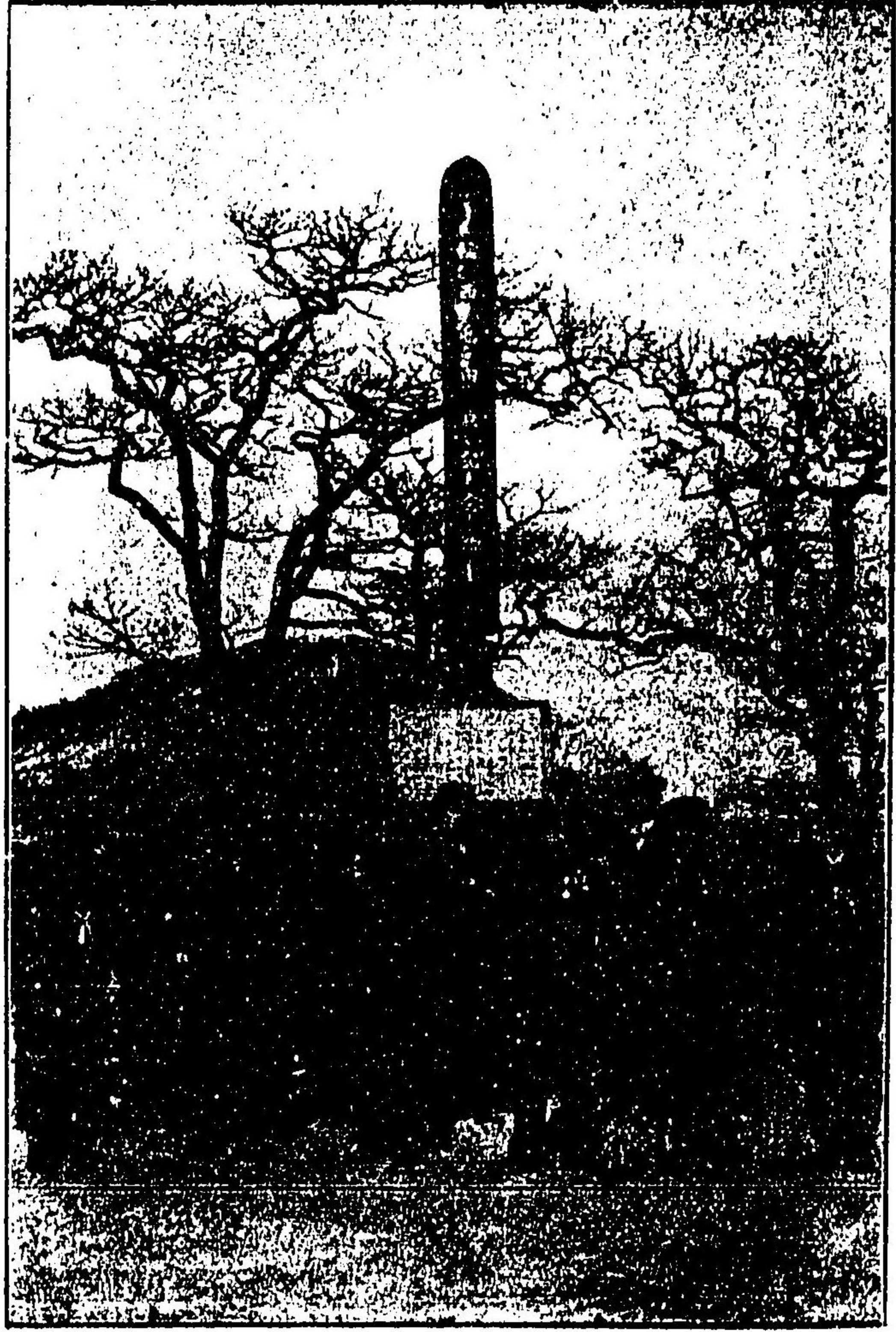
(町盤常) 宅邸氏郎治宗澤中



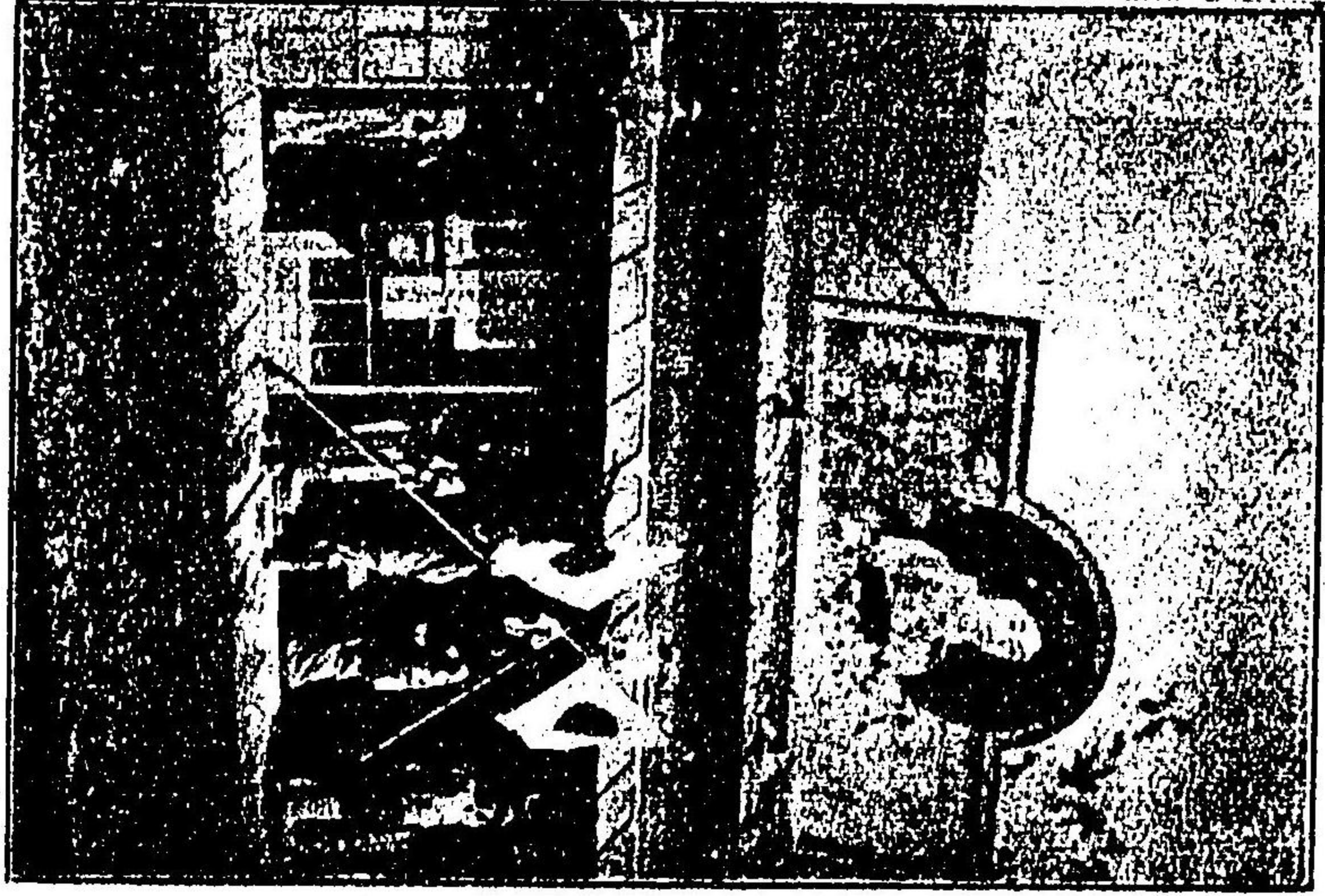
(戀母) 店商德存岸小旭



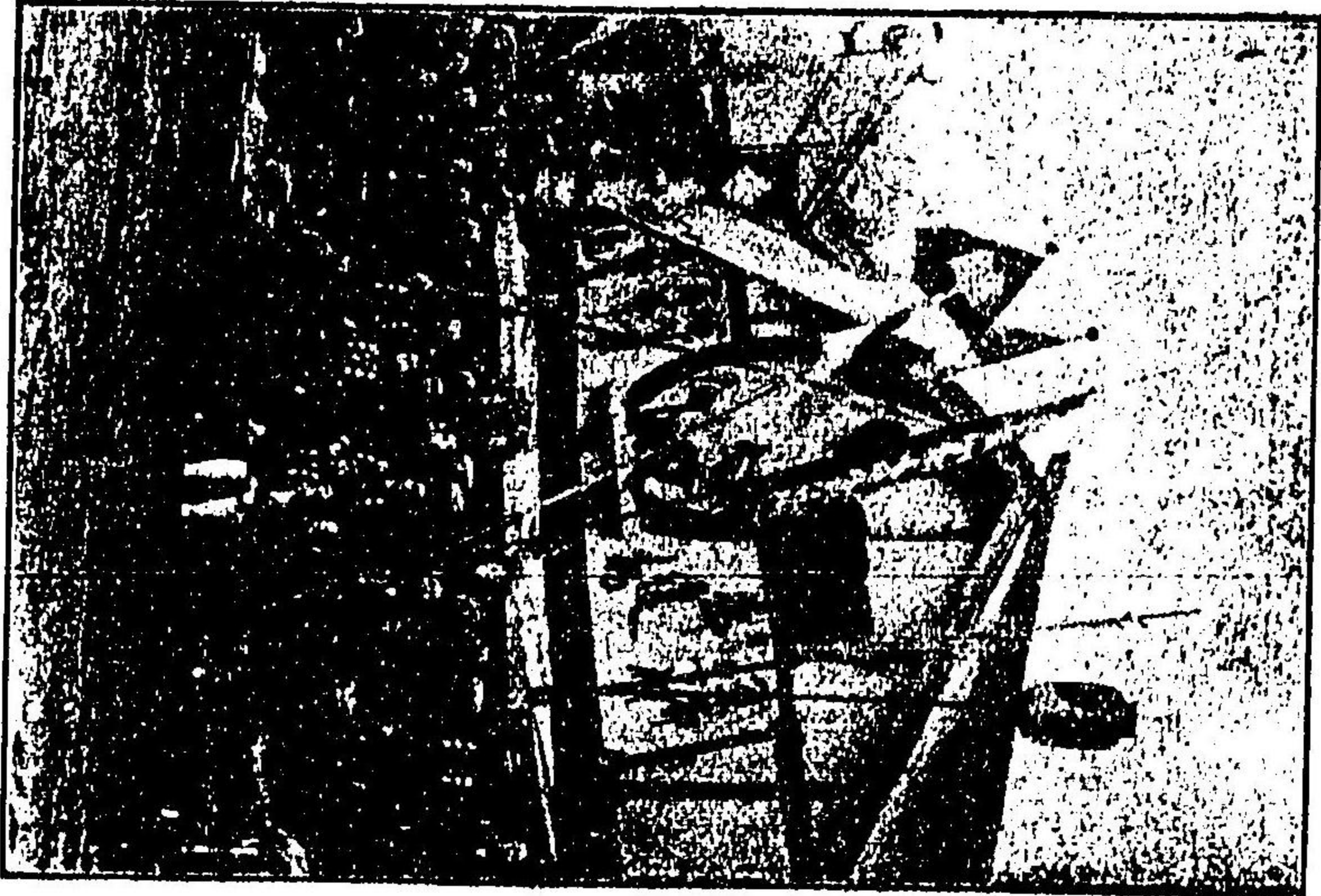
(町澤) 店商吉茂山青



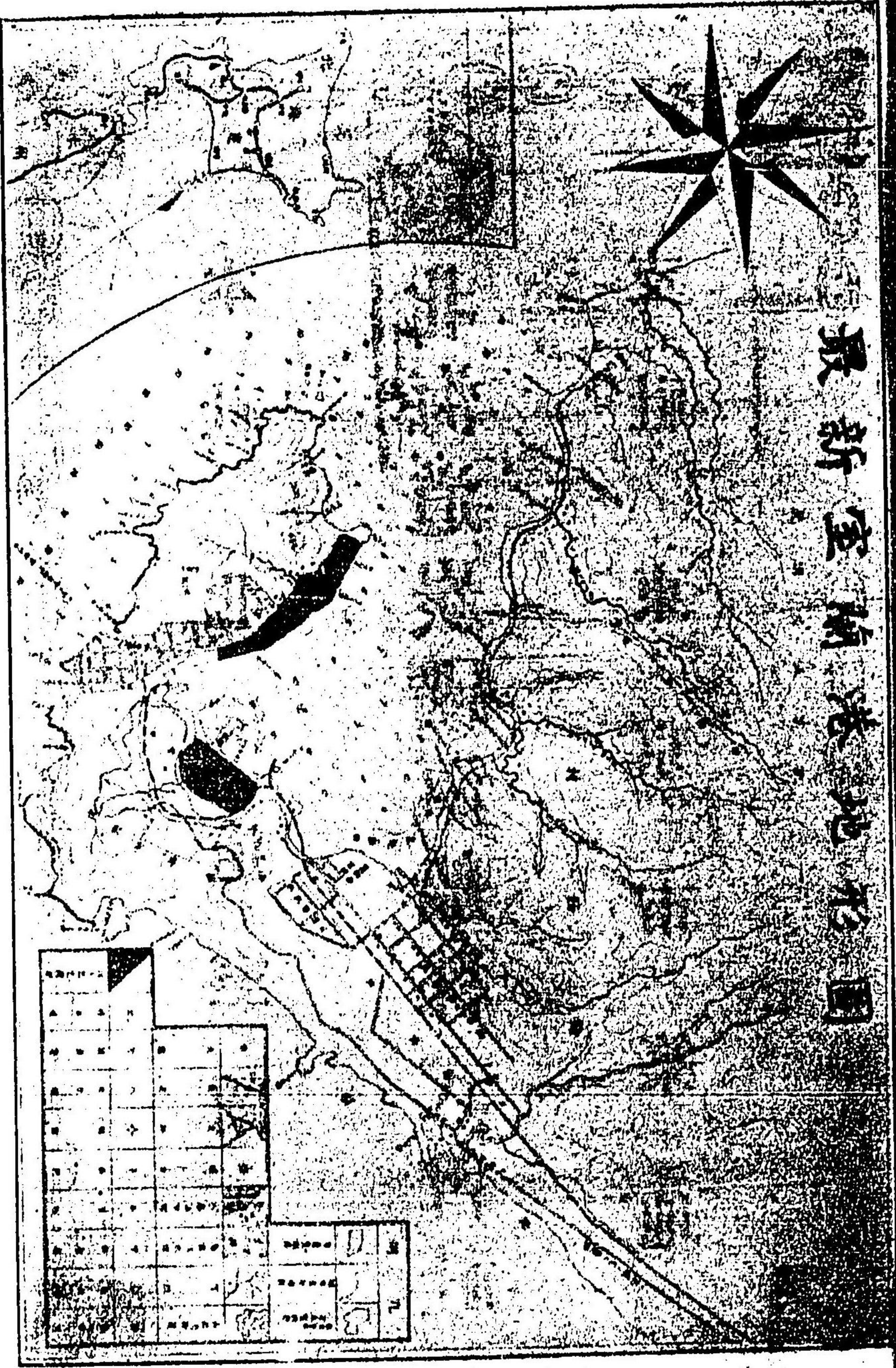
(村四輪) 碑 念 記 兵 田 屯 西 輪



(通曉札) 店 商 一 幸 井 白



(通曉札) 店 商 保 久 小 屋 部 南
(番八五話電) 賣 小 卸 物 屋



最新室蘭港地形圖



(町橋通寺禪定市塞仙)

宅郎氏郎次忠本橋

本社 北海道室蘭港

★ 北海道炭礦汽船株式會社

支社 東京市築地

室蘭大觀

渡部義顯著

緒論

沿革及地圖

國家の繁榮を望まば先づ其の富源を培養せざるべからず苟も國家の富源を培養せんと欲せば必ず先づ産業を振興し商工業を發達し及び運輸を開通し貿易を啓かしめざるべからず此等の實績はして國格大ならずんば其國決して富むこと能はず我國古來士人を貴び實業家を申しみたるの遺習は今日に至るまで脱却せず而かも産業を力めず空論放言俗人を瞞着し以て處世の道を樹てんと欲する者を生ずること多きに至れるは寔に慨嘆は堪へざるなり

惟ふに輓近英國の世界に雄飛する所以のものは商工業の旺盛通商運輸の隆昌なるに基因するや論なきあり明治維新以來我政府は既に一億餘圓の開拓費を投じ北海道拓地植民に汲々として日も尙ほ足らざるが如きは實業を振興し富實を増進せんことを期する

に外ならず今や北海道拓植事業日に月に開發の域に進み富強の實を擧げんとするの状況を呈するに至りたるもの豈に夫れ偶然あらんや
 顧みて北海道に於ける各港灣の實況を觀るに函館小樽の兩港は海陸の設備稍々完成したるものゝ如くなるも吉岡、江差、瀬棚、壽都、岩内、石狩河口、留萌、稚内、枝幸網走、根室、釧路、浦河港の如きは未だ何等施設する所なく唯僅かに本道幹技線たる鐵道の竣功を待つて交通の途を啓かんとするものゝ如し然れども室蘭港は此等諸港に先ち海陸の設備殆んど備はり本道の一大商港として世界に雄飛せんとするの勢ひを示しつつあり

今日以後の室蘭を組織する者殊に内地府縣の實業家及び青年諸士北海道開發の爲め奮つて身を商業、工業、捕漁、採鐵、養蠶、製材或は牧畜、運輸殊に貿易等殖産致富の事に従ひ間接に直接に國益を増進することを爲さば國家の慶事之れに過ぐるものあらざるなり蓋し大志を未來に遂行せんと欲する青年若くは北海道に於ける遺利を收拾し以て商工業其他の實業に身を投せんとする者の爲めに北海の關門たる室蘭を紹介するの趣旨實に室蘭を利用するにあり讀者此書に據りて實業を興起するあらば邦家を益すること蓋し鮮少ならざるべきを信する也

室蘭の沿革

北海道は昔時樺太千島等を併せて蝦夷と稱し愛憎人の棲息する所たり其地僻遠にして水旱兼憂に委せしと雖も王政の及ぶこと甚た久し天正十八年豊臣氏徳山の城主武田信玄四世の孫慶廣に命じて蝦夷及び松前を統轄せしむ寛政十一年十一月幕府南部津輕の二藩に蝦夷地警衛を命ぜらる即ち南部侯兵五百を出し室蘭港の北岸「ベキロウダ」に陣屋を設けて室蘭灣を成る之れ内地人が本港灣に移住せし始めなり交通無比の要津たる室蘭港も昔時は「トキカリモイ」と稱し愛憎人周哲波帶捨九郎なる者の二戸にして内地人の移住せる者なかりしが安政三年南部人播磨利吉なる者舉家繪鞆村に移住し漁業を營みたりと雖も鵜飼獨り販ひて人聲稀れなる常態にあり越へて明治元年徳川氏の脱兵二百餘騎鷺木を犯さんとして灣内に其艦勢を整ふるに迫り水禽夢醒めて鷗郷又昔日の安を得ざる事あり而して室蘭郡は三年仙臺藩公族伊達邦成氏の支配となる五年開拓使北海道經倫の策を樹つるに及んで山河の形勢に察する所あり「トキカリモイ」を室蘭と改め汽船稻川丸を浮べて渡島半島の森港に航路を開きたり荒漠無人の地たる室蘭は當時一の宿舍あるなく草舎點在して閑寂を極めたり此歳官設ホテル創立せられ次て埠頭の築造を行ひ室蘭札幌間の道路を開墾せり以來頓に殷盛を呈し風を望んで移住するに

到れり其後山形、秋田、青森等の諸縣より數百人の移住者わり此に於て忽ち小市街を形成せり之れと同時に開拓使は勸業課を設置して建築材を製出し傍ら造船業を興すに至れり當時函館より札幌に輸送の貨物は専ら室蘭を経過するに依り運輸輻輳頻繁を告ぐ六年汽船幸未丸を加へて運輸の便に供せり又郵便電信局或は諸官衙の設立を見たり九年有志者率先して小學校を建つ其後人口増殖して整然たる市街の體裁を具ふるに至りしが十一年函館小樽間の航路開け旅客及び貨物は室蘭を経過せず小樽より札幌に輸送するを得十三年郡區改正と共に郡政を布き室蘭外六郡役所を置かる十四年札幌小樽間の鐵道開通するに及んで一大打撃を受け市況振はざるのみならず住民漸次減少するに至る此歳八月天皇 東巡し青森より海を踰へ札幌に幸し還幸に際し室蘭港に驛を駐る一日にして海路青森を経て東京に還幸せらる十五年廢使置縣と共に開拓使工業局室蘭出張所廢せられ室蘭外六郡は札幌縣の管轄に歸し室蘭郡役所は室蘭外六郡を統轄すもこと斯の如し爾來縣制施行せられ町民の權利を増すと共に負擔の義務重きを致し不景氣の聲高く十八年に至り戸數一百四十餘戸に減じ市況衰頹頗る杞憂の狀態に變せり十九年輪西村に屯田兵設置の舉あり二十年兵員一百十戸の移住ありて幾分活氣を添へ二十一年北海道炭礦鐵道線路延長の發表ありて遽かに人氣を挽回し隨て地價暴騰の徵候を呈し鐵道工事の著手と俱に又一層の繁盛を添へ二十二年屯田兵百十戸の移住あり

二十三年第五鎮守府設置の發令あり又從來應料に製造せし鱈鮫其他の雜魚類生魚の體積に輸送せられ新たに物産の販路を啓らくに至りしと共に此年を以て鐵道工事の工の爲め多數の職人工夫等群住したるに依り明治十五年以來衰微の一方にのみ傾きたる本港の市況も俄然活氣を呈し港民稍々愁眉を啓くに至れり同年有志者離金して常盤小學校の改築を爲す二十四年輪西村に簡易教育所を設け舊土人に教育を施す是れ今の輪西尋常小學校の濫觴なり二十五年鐵道工事の落成を告げ運輸交通の便開け生魚の如きも僅に函館地方に販路を開かれたるに過ぎざりしも更に鐵道便に據て夕張空知方面に販路を擴張するに至れり同年港民共同して海面五千坪の埋立を爲し新たに市街を造る今の海岸町之なり二十六年第五鎮守府設置の件取消する同年日本郵船會社定期船函館室蘭航行の度數を増すと同時に青森との連絡を通ずるを得て生魚は内地に輸出するを得たるのみならず從來小樽を経て往復せし函館札幌間の交通は復た概ね本港を経るに至り隨て一層の盛況を添へたり二十七年法律第十號を以て特別輸出港に指定せられ同年北海道炭礦鐵道株式會社は輪西停車場より其の線路を延長して本港大字海岸町に至るの許可を得たり爲めに著しく進歩發達の度を呈し同年末に至り戸數七百二十八本籍人員千六百二十六之れに寄留者を合すれば其の人口實に五千を出づるに至れり然れども鐵道工事著手遷延すること二十九年に涉りたるを以て人口の増加は事業の發展に

伴はず往々衰微を來たせり二十九年鐵道延長工事及び之れに關連する海面埋立工事起り職工人夫又は諸商人等陸續來住し共有埋立地内に多數の家屋建築せられ三十年には港頭に鐵道の延長竣功するに至りたるを以て再び以前に倍蓰するの繁盛を呈せり斯の如く人口一時に増殖したるを以て學齡兒童の數著しく増加し遂に校舎の狹隘を告げたるに依り同年一月校舎新築し著手し三十年一月竣工せり同年又町立病院を新築す十一月北海道廳官制改革に據り郡役所を廢し室蘭支廳を設置し室蘭、有珠、虻田、幌別、白老、勇拂の六郡を管轄するに至り三十二年札幌區裁判所出張所を設置し後ち改めて室蘭區裁判所となり三十三年一級町村制を施行し室蘭町役場は嚴然として室蘭支廳管轄の下に行政の事務を執行するに至れり之れを要するに本港は其の進程龜行牛歩の感なきにあらざりしも天興の形勝は頻次の打撃に耐へ衰頹の後却つて倍蓰の發達を呈せり而して北海道炭礦鐵道及北海道鐵道の官營となり岩見澤室蘭間が枝線となりたるが爲めに稍や其の繁榮を殺がれたるの觀あるも幸に北海道炭礦汽船株式會社の貯炭場を此地に置きたる爲め甚だしき打撃を受くるに至らず四十年本町に武揚尋常小學校を新築す同年井上角五郎等相謀り日英經濟共同の組織に據り株式會社日本製鋼所を札幌通字母體に設けて以來人口頗る劇増し陸には各種の商工業家頗々として到り數萬の勞働者非難の如く蟻集し海には内外國の船舶林立稱羨し貨物集積の狀態は本港開發以來の

好況に推移し今や益々盛況の域に進み其の繁榮其の殷賑昔日の狀態にあらざるなり

噴火灣 八勝
 室蘭 歸帆
 中村 馬山
 江村 日落往還稀。 唯有波心白鳥飛。 仔細看來收釣客。 布帆分外孕風歸。
 伊藤 耕雲
 海近魚蝦富。 漁村列板扉。 望連垂柳岸。 帆腹孕風歸。

第一章 室蘭港灣の實況

(一) 概言

室蘭港は天然の良灣たると魚族の豊富なるを以て遠く安政年間既に漁民聚來せるあり其後政治維新に際し上下騷然たるの時仙臺藩の一門亘理藩主男爵伊達邦成公の北海道開拓を志し室蘭、有珠、虻田三郡の支配を允さるゝや明治四年春同藩移民塔敷の漁船長鯨丸初て室蘭港に入船し漸次内外の帆影多きを加へ次て北海道拓植の事業其の歩

を進むるに從て本港入出の船舶年と共に増加し此の自然の良灣は世運の進歩に伴ひ徐々人爲の工を加へ現今海陸各般の設備稍や整備せるものと成れり本港の地位は北海道東部に於ける咽喉にして内外國交通の要衝に當るを以て當に本道集散の貨物のみならず釧路、日高、石狩、釧路、北見地方に出入する旅客貨物の一部も又本港を中心市場とするの觀あり加之當港は清露兩國に對する石炭及木材等の貿易港なるを以て内外貨物の出入及び船舶來往最も頻繁を極む

由來北海道沿岸は良灣に乏しく且つ鐵道の敷設未だ完たからず故に貨物の集散一に港灣に據るの外なきを以て本港は今後拓植の進歩と共に其東海岸の内部に鐵道敷設せられ沿道各地の輸送發達するに従ひ本港獨り其商權を握るを得べしと雖も西に小樽東に釧路の商敵あり將來之れと大に頽頽せざるべからず然れども外國貿易に於ては地理的關係と沿道石炭其他の礦物豊富なると製鋼製鐵事業に依りて本道中唯一の貿易港たる地位を占むるに至るものあるに反し資本家及商業家の當港に對する世界的商業行爲の未だ開始せられざるは本港發達上頗る遺憾とする所なり

噴火灣 八勝

室蘭 歸帆

三浦 中雄

内情は後述かゝりし室蘭の港にかへる海士のつりふね

(二) 地位

室蘭灣は北海道膽振國の東端に在り札幌通り前室蘭支廳所在地と天測點として調査したる所に據れば北緯四十二度十九分三十三秒東經百四十度五十七分三十四秒に在り函館港を距る海上七十九哩青森港へ百九哩小樽港へ二百九十七哩釧路港へ百九十八哩根室港へ二百八十二哩横濱港へ五百四十四哩とす

(三) 地勢及地理

室蘭郡輪西一帯の丘陵北東より連亘し來り餘勢東南南西に延びて繪鞆半島と成り以て海水を擁す之れ即ち現今の室蘭港なり灣入すること約二哩半港口西北に向つて展開し「ホトニウシ」崎及「エンルム」崎其左右を扼して噴火灣に臨み港口稍や南岸に近き處に大黒島昔時室蘭と稱したるは室蘭港の西北部にありし舊土人の一小部落にして釧路根室方面の漁場に往復する和船の避難地となり或は噴火灣沿岸の沙原間航運の要津として知られたるのみ而して現今の室蘭港はトキカモイと稱し其の當時微々たる一漁村

にして陸に道路なく天然の良灣には海鷗の夢を驚かすものも非らざりしが明治六年開拓使札幌への新道を開鑿するに當り天然の地形を利用するの得策なるを悟り其起點をトキカリモイに定め之を室蘭と改稱し前の室蘭に元の字を冠し二者其の別を明かにせり

噴火灣 八勝

室蘭 歸帆

佐藤 守雄

夕つゝのかゆきかくゆき漕きかへる舟の帆白し室蘭の浦

(四) 區域面積及深淺干満潮の差

開港港則に據る當港の境界はエンルム崎より大黒島を経てホトエウシ崎に引きたる一線以内とす港内總水面積七百四十萬餘坪にして之を水深に依て細別すれば左の如し

面積及深淺

一 尋未満 二 一尋 三 二尋 四 三尋 四 四尋以上

二〇八、五〇〇坪 一一〇、八八坪 九〇〇、五〇〇坪 八五〇、六三坪 二、六五〇、九坪

現今内外國船の重に碇泊する地域は祝津崎より鹿別川口に達する一線内にして水深三尋乃至八尋の區域約四百七十五萬餘坪あり而して干満潮の差約一尋とす

(五) 船舶入出の便否

港口の濶さは大黒島よりエンルム崎の間四鏈及同島と北岸との間一哩半ありて兩口共に航通し得べし大黒島より北西七鏈の處即ち殆んど港口の中央に方り暗礁あり大根礁と稱す礁上の水深最も深き處三尋半と達し四尋半迄の淺處は其面積一千九百坪に及び南北に長く東西に短かし海底は岩盤隆起し其の上に徑一呎乃至約六呎の石塊堆積し居るものゝ如しと雖も其の厚さ果して幾呎に達するや未だ精確なる測定を爲したることなし燈臺より紅光を照射して之れを警戒す

噴火灣 八勝

室蘭 歸帆

男爵 伊達 邦成

波風の吹きある日はも、船も漕きかへしけむ室蘭の浦

(六) 船舶碇泊の難易

本港は夏季偏南風の時は極めて安全なる碇泊地なりと雖、港口北西に展開するを以て冬期北西風強吹する時は港奥に近く碇泊し得べき小船の外安泊し難し亦輪西停車場の低地より吹き送る東風の強烈なるものは港内に激浪を起して船舶との航通を絶つ事あり然れども港内潮流頗る緩漫にして海底の土質は泥土に砂礫を交へ保錨に佳なるを以て市街の前面適宜の場所に投錨することを得べく國館港と相並んで北海道中天然の良港たり

噴火灣 八勝

室蘭 歸帆

鹽野 寛信

むろらにや蟹の小舟も浦風のさそふかた帆にかへる夕暮

第二章 港灣海陸の設備

(一) 概言

室蘭港灣海陸の設備に就ては多年官民間の切望する所ありしも本港は久しく我海軍の要港中に指定せられたりしを以て從來商港として海陸諸般の設備を爲す上に於て非常

の拘束を受けたり然れども時運は交通無比の此港灣を利用するの利益あるを促し北新煤炭礦産株式会社石炭輸出港として該社の經營施設せる所鮮しとせり而して石狩石炭株式会社も該社石炭の運出港として各般の事企劃經營しつゝあり亦株式会社日本製鋼所も海底の浚渫埠頭の築造等巨萬の工費を投じて施設する處あり鐵道院も亦然り或は棧橋の築造に或は鐵道終點延長の急務を認め之れが敷地として海面埋立の計畫等あり其海陸連絡設備の如き稍や見るに足るべきものあり現に北海道室蘭港中に在りて一頭地を抜けりと云ふも敢て過言に非らざるべし左に逐次之を叙せん

(甲) 海上の設備

(一) 繫船浮標

日本郵船株式會社の設置したるもの一個あり本港青森間定期船の繫留に供す

(二) 浮船

貨物の運漕に従事する解船約二百五十艘にして旅客運搬に供する通船約百五十艘其他小蒸氣船八隻あるも炭礦氣船會社及三井物産會社日本製鋼所等専用の曳船なり

(三) 船入洞

船入洞は明治三十五年埋立工事の落成と共に之れが完成を告げたり一は北海道炭礦瀛船株式會社の専用に屬し即ち貯炭場のある所にして約百艘の船を繋留するを得べく以て石炭の荷役に便にす一は公共の使用に充て約八千八百坪の水面を有せり

(四) 船舶給水

此地給水多量ならず船舶用汲水所は札幌通字トキカリ澤に一ヶ所あるのみにして一晝夜に約二十噸を得べし

(五) 海底浚渫

日本製鋼所に於て築設の埠頭附近に船舶繋留の目的を以て同所施行に係る海底浚渫工事は著手以來豫定の如く進捗し既に明治四十二年七月迄に六萬三千船坪餘を浚渫せり北海道鐵道管理局に於て施工せらるべき港内宇茶岩高架棧橋に連絡せしむべき繋船棧橋は茶岩埋立地先を起點として築設するの計畫あり今其の設計を聞くに該區域は總面積約十二萬七百餘坪にして水深六千潮平均面以下二十六呎に至る迄浚渫し浚渫面を在

來海底面とは斜面二割以上の勾配を附するものにして之に要する機械は汲揚式浚渫船を使用しブラストマン式汲揚機を併用し浚渫泥土は約十一萬千立坪にして一部は港外水深四十呎以上の箇所に投棄し一部は港内西部海面埋立豫定地内に運搬する計畫なりと云ふ
前記港口に潜在する大根礁は出入船舶に取りて危険尠ならず依て其筋に於ては浮標設置の計畫ありと雖も政府は經費の都合に依り未だ設置の運びに至らず殆んど中止の姿となり出入船舶の不便を感じつゝあり

室 蘭 歸 帆 高 野 竹 園
眞帆片帆あまた漕つれ夕なきに室の港に歸る友ふね

(乙) 陸上の設備

室蘭港灣の修築に供する陸上の設備は至大至妙ならしめざるべからず彼是相應して海陸交通の敏捷なる活動を爲さしむる必要起る所以なり本港海陸の設備は從來殆んど北海道炭礦鐵道株式會社の獨占的經營に依りて現今の好況を呈するに至りたるものにして從來該會社わりて室蘭の生命を保てりと云ふ有様ありしも時運は獨り炭礦瀛船會社

の獨占的經營を容さず、幌近石狩石炭株式會社及日本製鋼所又は鐵道院等に於て或は海面又は陸上の埋立を爲し或は壯大なる埠頭を築設し或は高架棧橋を築造する等其設備の廣大なる投票するに違あらず左に其概要を示す

(一) 埋立及海陸連絡の設備

北海道炭礦汽船株式會社の鐵道を敷設するや輪西驛を起點とせるを以て室蘭市街及船舶碇繋地と相隔絶し其間の運輸は僅かに馬車解船に依て接續し來りしも風雨積雪等の際は全く其の交通を絶たるゝこと亦少からざりき此不便を補はんが爲め明治二十七年八月室蘭驛の開設に着手し一面市街に沿ふて港内埋立を起せり三十年七月室蘭驛を開きしも埋立工事の目的は海陸の聯絡を完全にして鐵道をして直に港内適當の地に確ましむるにありて工事設計の變更期日の延期等幾多の變遷を経て明治三十四年六月までに成功したる事業の結果は左の如し

(二) 埋立地面積

一、埋立地面積 五萬六千二百九十九坪
内 埠

共有地として室蘭町に無代讓與せし分	五千四百七十二坪
共同荷揚場及道路敷地として	八千坪
共同荷揚場龜腹石垣延長	八十三間
共同小棧橋	一ヶ所
共同海岸石垣延長	三十一間
共同暗渠長	二十八間
會社專用荷揚場長	四十五間
海岸石垣延長	百八十二間
大下水	百八十二間
暗渠長	九十間
其他下水延長	四百二十六間

以上を引去りたる地積は炭礦會社専用の貯炭場停車場倉庫事務所旅客待合所其他の用地となせり翌三十五年には第四區工事として九千五百坪の埋立を竣功し同時に船入湖を設置せり之より先き旅客昇降用棧橋架設せられ亦三十七年三月停車場に沿ふて待合所を建築し大に旅客の往來に便益を與へたるを以て之れに伴ふて旅館回漕業者等の各機關漸次埋立地に移轉し今や尺寸の餘地なきまでに商家櫛比するに至れり石炭積入の

如きも初めイトツケレンツ橋を唯一の機關としたりしが今や埋立地にて最も敏活にすることを得殊に前者に比して風浪の爲めに荷役を妨げらるゝこと少なければ此點に於ても至大の便利を得たり此の外鐵道院所管理立地及日本製鋼所敷地の埋立地は一般に關すること鮮なし茲に掲載せず

(三) 棧橋

棧橋三あり一はイトツケレンツ角に在りて延長百二十間北海道炭礦汽船株式會社の所有に係り専ら石炭搭載の用に供したりしが同社の海面埋立地完成するに及んで該棧橋を不用に歸せしめ近時は頽廢に屬せり一は新棧橋にして埋立地に在り長二十二間専ら旅客昇降の用に供せられ他は停車場前小棧橋にして旅客昇降に供す
前項の外鐵道院に於て施設に係る高架棧橋は明治四十二年秋に至り陸上に屬する橋梁の竣成を告げたるを以て四十三年度に於て其海面に屬する工事施行の筈なれば本工事竣工の曉は石炭積入の上に於て至大の便利を得る事となり隨て内外國船舶入出の劇増するを得て港内一層の殷盛を見るに至るべし

(四) 埠頭

株式會社日本製鋼所敷地先に在る埠頭は其延長千五百五十尺高さ六十三尺にして該會社の所有に係り専ら同所製作に係る物資搭載の用に供するものにして之れに大起重機を据付け百噸の重量ある貨物を自由に上下し得るの裝置なり明治四十二年十一月中瀧船河内丸該工事竣工後初めて碇繋せり同船は七千噸弱の巨舶なるも埠頭に横着と成り無事搭載貨物の荷役を了し援錨せり本書口繪を參照すべし

鐵道院は更に其の荷役の進捗を希望し明治四十一年より四十二年に至る二ケ年間に宇茶砦より南方なる海面を埋立て之れに三條の高架棧橋を架設せり該埋立地より棧橋築造の計畫あり明治四十二年十二月之れが工事入札を北海道鐵道管理局に於て執行され札幌區請負人大星三松なるもの工費金十九萬餘圓を以て落札せしも同人は其權利を放棄し一萬二千圓の入札保證金を沒收せらるゝ此の無責任なる入札の爲め同年末に於て室蘭港の一般人氣を沈衰せしめたるものは實に大星三松なりとす明年該工事を起工され豫期の如く竣功すゝに至らば石炭積入荷役上に一大進捗を與ふるに至り日本製鋼所埠頭と相待つて一大美觀を副ふるに至るべし左に貨物運搬旅客交通等に關する諸機關を列記して參稽に資す

噴火灣 八勝

室蘭 歸帆 砂澤 榮齋
うら遠く見えししらは夕されはひとつ港に歸る室ふね

(五) 貯炭場及倉庫

所在地	地積又は建物坪數	所管別
室蘭町大字海岸町	一四、四〇四坪	北海道炭礦汽船株式會社
同 イトツケレツプ	五、三九一坪	同
同 海岸町	一一、〇七一坪	札幌倉庫株式會社

六 棧橋物揚場

名	棧橋	幅	長	物揚場	所在地	坪數
新	橋	十八尺	百三十二尺	室蘭町海岸町(甲)	二〇二坪	七〇〇
イトツケレツプ	棧橋	七十二尺	八百尺	同	同	七〇〇
合計						九〇二

(七) 荷役船回漕店

名稱	位置	名稱	員數及位置
日本郵船會社室蘭支店	海岸町	內國通運株式會社	海岸町
噴火灣汽船會社室蘭支店	同	室蘭取引店	同
榎沼通船部	同	木村運送店	同
黒田運送店	同	小蒸汽船	八艘
栗林運送部	同	通解船	六艘
石井運送部	同	岡本回漕店	三艘
札幌倉庫株式會社室蘭支店	同	榑崎回漕店	札幌通
		山崎回漕店	海岸町

(八) 燈台及警報機

大黒島に燈臺あり其の構造は木造六角形にして黒白の横線を以て塗彩す水面上高さ百三十四尺不動白色にして晴天光達離九哩とす

名稱	地名	點火	位置	高	光達	形質	燈質
大黒島燈臺			東經	北緯	白基至水面	距離	形質

大黒島 室蘭町 明治三十四年 度分 尺 尺 哩 木造六
 燈 臺 室蘭港灣 十一月一日 二四、五〇〇 四三、三〇〇 二六 二九 九 角形黒 不動白色
 暴風警報機 暴風警報機
 暴風警報機は札幌通りに在り

噴火 港 八勝
 室 蘭 歸 帆 關 根 松 翠
 沙岸無人影。斜陽映板扉。櫓聲來札々。煙外一船歸。

第三章 室蘭港の概況

(一) 概言

室蘭町は純然たる開港場にして明治五年の創設に係り土地概ね高燥に屬するを以て飲料水に乏しく往時は蝦夷の棲息せる一海濱に過ぎざりしも古來鯉の群來豊富なるより土人呼んでトキカリモイと云ふ世人トツカワモイと稱するはトキカリモイの訛傳ならん明治六年室蘭札幌間の新道を開始し漸次來住する者あり次て商人勞働者等増加し明

治八九年の頃に至りて市街の形成を爲し殆んど小都會の外觀を呈せり明治十四年開拓使廢せられて以來頻りに衰頹に傾き住民益々悲境に落ち隣佑離散種を接したりと雖も明治十八九年の頃世論大に動き第五海軍區指定の風説喧傳するに至り尋て岩見澤室蘭間の鐵道開通し一時不振に沈みたる人氣を幸ふして保持せしも爾來急速の進歩を觀る能はず僅かに炭鑛鐵道の存立に據りて其頭角を擡げつゝありしが明治三十九年の交日本製鋼所及び室蘭製鐵場設置の計畫世上に傳はるや輿論喧囂して止まず其後利に趨るの徒續々室蘭に蚬集し土地賣買盛んに行はれ一握千金の僥倖を得たるものと地價の昂騰を豫則し賣買熱を夢みて己れの本分を忘れ職責を輕んじ身を鐵窓の下に呻吟するものあるに至れり

景勢斯の如くなれば現今は非常の膨脹を爲し突飛なる繁盛を極め母戀埋立工事及建築作業に従事する土工人夫及大工雜役夫等にも一萬二千餘人に達し其他輪西に於ける製鐵場工事に従事する人夫製鋼所職員職工及び家族等を通算せば一萬四五千人の人口母戀輪西間に居住し其の外商業又は各種の營業に取り付かんとして渡來せしもの幾千人の多きに達せり去れと室蘭は從來浮沈定まりなきの土地なれば永住するもの極めて少なく隨て貸家の設備なきは勿論飲料水の如きも市街の局部に溪水を引き更に之れを馬車にて各戸に運搬し以て町民の飲料に供するの狀態なれば貸家と飲料水に至りては

給兩者の利便を計り其の注文に應ずること、爲し低廉に需用品を供給すること、爲さば相互の利便は勿論此の如きは室蘭町民の製鋼所に對する最大義務たるを信じて疑はざるあり之れに反して製鋼所は歐米諸國の諸工場に模範を採り學校、病院、俱樂部其他軍隊に於ける酒保の如き組織を以て直接其工場内に於て之れを經營すること、なりたらんには町民が空想を描きて以て製鋼所に多大の望みを囑したるの一事は茲に始めて水泡に歸することゝなるべし果して然らば町民の製鋼所に據りて獲んとする利益は零碎云ふに足らざるべし去れば製鋼所は大會社なりとして一も二もなく町民の希望を總體的に拒絶するが如き事あらば町民は鼓を鳴らして彼れを攻むるの材料ありと批難するに至るべし其の論點の大要左の如し

曰く日本製鋼所室蘭製鐵所等設置の爲め將來各工場より悪水其他の流動體化學的藥品等の汚穢物港灣に排出するに至らば自然港水腐敗し隨て定繫船舶に海草を附着せしむる等港灣としての要素を缺くに至り直接間接に室蘭町民に與ふる害毒著し鮮少なからず又曰く製鋼所職工職員等の來場に伴ひ幾百の小學兒童移住するに至り従つて急遽に小學校増設の必要も起り之れが爲めに町民の負擔を重荷せしむるものは製鋼所設立の影響にあらざして何すやと夫れ此の如く室蘭町民と製鋼所との關係の密接なるにも拘らず彼は大會社たるの故を以て町民を僥倖し我は眼前の小利に眩惑し永遠の計りことを

思はずして互に感情を損するが如きことあらば結局室蘭港發展上遺憾千萬と云はざる可からざるなり

(二) 室蘭町の區畫

室蘭町は膽振國の東南端に在る半島にして東は輪西村に境し西は内浦灣を隔て、茅部郡と相對し南は内浦灣頭を隔て渡島半島と相枕み四通八達の要地を占め山は鬱蒼たる樹木に富み水は魚族に豊かよ一壟涯なきの海洋皆水産豊富にして漁獵に適せざるものなし真に北海道東海岸に於ける天府の寶座と謂ふべし。

地形東西に延びて南北に蹙まり中央に於て幅員凡十町に達す茶羅津内岬南端に突出し其の惠山岬と相對するものをカチカ山岬と云ひ此の間二十六哩餘あり實に本町の南極たり東南の一端は太平洋に突出す

山岳の高峻あるもの西海岸に在り測量山はトキカリ半島に聳ゆる高山にして其高さ六百六十三尺に達し鳳巢山は半島の中央に峙ち其高さ四百五十四尺に迫り其山脈外海に走りハル神居山は繪鞆半島の東南方に峙ち高さ三百二十尺あり其の山脈惠比壽岬に聳ゆ

川の最大なるものをオハシナイ川とす源を測量山の西方に發し數派の支流を合し浚流

して室蘭港に注ぐ延長二十餘町母戀川は源をツクイ山の麓に發し二派の支流を合して灣内に放水す長さ十八町を下らず

(三) 室蘭港の町名

室蘭町の區番町名にして既に公定せられたるもの左の如し					
札幌通	西小路	澤町	幕西町	常盤町	濱町
本町	繪柄町	千歳町	海岸町		

(四) 室蘭人口及戸數

區別年別	明治四十二年	明治四十一年	明治四十年	明治三十九年	明治三十八年
人口	二五、〇四〇口	二〇、五五〇口	一三、五五〇口	一七、六〇〇口	九、四二五口
戸數	五、八七戸	四、四二戸	二、八二戸	二、四九戸	二、二四七戸

(五) 室蘭の前途に就て

室蘭港の盛衰は石炭輸出入貿易の消長に重大なる關係を有し其海陸設備の如きも皆北海道炭礦汽船株式會社の經營する處にして從來殆んど該會社の室蘭なるやの感ありた

も炭礦鐵道買収後は専ら鐵道院の施設經營に係るもの尠なしとせず現に鐵道院は茶壺埋立地先を基點として繫船棧橋を築設するの計畫あり明治四十二年中之れが棧橋として二條の高棧橋を架設されたり而して前叙繫船所棧橋の設計を聞くに埋立地先より東北二十八度の方向に突出するものにして長さ凡そ千呎に至るべく棧橋の兩側は之を浚渫し港内平均水深二十六呎以上の所と常に同一の深を保たしめんとするにあり未だ著手の機運に達せざるも當年末までに其の發表を見るに至るべし此棧橋にして完成の曉には僅に一萬噸以上の船舶を繫留せしめ人力に依りたる石炭積込を機械力に代へ以て荷役を倍速し礁泊期間を消路するの便至大なるものあるべし亦本港入出船舶噸一の障礙たる大根暗礁には他日遞信省に於て警戒浮標を設備するが若くは他に適當の處置を取るべき旨室蘭町長の請願に對し回答ありたる趣なるを以て近き將來に於て實現するに至らん又米國インターナショナル石油會社は其鑛業用に供する大棧橋を元輪西村海面に築設の計畫ありと云ふ本港は港口西北に展開し冬季風浪の害尠ながらざるを以て將來の發達に伴ひ港灣の修築海底の浚渫防波堤の築造港内風防林の植付け海面の埋立庫船の設置防砂堤の築造船渠の建造航路標識の設備燈臺船の設置等其設備の急務なる投票するに違あらず是等の點より考慮するも室蘭町は工學士又は工學博士を顧問として常港百年の計畫を建てしめざれば天與の形勝たる價值を活用する能はざるべ

し是は本港としての専決問題ならんか

第四章 室蘭市街

(一) 室蘭港の盛衰及狀況

室蘭市街は初め港の西南岸に在り丘陵を負ふて一條の街道を作るに過ぎざりしが明治六年室蘭札幌間の新道開通に依り北海道東部の咽喉となり交通頻繁の度を加ふるに隨ひ市街形成の端を啓き北海道炭鐵鐵道の終點として石炭木材等の輸出漸次隆盛となり海岸地積を埋立て樞要機關を移し僅々三十餘年にして榛莽荆棘の荒原林野は變じて萬金に購ふべき宅地となり空しく鯨鰐の群游に委せし磯津磯浦は化して一大開場となり今日の發達を見るに至れり

明治五年元室蘭の機關を此地に移し室蘭出張所を置き開拓使附屬船を以て森港に定期航海を開き移住者を優待奨勵し翌六年札幌間の道路開通し本道樞要の地となり各地より轉住者増加し百二十三戸となれり此年九月始めて町名を設け札幌通と稱し次で數個の町名を附せり當時函館小樽間の航海未だ發達せざりしを以て函館札幌間の旅客貨物物は主として當港を經由し且つ開拓使工業局出張所を置き木挽場を設け造船の業に従

事せしを以て長足の進歩を爲し明治十年には本籍寄留者を合して人口約千人に達せり然るに十一年工業局出張所其の規模を縮少し加之函札間の交通は航海の發達に伴ひ漸次小樽港に變じ殊に十四年に至り小樽間鐵道全道後は旅客貨物の當港を經るもの減少せり十五年官設諸工場廢止となり茲に全く當港の發達を阻止し僅かに海岸たるの地利を以て維持するの悲境に陥れり然るに二十年に至り輪西村に屯田兵百十戸移住し來り再び發展の曙光を認め二十一年炭鐵鐵道敷設の許可ありて其起點をイトツケレツプに定むるや人氣俄かに活氣を呈し地價騰貴し鐵道工事關係の人員多數渡來し市況大に振へり二十五年該工事落成し一躍して石炭の供給港となり多數の船舶入港を見るに至り同時に鐵道線路沿地方に生魚の販路を擴め二十六年日本郵船會社は青森より函館を經て當港に至る定期航海を開始し始めて他府縣と直接交通するの便を得再び札幌附近の旅客は當港を經由するに至れり二十七年五月特別輸出港となり三十三年七月一級町村制施行せられ繪柄村及西村に屬せしイトツケレツプを併せて獨立自治の町となれり三十四年埋立の大部を竣功し海岸の要部を海岸町と名け諸官衙會社民家及運輸交通等に關する營業者漸次此地に集合し大に市街の面目を一新し殊に新棧橋と旅客停車場との聯絡は其附近に旅店其他商佑等の移轉を促進し舊街道と共に樞要の地となれり卅六年一月輸出物品の制限を解き更に特定の物品輸入の件を許され益々順境に向へり三十八

年には電話架設され至大の便利を觀るに至る三十九年には電燈所創設せられ市内の美觀を添へ亦四十一年には専用水道を敷設し海岸町千歳町濱町等の町内に引用せらるる從來此地は飲料水に乏しく且つ掘井戸に便ならざると共に水質不良にして市街發達の一大障害たりしも早晩全市街に對し水道を敷設するに至らば其山手附近用水不便の地も忽ち新築の家屋櫛比するに至り本港の般賑を助長せしむるの一要素たりや疑ひなかるべし四十二年には室蘭輪西間の國道變更工事落成を告げ製鋼所敷地沿岸國道の通行を止めらる亦此年武揚尋常高等小學校校舍増築成り併せて成徳尋常高等小學校の新築を見るに至る同年秋室蘭町役場を常盤町の町有地内に建築され同年十一月其竣功を告ぐると共に室蘭外五郡の物産品評會及第一回畜産共進會開催され該廳舎を其の會場に充用せられる亦此年鐵道院施設の茶峯高架棧橋工事關組の下請負人伊藤龜太郎勵精盡力の効に據り豫期の如く竣工せり佛坂鐵道墜道工事も本年内に竣工の豫定なり室蘭市街の狀況夫れ斯の如く海陸の施設著々完成し現今の市街狀態を成すに至れり最近の調査に據れば明治四十二年末の現在戸數五千八百七十七人口二萬五千四十三を有す町の所轄區域は其面積一千六百五十八町八反二畝十九歩にして官署五公署一神社一佛閣七學校町立のもの五病院公立のもの一私立のもの一醫院六銀行支店一出張所一講會社十三製造工場八停車場一倉庫一簡所等ありて明治卅九年頃より日本製鋼所創設の事喧傳する

や世人の視線室蘭に集註するに至る時なる哉明治四十年東洋の一大工場たる日本製鋼所の設立に伴ひ輪西村には製鐵場製材所等の諸工場新設せられ爾來人氣頓に昂かり爲めに市況を活潑ならしめ市街諸般の經營益々發展し峻々として膨脹の氣運を示せり而して此地山麓の傾斜地は區畫狹隘にして而も急坂交通に使ならず概ね商估は海濱の平地に其の店舗を營みしもの戸口の増殖に伴ひ市街は漸々低地を追ふて連嶺南方に蔓延し海陸連絡の如きも西方札幌通附近より遂に東方海岸町に移りて西部の繁榮は漸次衰勢を現はし東方札幌通、濱町、千歳町、本町附近に其の盛華を移すに至り札幌通の南方室蘭橋商場より同通奥村商店附近は市街繁榮の中心を占むるに至れり母戀市街は室蘭輪西間に介在し人煙寂寥たる農耕地たるに過ぎざりしが故榎本子爵が室蘭港に製鐵工場の設備あるべきを達觀し曾て母戀に於ける耕地を買収せられたるものと日本製鋼所株主たる大橋新太郎氏の買占に係る畑地を明治四十年中私設市街宅地に區畫し爾來縱横に道路を開鑿し溝渠を築造し其の南北に通ずるものを大町通と稱し大町通の東部上方に位置するものを東町と稱し大町通の西部に位置するものを西町と稱し整然たる市街を設定するや各種の商工業家頻々として到り今や六百有餘戸の家屋建築され二千六百の人員群居し人口増殖の狀態と移住者の活氣ある行動とは益々此地の聲價を高め竟に室蘭市街の繁榮を奪取せんとするの觀あるに至れり盛況斯の如く

なるを以て室蘭町役場は該市街附近に於ける一の澤二の澤等の町有地を區畫し一般希望者に之を賃貸せり該地附近は室蘭市街との距離僅々數町に過ぎざるを以て字牛屋時を貫き人道を開鑿するの企畫あるに至れり而して此計畫は未だ實地著手の機に至らずと雖も茶羅津内及煉化場附近の開発上最も適切なるを以て町財政上の都合に依り遠からず事實となりて現はるゝに至るべし原來母戀市街地は埋立地の外山麓の傾斜地を開鑿したるものなれば其の地形自ら帶形を作せり而して製鋼所敷地の一對を港面より展望すれば數個の煙筒高く天を衝き數多の工場其の間に隱見し國道沿の社宅は喇叭森の山麓に連擔北方に蔓延し母戀市街は其南方に偏在するを以て見ゆると亦し亦室蘭市街の一斑を見れば測量山麓一對に鬱蒼たる天然林木の圍繞せる間木造平家點在し低く海岸の地には高樓朱屋層々相接し觀望頗る佳良にして稍や函館港に酷似せり然れども南方老名牛の海面に對する南市街は宏壯なる室蘭町役場高樓獨り兀として聳ゆるの外一望連擔の平屋を見るのみにして頗る無趣味の感あり此地の家屋は防寒を主とし和洋折衷の建築にして中央繁華の街衢は店頭の粧飾稍や整正せるも其他の市街は店頭簡粗にして美觀を缺けり從來本港の家屋は屋根葺にして僅かに雨露を凌ぐに足る底の構造なりしも一朝火災起るれば延焼し易きを以て今後人煙増殖に伴ひ火災の度を増すは勢ひの免れざる所なれば將來新築葺換等には自然不燃質物を用ゆるに至り數年後には

面目を一新するものあらん道路は三間乃至八間の幅にして土質軟弱なれば一たび濕潤するときは泥濘の狀市街道路として不完備甚だしく往來交通甚だ不便を極む

第五章 室蘭の氣象

(一) 概言

人生百般の事一として氣象と密接の關係を有せざるはなく之を實業に見るも漁獵養蠶及一般農作物等は殊に其關係の密接なるものにして其他衛生、土木、治水、米商、航海等は豫め氣象天候の變を察して之に對するの準備を講ずるは社界公益の大なるものたらずんばあらず

本港は北海道の東南方に位するを以て氣候稍や溫暖なり冬季は北西風劇烈なるも寒威は世人の想像するが如く甚だしからず概して人體の健康に適し一班植物の生育佳なり

氣候は緯度の高低に準じて消長するものにあらず水陸の形勢及び海湖の流域に依りて大に變異あるものとす故に緯度を同くするも寒温甚だしき差異あり北海道の市府たる札幌は北緯四十三度にして伊太利と同度にあり獨、佛、埃國等札幌より北に方り又英

國は五十度以北にありて世界第一の都會たる倫敦は五十一度三十分餘にあり然るに其温度は遙かに札幌より高し之れ地勢及び潮流の然らしむる所とす
 本港は太平洋に面する内浦灣の東端に位するを以て潮流の關係に據り氣候の變異甚だしく冬季温和なるに比し夏季稍々冷温なるが如し世人我が國に於ける氣候の寒烈を云は、先づ樺太島に次ぐに北海道を以てするも實際は北海道と雖も其の所に依り差違あり然かも本邦中氣候の最低なるは樺太島及び千島北部の諸島にして次を北海道石狩國の上川とし之れに次ぐを根室とし長野縣信州之れに次ぐ
 本港には未だ測候所の設なく隨て正確なる氣候の狀態を調査するに由なしと雖も左に北海道の平均温度を示す

(二) 氣壓及氣温

氣壓は空氣の温度土地の高低水蒸氣の多寡によりて變ず我國の平均氣壓は七百六十二耗にして北海道の絶北なる北見國の宗谷に於ける氣壓は七百六十四耗なり内地府縣と北海道の差は僅かに二耗内外あり
 氣温は概して低しと雖も室蘭町宇大黒島に於て七月中平均華氏最低温度五十六度一月中同上二十度七にして夏季の最高温度は八月二十日華氏八十九度六以上に達し能く植

物を生育せしめ而かも朝夕は冷涼にして人身甚だ爽快なり左に室蘭に於ける平均温度を示す

(三) 室蘭港平均温度

地名 寒暖計 一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月 十二月
 室蘭町 華氏 一〇〇、三〇、四、二、三、〇、五、一、二、六、八、四、四、三、五、六、五、七、四、七、二、元、三

(四) 降雨及雷鳴

雨は平年五月六月七月に多きも八月九月に漸次減じ即ち五月以降十月の間に降りて其餘は降雨を見ること少なし而して霖雨の期は九月十月に在り最乾の時節は八月とす
 雷鳴は一ケ年中五六回位に止り隨て雷雨の如きも六月以降八九月の間に多きも其他に於ては稀れに見ることあるべし

(五) 濃霧

北海道に於ける東海岸の一帶は太平洋に面するを以て寒冷なる千島海流間斷なく此海岸を洗ひ朝鮮海峽に向ひて南走するに因り春夏秋共に濃霧を起し其の濃厚なる狀態は

樺太及び千島諸島の夫れと趣を同ふし其の甚だしきに會せば海陸とも咫尺尙ほ辨せず航海業者をして屢々危険を感せしむることあり

(六) 降雪及結霜

雪は平年十一月下旬より十二月中旬に降り始め冬季積ること四五寸に達し翌年一月下旬又は二月中旬融雪す

結霜の農作と關係厚きや言ふを待たず春霜の如きは桑茶の萌芽を傷め延ひて輸出品に多少の影響を及ぼすこと世人の熟知する所あり

室蘭に於ける秋霜は平年十月下旬に始まり春霜は四月中旬に終り植物の生育期は四月下旬より十月下旬に涉り府縣に於て夏作と稱するものは概ね生熟す

(七) 風位及風力

室蘭に於ける最多風向は西北風にして次ぎは西の六米突以上に居り而して強風最速度は東南東の四十九米突なりとす

第六章 室蘭港の潮流

(一) 暖流

我國の海岸を圍繞する潮流の最大なるものを黒潮とす夫は赤道地方より來る所の暖流にして臺灣の近海より東北に折れ琉球近海に於て岐れて潮派となる一は本州の東南岸を横ぎる則ち黒潮の本流なり一は本州の北方に流れ對馬海峽を経て日本海に入る之れを對馬海流と名づけ日本の西海岸を溫暖ならしむること少なからず而して其室蘭に關係を及ぼすものは對馬潮流なりとす此の潮流は對馬海岸よりして日本海に入り東北進して小分派を津輕海峽に出だし更に膽振洋を洗ひ東進して襟裳岬に至るもの之れなり又其他の分派は更に北海道の西海岸を過ぎ宗谷海峽より於古突海に入り南進し襟裳岬に至りて消滅する所の暖流なり本港の四季溫和なるは前者の潮流あるに依れり

(二) 來滿流

於古突海より來りて容谷海峽に入る所の寒冷なる海流あり之れを來滿流と云ふ黒龍江の寒流に合して日本海の西北海岸を洗ひ朝鮮海峽に向ひて南走す此の潮流は冬春の候流水を送りて北海道に於ける西海岸を妨害すること少なからず船舶若し過ちて此流水に觸るゝときは船體忽ち破碎し人命貨物等擧げて水藻に歸す而れども室蘭港は前述せ

し如く津輕海峡より分派する所の暖流を以て間断なく其の沿海を洗ひ寒流と暖流との調和宜しきに適ひ其の襟裳岬に至るの沿海に於ては流水の害を受くるの恐れなし。潮流の航海業者及び漁業に關する所極めて大なり流水は航海上最も恐るべき障害物にして之れを避くるの術なきも東海岸に於ける濃霧は之れに反して海員相互嚴正に留意するあらば人命貨物等を水藻に歸せしむるが如き事なかるべし彼の臘虎臘豚獸の北海に産するが如く鮭鱒の二大魚群を北方より南方に遷移せしむるが如き或は北海道の東室蘭に昆布を饒産せしむるが如き千島より南進する所の寒流與かりて大に力あり又暖流即ち對島海流が北海道西海岸に及ばず處の成果を記すれば西海岸に鮑の栖殖に適する特質ありと雖も東對岸に栖息せざるものは蓋し此海流と相待つの結果のみ其他鱒、鮭、鯉の如き暖流魚族の室蘭沿海に於て棲息するは對島海流あるが爲めなり而して膽振國沿海の地は概ね對馬海流に洗はるゝと共に其の地勢の南に面するが爲め冬季温和にして人類の栖息に適するや固より論を俟たず故に北海道及び樺太又は千島諸島に於て漁業其他の生産業を経營せんと欲する實業家は此の如き氣候の温和にして交通の至便なる室蘭港に根居を完むるを尤も得策と信するなり。

前述したる如く本港附近は對島潮流と千島潮流との二流ありて前者下り沙は沿岸を馳せて大黒島沖合より上り沙と合して回流す而して千島寒流は沖合を環流するを常と

せり今港内に於ける潮流の方向を觀察するに其の方向區々にして一定せざるも概ね差し潮は大黒島とエンルム岬より沿岸に沿ふて祝津岬より港内に環流するものと日方泊岬方向より直入し洄流岬附近より右轉南下する上げ潮と南潮混流して退潮するものゝ如し而して上げ潮の際西北風吹き起るときは退潮路を扼するを以て水位甚だしく嵩まり之れに反すれば水位低落するの傾向あり此普通千滿に屬する港内潮流の平均速度は一秒時一寸乃至二寸にして白岩及千舞別岬附近に於て一時間十五町内外なるに比し漸く二町半に過ぎずして頗る遅緩なりとす。

本港は北西風の際其の風勢強烈なるときは風向に従つて高浪襲來し海水の動搖甚だしく激浪を煽揚し貨物の積卸を阻害すること多し東風は激浪を起さるも貨物の積卸を阻害することあり而して港内深く舊棧橋附近にありては海水動搖を破じ現時小汽船帆船碇繋の位置に於ては暴風の日と雖も陸上との杜絶するか或は船舶を掀翻するが如きは殆んど稀なり。

第七章 室蘭の教育

(一) 概言

室蘭町に於ける教育事業は最も進歩發達したるもの、一なり原來永遠なる國家の運命を培植せんとするには是非とも教育の力に據らざるべからず最良の遺産は最良の教育に在り眞に我國の形勢は今日に於て進取すべくして決して退嬰すべからず故に教育に關する諸般の施設經營を完成せしむるは刻下の急務なりとす抑も本港の教育事業たるや明治九年小學校を設置せしより以來三十年の交に至るまで何等の施設なく放抛して敢て顧みざるもの、如くなりしも人口の増殖と共に逐年兒童の數を増加し到底一校舎を以て數多の兒童を收容し能はざるに至り實際必要に逼り校舎の設置を促し官民共に大に悟る所ありしが三十年以降稍や教育上に考慮を傾け常盤尋常高等小學校の改築を爲し本町及び御崎等に分校を設置するに至れり卅四年小學校令の實施に際し更に面目を新たにし現今は四校舎の設置を觀るに至れり而して母戀に於ける日本製鋼所を屬職工職員等の子弟收容の目的を以て明治四十二年八月一校舎を設置し九月一日開校す又舊波止塙の西方トキカリ澤附近及びヲヘシナイ方面の兒童收容の目的を以て札幌通りに十二學級の尋常高等小學校を設置するの議あり己に敷地の撰定を了せしも財政上の都合あり明治四十三年度には開校することゝなるべし左に室蘭尋常高等小學校及び各校累年兒童數及學校職員數を示す

室蘭大觀

(二) 各學校兒童數

校名	三十七年		三十八年		三十九年		四十年		四十一年		四十二年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
室蘭尋常高等小學校	六二	五二	六七	六六	七四	七五	五五	五五	六七	六七	七二	七二
花崎尋常小學校	二六	三三	三三	三七	四四	三七	一一	一一	一一	一一	一一	一一
武揚尋常小學校	一一	一一	一一	一一	二〇	二〇	一一	一一	一一	一一	一一	一一
繪柄尋常小學校	四六	三〇	五三	三五	三八	三七	一一	一一	一一	一一	一一	一一
合計	一六三	一五七	一七五	一六八	一八三	一七四	一一	一一	一一	一一	一一	一一

斯の如く教育事業の膨脹と共に經常費及臨時費は町歳出入の二割以上に對比するを得ると云へば普通教育の爲め費す所實に尠少ならず今後一層校舎増築の必要あれば其の經費も亦多額を費すに至らん尙ほ昔年ならずして中學校、炭鑛學校、職工學校、英語

室蘭大觀

學校、高等女學校、女子職業學校、和洋裁縫學校、女子家政學校、水産講習所、商業學校、農林學校、造船學校、貧民學校、幼稚園等の設置を促すに至るや言を俟たず内に就て刻下急務を要するものは幼稚園及び炭鑛學校、職工學校、英語學校、中學校、女子職業學校、貧民學校等の設置なりとす

室蘭港の將來は實に教育事業の爲め當局者の頭腦を病ますに至るや必せり猶學事に関するは記述すべきの事項甚だ多きも小冊子の盡す所にあらざれば更に第三版に於て詳述せんとす左に學校及職員數を掲ぐ

(三) 學校及職員數

職 員 數	種 別		計
	尋常高等小學校	尋常小學校	
1	1	4	5
36	1	1	38
15			15
51			51

(四) 室蘭尋常高等小學校生徒及職員其他

一、三十九年以後兒童在籍

三十九年 七五四人 四十年 五五五人 四十一年 六七七人

四十二年 七四一人

一、本校敷地總坪數二二六八坪

教室數一二(此坪數二四〇坪) 特別教室數二(此坪數三四坪)

教員室二〇坪、戸内運動場一二〇坪、其他三九三、二五〇

一、現在教員氏名

- | | | | |
|----------|-------|-------|-------|
| 校長 工藤 謙次 | 丸岡慶之進 | 片岡 三吾 | 山鹿 千代 |
| 黒田 安 | 高橋 正男 | 石崎 トキ | 綠 義俊 |
| 山岡 末男 | 丹野 勇橘 | 大友憲一郎 | 渡部 清 |
| 石川 光貞 | 小野寺直志 | 山口 ノブ | |

(五) 武揚尋常小學校児童及經費其他

武揚尋常小學校児童及經費等累年比較

年度	戸數		學令數		就學歩合		戸數ニ對スル學令數	人口ニ對スル學令數
	男	女	男	女	男	女		
三十九年	二,二九七	五,九三三	八六四	七三五	八六、六八六	二六九、六二四	五九	
四十年	三,〇九八	三,九二五	一,二九六	一,二四九	九九、九三九	六五七、八二二	一一	
四十一年	四,五九六	三,五〇四	一,三三三	一,二三三	九九、七九九	四七五、八三二	〇九	
四十二年	五,八二七	一四,七六八	一,七五五	一,四六七	九九、八九九	七二五、七三二	九五	
三十九年	二,二九七	五,九三三	一,九三三	四,八二二	四三三、七六六	〇、二二		
四十年	三,〇九八	三,九二五	二,六四〇	四,八五〇	四二五、二六六	二六三、五、一四六	〇、三三	
四十二年	四,三〇〇	四,四〇〇	六,七二〇	六,七三三	九七〇、四六七	一,〇三三、四九六	〇、三七	
四十二年	三,〇〇〇	四,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	六六六、六六六	一,〇三三、四九六	〇、三七	

(六) 武揚尋常小學校沿革

明治三十八年十二月總坪數二百二十一坪七合五夕の校舍を新築し同三十九年室蘭尋常高等小學校分敷場として開校同三十九年四月獨立して武揚尋常小學校と稱す校名は日露戰役紀念事業たるの故を以て道廳長官より特に命名せられたるものなり爾來四次の増築を經四十二年八月三十一日現在の校舍落成して二十一學級の編成を見るに至れり

(七) 武揚尋常小學校職員及概況

資格	職員氏名	資格	職員氏名	資格	職員氏名
小、本、正	幸松 秀三	准、本、正	尾崎 傳次郎	尋、本、正	堀中 周藏
同	日高 盛廣	小、本、正	戸澤 隆吉	小、本、正	小杉山 ウメ
同	加納 勤市	同	水谷 誠人	尋、本、正	坪松 兼次郎
同	井浦 保太郎	同	柏葉 三郎	小、本、正	門脇 キヨ
尋、本、正	守 元 信	尋、本、正	皆川 春吉	同	廣 緒 イサ
小、本、正	遠山 ノブ	尋、准	倉 與四郎	同	沼尻 常次郎
尋、本、正	末原 タマ	同	北原 チャ	同	鈴木 忠三
兼修科正教授	染谷 アヤノ				

校長幸松秀三氏は室蘭小學校に教鞭を執りし以來前後九年間現に學級二十一正教員十九名準教員二名を監督して其の成績甚だ良好、部下亦職務に忠實にして就學兒童の歩合亦大に佳良なりと稱せらる校員の熱精ある勤務は以て本港發達上に裨益する所鮮少なからざるを信す

(八) 成徳尋常小學校沿革及概況

本校は明治四十一年九月十日室蘭町大字札幌通字母戀西北の高燥地に校舎敷地を指定し四十二年五月十日工を起し以後八月十三日竣功せり校舎敷地の面積は三千八十七坪にして内校舎の建坪は三百七十坪二合五夕なり之れが費用は一萬一千九十圓五十七錢にして仙臺市の請負師橋本忠次郎氏の義務的に請負したるものなり
九月一日開校當時兒童數四百三十六名之れを八學級に編制し職員は白戸校長外七名なりしが爾後幾多の變遷を経て現今に至る今後明治四十四年度に至り全部完成の上は十入學級編制の豫定なりと云ふ

(九) 成徳尋常小學校兒童數及教員

年 月 一 兒童數 一 出席歩合 一 學級數 職員數 職員氏名(現在)

明治四十二年九月末	五七三	九二、九八	八	九	白戸俊夫
同 十月末	五九八	九四、六一	九	一〇	佐々木重助
同 十一月末	五八三	九二、一五	九	一一	天野馨藏
同 十二月末	五六二	九三、一九	九	一一	葛西清一
明治四十三年一月末	五六二	九四、九六	九	一一	高松留藏
同 二月末	五六一	九五、七六	九	一一	岩木誠一郎
					林 喜久世 郁
					棚田喜久世 郁
					中村エン ン
					柴田周松
					武田らめ

學校豫算
經常費 三、一四八、二六〇
臨時費 一、七〇三、〇〇〇

第八章 室蘭の風俗及宗教

(一) 概 言

室蘭に於ける一般の人情風俗は極めて多般にして社交の秩序未だ定らず人情の輕佻浮薄なるは新開地及び海港に免れ難きことは必然の情況にして固より勢ひの止む可らざる所其の事物の緒に就き秩序整然たるに至るまでは尙ほ幾多の星霜を要すべく本港に渡來する人々は其の目的一様ならず或は北海に遺利を求むるが爲めに來る者あり或は絶大の希望を懷き來る者あり其原因の何たるを問はず故郷を去りて新開地に求むるなれば敢爲の氣象に富み活潑の意氣あり

(二) 人情風俗

當町の永住民は三越、津輕、南部、仙臺地方より移住したる者多く秋田、能登之れに亞ぎ其他の府縣人多少混住し居るも本港は既往三十七八年の歴史を有するに過ぎず尙ほ發達の初期にあるを以て貨物の集散商内取引等も未だ不活潑なるを免れず從て他開港場等に於て見るが如き狡猾の徒なく比較的質樸なりと云ふに憚らず亦風俗は一般に虚飾を尊ぶの風習なく稍や貯蓄に富むもの、如し

(三) 宗 教

世界各国何れの國を問はず一國人民の繁殖する當初の經歷を見るに移民増殖するに從ふて宗教家隨伴し以て住民の精神を支配せんとするは歴史上明瞭なり左れば室蘭に於ても各宗各派互に布教の事に務めんとする事實は既往現在に於て見るを得べし
 宗教は概ね佛教にして神道又は基督教天理教の信仰者あり就中基督教會は本港に三個の教會堂を設けて各々力を傳道に盡し殊に室蘭聖公會の如きは函館の大火災に類焼せし以來當港に移轉したるものにして今や盛んに傳道に努めつゝあり而して當港に於ける寺院は明治六年以降の建立に係り基督教會堂は同二十五年以降の設立に係るを以て未だ多數の信者を得るに至らずと雖も室蘭聖公會のブラツク師の傳道に熱心にして其信者勧誘に親切なる所注目するに値ひあり
 日本基督教會は本町に在り牧師は遠藤某にして信者三十餘名を有す
 天主教會は常盤町に在り主として愛僱人の布教に力め其の信者五十名に及ぶ、稱せらる室蘭聖公會は本町に在り信者三十餘名を有す

(四) 神 社

郷社八幡社 は譽田別命を祭る外室蘭那輪西村字ベキリツダに安置の琴平神及び室蘭港字トキカリモイに安置の保食神を合祀したるものなり社殿は本殿表口二間奥行一間

三尺拜殿表口四間奥行三間境内の坪數五百八十坪境外の所有地としては山林千五百坪宅地二十坪あり社司は佐藤守雄氏にして氏子二百餘人を有せり
大國神社 は室蘭町字喇叭森に安置す本社は大國主大神命を祭る所なり其の地を選定したるは男爵山内滿壽治氏海軍中將にして明治四十一年八月七日鎮座祭を執行せらる其敷地は製鋼所事務所を距る一哩餘の高層地に在り眺望開豁なる所社地として尤も適せり本神は日本製鋼所の鎮守として將來毎歲八月七日を以て祭典を執行せらるべし而して其氏子は本所幾千の職工を始めとして幾百の職員又は附隨の勞働者及出入の商人等數萬人の信徒を有するに至るべく隨て神社維持上餘裕澤々として餘りあるに至るや些の疑ひなかるべし

(五) 寺院

滿岡寺 は淨土宗鎮西派に屬し道場院大白山善光寺の末寺にして澤町に在り其堂宇は間口九間三尺奥行六間にして本堂庫裡に兼用せられ境内の坪數五百四十坪檀信徒六十人名餘を有し飯島覺道師現住職たり師は善光寺住職にして現今當寺を兼務せ二十有餘年の久しき一日の如く寺務を勤勉せり實に稀有の徳者たり本寺は文久二壬戌年有珠善光寺第七世住職仙海和尚開基し東京芝増上寺坊中常照院滿岡和尚の開山に係り明治六

室蘭大觀

癸酉年元室蘭村より移轉したるものにして實に室蘭最初の古刹道場なり明治三十年七月三日成田山不動明王を本境内に安置し爾來漸次講員を増加し明治四十二年末の現在員二百餘名に達し講員の内毎年二人つゝ成田山へ代參する等逐年講員激増の盛況を示しつつあり
證誠寺 は眞宗大谷派に屬し阿彌陀如來を本尊とし澤町に在り堂宇は本堂間口五間奥行六間庫裡間口四間奥行八間にして境内坪數四百二坪あり檀信徒二百餘名を有し飯尾潛龍師現住職たり
本寺は安政五戊午年十二月本山本願寺使僧齊聖寺出張渡島國松前郡福山町專念寺掛所函館淨玄寺を以て本山掛所に引直し其の際該寺境内に於て役寺證誠坊設置の儀函館奉行へ願濟み能登國羽咋郡八幡村法誓寺住職黒萩法選師叔父大千師を以て一寺を建立し明治十戊寅年十一月當所へ移轉したるものなり
安樂寺 室蘭山安樂寺は常盤町に在り中央寺末にして曹洞宗なり釋迦牟尼如來を本尊とす堂宇は間口六間三尺奥行七間本堂庫裡に兼用せられ境内坪數は八百十坪住職は丹羽月溪師にして檀信徒七十餘名を有す明治十五年三月曹洞宗務本局派出中講義伴師本港巡教に際し檀信徒協議の末一寺開設を決定し同十六年一月願濟となれるものなり
本教寺 北門山本教寺は眞宗本願寺派に屬し阿彌陀如來を本尊として常盤町に建立せ

らる本堂は間口八間四尺奥行八間三尺此建坪數七十六坪七合五勺庫裡は五十二坪五合二勺にして境内の坪數三百四十四坪あり住職は藤森顯城師にして百五十四戸の檀信徒を有す而して其の由緒は

明治二十一年本山より本道開教視察として藤森顯城師出張敷地選定の傍ら開教に従事し同二十五年五月再び山命を奉して出張同年中說教所を創設し明治二十七年五月寺號公稱同三十年樓門建築及梵鐘鑄造同三十五年堂宇改築竣工同四十一年橋本組の發起にて招魂碑を建設し併せて周圍の石垣を寄附したるものなり

妙傳寺 北海山妙傳寺は常盤町に在り日蓮宗にして檀信徒百餘戸を有す本寺は明治二十四年天野日順上人の開基にして現任職は廣瀬惠秀師なり

高野山出張所 は眞言宗說教所にして澤町に在り明治三十七年八月松尾了山師の創立に關る今や當港急激の發展をなす四來の移民雲集し隨て多數の檀信徒を有し信仰の餘蘊積んで成規の境内地及び基本財産等を備ふるに至り高野山大日寺と寺號公稱出願の豫定なりと云ふ

第九章 室蘭の工業

諸種の工場中規模の大あるを株式會社日本製鋼所とす其他醬油味噌製造所酒造所沃度

製造所硝子工場鍛冶工場雲丹製造所水産物の製造所等あり日本製鋼所は明治四十二年中に職工四千餘人を募集し次て四十三年には六千餘人を募り平常一萬餘人の職工と幾多の監督技師を以て作業するの組織なれば職工一人平均二人の家族を有するものと假定するも優に三萬餘人の人員と技師員及事務員其他の家族を合算するときは今年年中には三萬二三千人の人口を移植するに至り其の工業上より受くる利益や推測するに餘りあり

(一) 日本製鋼所創設當時の概況

明治四十年三月東京に於て北海道炭鐵瀛船株式會社の代表者は英國アームストロング・グヰンツカース兩會社代表者と共同經營の下に株式會社日本製鋼所を設立するの計畫に關し假契約を締結す其要領を擧ぐれば(一)、會社の資本金を一千万圓として日英同額となし(二)、重役も日英同數を選出し(三)、日は石炭鑛區及び室蘭の工場敷地を相當價格を以て會社に提供し英は技師職工等を必要に應じて提供し(四)、英は工業上の秘密及び專賣特許權を無償にて會社に使用せしめ(五)、日は炭鐵の現在設備を原價にて會社に譲渡す(六)、最後に日英の三社とも將來東洋に於て他に同種の事業を企てず若し之を企つることあれば其利益は均一に分配すべしと附加せり既にして炭鐵瀛船株式

會社長井上角五郎氏は海軍中將山内萬壽治氏と共に英國倫敦に到り前兩社代表者と同年七月本契約を締結したり而して其協議の結果は一千萬圓の資本にては不足すべきを以て別に一千萬圓の社債を募るの要あり此募集方は日英の兩社に於て之に任ずることとし又會社は固く鋼鐵材料の製造販賣を目的とせるが英國側の希望に依り更に其營業範圍を擴張し鋼鐵材料一切並に兵器彈藥商船軍艦等を造ること、改め其販賣に關しは從來英の兩社は東洋に各エゼントを置き取扱はしめ來りしを近々全く之を廢し製鋼所と英の兩社との商標を同一に三社の製品は東洋に於ては製鋼所の一手に取扱ふこととし製鋼所は其手數料として二分五厘を受くること、尙ほ營業目的を達する爲め必要あるときは其他の事業に投資し之を兼營し又は他の製造に係る各種の製品を販賣すること又英國側よりアームストロング會社長たるサー、アンドリュー、ノブル氏外三名日本側より井上角五郎氏外三名別に倫敦滯在中なりし近藤輔宗氏を擧げて都合九名を重役に選定し且つ井上角五郎氏を其社長とし會社の組織及び事務に就ては社長に一任すること、なり其株式は一株金五百圓の有限責任とし同年十月第一回拂込として四分の一即ち双方百二十五萬圓づゝの拂込あり而して會社は本社及び工場を北海道膽振國室蘭郡室蘭町大字札幌通母戀に建設することとなりたり之れを此處に置くは主として其の重要な副原料の石炭供給の便なると海陸に於ける運輸交通の便あるに基く

ものにして炭鐵流船株式會社の經營に係る室蘭製鐵場との關係の如きは其主因と云ふ種のことにあらざるなり
工場敷地として既に會社の權利に屬するものは室蘭町大字札幌通宇母戀の海陸軍省用地三十二萬六千餘坪の貸下を受け官有未開地四千餘坪を拂下げ接續海面十三萬二千餘坪を埋立合計四十六萬三千餘坪之れに加ふるに室蘭町に於て許可を得たる海面の内五萬八千餘坪の讓與を得たる分を合せば總計五十一萬七千餘坪の地積となり其埋立工事に對しては一千六百人の人夫を使役して陸上の山丘を切取りトロックにて其土石を運び以て海面を埋立てつゝあり四十年十二月末旬までの工程は工場敷地の切取り落成せるもの三萬六千餘坪とす工場は未だ敷地の地均中なれども其の設計は頗る大規模にして事務所一棟社員住宅六戸建四棟四戸建四棟各役員住宅第一合宿所一棟職工宿宿所として第二合宿所一棟獨身者合宿所五棟あり職工四百三十餘人臨時雇夫四百五十人職員百八十八人を以て諸般の設備中なり又埠頭は鐵道線に連絡し長さ千五百五十尺高さ六十三尺のものを築設し大起重機を据付けて百噸の重量ある貨物をも自由に上下し得る装置と爲すの計畫なり又一面に於ては海底浚渫の吸揚式浚渫船一隻並に曳船小蒸氣船二隻土受船四隻を備へ四十年末までに三千七百餘坪の海底を浚渫せり工場用水は約七哩を距る幌別郡鷺別川上流より分水引用する計畫にして起工作業者手以來工事豫定外

に進捗し水源貯水池は小林忠兵衛氏の小頭小林彌太郎氏之れが主任となり諸般の準備宜しきを得四十一年七月を以て竣工す

要するに其事業は未だ準備中に屬し只其工事の一端を見るに過ぎず而して現今經營者の首腦は井上會長なれども奥海軍工廠の部長たりし岩本海軍少將は總務部長として其工事を監督し山内中將は顧問たり又廣井工學博士大村鐵道廳技師及び中島海軍技師外十五名は囑託として各其専門の作業に當らせしむ此工事は明治四十一年中に畧竣落成すべきを以て先づ原料を外國より輸入し四十二年の初春より營業を開始する見込にして職工は約一萬餘人を要する趣きなり左に工場及工事の概況を掲ぐ

工場の重なるものは模型場、鍛錬場、鑄造場、鑄物場、瓦斯室、電氣室等に分れ特に百尺四十二吋の大旋盤を設くるが如く廣大なる仕掛けは外國に於ても稀れに見る所ありと云ふ此事業にして豫期の如く成功したらんには軍器の獨立外資の輸入に一大利益を齎らし惹へて北海道の發達に資する所偉大なるを知るへし而して其資本金額一千萬圓なるも必要に應じ更に一千萬圓以内の社債を募集することは本會社成立當時よりの計畫なり今や工事の進捗に連れ社債五百萬圓を日英雙方に於て募集せんとし若し我經濟界の事情之れを許さずとせば其全額を倫敦に於て募集するに決し有利の保證を以て近々成立するに至るへしと云ふ又土工即ち高丘切崩し及び海面埋立工事は客歲着手以

來規模宏大なると冬季事業の困難にして人夫の供給意の如くならざりし爲め作業の進捗を見る能はず目下總工事の六七分形竣工し數千名の土工夫は或は高丘の切崩しに或は凹地の地均しに或は海面の埋立てに従事し居れるが請負人橋本組にては之が總工事を四十名の下請負人に請負はしめて監督を爲し下請負人は専ら請負契約に負かざらんことに努め居れども其土工夫に對する待遇悪しきものは人夫逃走其他の損害起り又親切に之を使役するものは意外の利益を得るの状況なり模型工場に充てらるべく敷地地がだめは佛國人の請負に係り最新式機械を以て従事し又機械工場は目下切崩し中なる喇叭森の山丘位懸と接屬し居る切崩地跡へ建築さるゝ趣にて岩本少將坂本大佐等所員備夫職工機械運搬等約六七百名を督して建築準備に従事し居れり本工場用水道工事は前述の如く豫期以外に進工し貯水池を字御崎背後の山上に設け目下其作業中にして曩きに鶯別水源池工事主任たりし小林彌太郎氏之が主任とあり既に工事の七八分形竣工せり而して該工事の設計は直徑二百四十尺の池中中央をコンクリートを以て分畫し二個と爲し周圍は總て人造石を用ひ池底はコンクリートと爲して漏水を防ぎ之れに三個の排水口を設けたるものにして池の水尋は常に十六尺を保有し此水量は三百五十ガロンなりと云へるが之れに使用の人造石は目下輪西村に於て製造し居り又水管布設工事は已に竣工せり

役員住宅は既設の分を除き他は總て敷地内鐵道線路外高丘地に建築中にして役宅職工長屋等は明治四十一年十二月限り竣工の豫定にて日々一千三百人餘の大工職専心其の工事に従事しつつあり之れを要するに未だ基礎工事の域を離れず土工は四十二年七八月頃までには埋立工事二萬千七百坪内十三萬二千七百九十七坪は北海道炭礦汽船株式會社の分六萬八千九百三坪は室蘭町より埋立権利譲受けの分と共に竣工すへし土工以外の工事として既に竣工せしは原動力室の煙筒の葺のみにして其他目下急速に工事を進めつゝあるは鍛冶工場之れに次て機械工場にして原動力室と共に何れも明治四十一年より同四十二年春季までに完成の豫定なるが七工場の内鍛錬、鑄造、模型の三工場及び鋸鑛鍊は最後に着手せらるべきものあり

既設の鐵道線路を山手に移轉し現在の軌道を工事材料の運搬用に供せん計畫は本年六月中に施行の豫定なりしも變更線路の工事に難所ありて遅延せしも七月盡日を以て移轉工事の落成を告げ八月一日より新線路を開通せり斯くありし上は工事材料の運搬上大なる利便を得へし既に到着せし器械類蒸氣機關一臺釜四臺其他基礎工事の用材等なるが工事の進捗に伴ひて續々到着の豫定にして製鋼業の着手は四十二年夏季若くは四十二年春季と期待せられ廢休早出居殊り各々分擔事務に勤務し居れり

(二) 室蘭製鐵場創設當時の概況

北海道炭礦汽船株式會社所屬室蘭製鐵場は日本製鋼場の企業投資二千萬圓の豫定なるに對し僅々五十萬圓の資本を以て砂鐵褐鐵等を材料とし最良の銑鐵を得んとする試験的事業にして製鋼所原料の供給所として注目の値ひあり然れども製鋼所は室蘭製鐵場の砂鐵試験の結果如何に拘らず最初は材料の供給を海外より仰ぎても製鋼に従事すへければ製鐵場試験の成績如何は差したる重大事にあらざるへし而して工作場の一部熱培爐、鑄鍊爐、捲上機其他基礎工事の大部分を了り鑄鍊爐の煉瓦積及び熱培爐の鐵板穴明けは既に悉皆之を了りたれば遅くも九月早々熱培爐の据付位置建設著手のはづなり又機械類の到着せしは發電機械其他鑄鍊爐熱培爐等の附屬材料に過ぎざるも砂鐵工場器械の大部分は既に横濱に到着し器械据付は本年中の豫定なり鑄鍊爐の上屋は要部を煉瓦として大部分木造の豫定にして既に繩張りを了り九月頃には著手の筈にして一體の抗打工事は冬季作業困難の爲め四五十日間遅延せしを以て隨て全部の工事に影響を來せり目下發電所其他の抗打工事進行中なり而して職工現在數は僅々六七名なるも主として機械類の加工組立に従事し居るも明年に至らば二百五六十名に増加せらるべく愈々銑鐵製造著手期は明治四十二年七八月頃なるへし亦會社は砂鐵及び褐鐵鑛區をも有すれども當分は他より購入の上試験に供すべく其結果良好なるときは三百萬圓内外に増資し大經營を施す筈なるが此第二期擴張は明治四十三年以後ならん

第十章 室蘭の實業大勢

(一) 概言

當港實業界の梗概を記述するに當つて室蘭實業會の設立を紹介せんと欲す抑も室蘭實業會なるものを設立せしは逐年商業の進歩に伴ひ本港の商工業に従事する者商業會議所の設置を希望すと雖も法律は商業會議所會員選舉權に關する財産上の資格は所得税を納むる商工業者に限られたるを以て同税を施行せられざる室蘭に於ては之を設立するに由しなかりしが明治二十八年七月除外例を以て北海道に設立する會議所は地方税を以てする事と定められしも商業不振の室蘭は商業會議所設立の機會を得ずして室蘭實業會の設置を企畫し明治三十七年會長に谷朝雄氏副會長に最上谷慶次郎氏を推選し茲に實業會の完成を告ぐるに至れり爾來室蘭實業會が如何に本港商工業界の地方問題に關し直接間接に貢献せんとなせしかは多言を要せざる所なり左に營業別戸數及勞働者賃金を掲ぐ

(二) 營業別戸數

室蘭大觀

營業名	戸數	營業名	戸數	營業名	戸數
物品販賣業	三〇	料理業	四	回漕業	三
土木請負業	三	理髮業	二〇	鍛冶業	二七
製造業	三〇	寫真業	二	醫師業	二
飲食業	三	水上運送業	三	質屋業	五
人力車	二	金錢貸付業	一	葬具業	四
公ナル周旋業	三	倉庫業	四	生魚仲買業	八
銀行業	二	蹄鐵業	六	按摩業	三
電燈業	一	代辦業	二	貸座敷業	一
仲立業	二〇	遊技場業	二	其他	二
物品貸付業	五	送業	五		
		宿業	二五		
		賣業	二五		
		藥業	二八		

(三) 勞働賃金

職業別	男女	給料	金額	職業別	男女	給料	金額
農業日雇	男	七〇〇	指	職	男	一、五〇〇	靴
染物二職	女	四〇〇	物	職	男	三、〇〇〇	鍛
	男	四〇〇	根	職	女	一、五〇〇	冶
	女	二〇〇	職	職	男	三、〇〇〇	職
	男	二〇〇	月	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	給	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	男	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	月	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	給	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	男	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	月	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	給	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	男	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	月	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	給	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	男	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	月	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	給	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	男	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	月	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	給	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	男	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	月	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	給	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	男	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	月	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	給	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	男	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	月	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	給	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	男	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	月	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	給	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	男	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	月	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	給	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	男	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	月	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	給	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	男	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	月	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	給	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	男	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	月	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	給	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	男	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	月	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	給	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	男	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	月	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	給	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	男	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	月	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	給	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	男	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	月	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	給	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	男	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	月	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	給	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	男	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	月	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	給	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	男	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	月	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	給	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	男	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	月	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	給	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	男	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	月	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	給	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	男	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	月	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	給	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	男	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	月	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	給	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	男	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	月	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	給	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	男	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	月	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	給	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	男	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	月	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	給	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	男	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	月	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	給	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	男	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	月	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	給	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	男	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	月	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	給	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	男	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	月	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	給	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	男	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	月	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	給	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	男	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	月	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	給	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	男	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	月	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	給	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	男	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	月	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	給	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	男	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	月	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	給	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	男	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	月	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	給	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	男	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	月	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	給	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	男	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	月	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	給	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	男	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	月	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	給	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	男	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	月	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	給	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	男	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	月	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	給	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	男	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	月	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	給	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	男	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	月	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	給	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	男	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	月	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	給	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	男	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	月	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	給	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	男	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	月	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	給	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	男	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	月	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	給	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇	男	職	女	一、五〇〇	職
	女	一〇〇	月	職	男	三、〇〇〇	職
	男	一〇〇					

和服仕立職	月給男 三〇、〇〇〇	經 師	職	月給男 三〇、〇〇〇	酒造稼人	月給男 六、〇〇〇	
洋服仕立職	月給男 三〇、〇〇〇	疊	職	月給男 五、〇〇〇	醬油稼人	月給男 八、〇〇〇	
木挽職	日給男 一、二〇〇	建 具	職	日給男 一、二〇〇	桶	職	月給男 二〇、〇〇〇
鋸 職	月給男 五、〇〇〇	石	工	日給男 一、五〇〇	下	男	月給男 三、〇〇〇
大 工 職	日給男 一、三〇〇	菓子職人	人	月給男 二、〇〇〇	下	女	月給男 二、〇〇〇
左 官	日給男 二、〇〇〇	下 駄	職	日給男 七〇〇	子	守	月給男 一、〇〇〇
和洋料理人	月給男 二〇、〇〇〇	日 雇 人	人	日給男 七〇〇	日 雇 女	日 給	日給男 一、〇〇〇
日雇子供	日給男 一、〇〇〇	商店 雇 人	人	月給男 七、〇〇〇	商店雇子供	月 給	日給男 二、〇〇〇

(四) 工場及職業戸數

室蘭が微々たる舊土人の部落より發達して今の繁榮なる市街を成すに至りし變遷は前章既に叙述したる所なり今や昔日の觀を止めず僅かにオハシナイ及び繪柄海邊に於て若干の漁場を止むと雖も港内船舶の入出頻々たるに至りし故か其の漁收は殆んど數ふべき類に上げらず依て漁業に従ふ者亦少し然れども外海に屬する宇老名牛及びボヤ崩邊には沖合漁業に従事する考あるも是等少數の人士を除き本港住民の重なる者は皆商人にして下層にありては日雇勞働者最も多し今試みに官公吏教員等公共的職業に従

事する者及多數の勞働者を除き本港住民の生業別を擧ぐれば左の如し

- 一、生産的職業に従事する者二千九十五戸
 - 二、不生産的職業に従事する者二百七十一戸
- 右の標準に據り更に之れを細別すれば左表の如し

生産的職業に従事する者
不生産的職業に従事する者
前表の内重なる事業を左に列擧すべし

- 一、酒類醸造 本業は逐年盛況の度を示せり是れ日本製鋼所事業の創設に由り多數勞働者の聚來と轉住者の増殖に鑑み起業熱を起さしめたるも基因すべし明治四十二年の調査に依るに酒類醸造業者二名其の造石高三百石を下らず
- 二、醬油醸造 本業は年々盛んなり明治四十二年度の斯業者一名其の造石高二千三百三十八石此金額三萬七千三百七十二圓とす
- 三、味噌製造 是亦醬油と同じく人口の増殖に伴ひ漸次其の需用を増加し年を追ふて旺盛に赴けり従業者一名製造高三萬三千七百六十八貫を下らず
- 四、製材 製材工場としては井上木工場あり蒸氣原動力を用ゆ
- 五、精米 明治四十二年中小樽共成株式会社室蘭支店の創始したるものにして蒸氣原

- 動力を用ゆ
- 六、硝子製造 明治四十一年の創設にして其の設備未だ平硝子を製するの機に達せざれども普通硝子類を製造す
- 七、鐵工 工場三ヶ所あれども内二ヶ所は微々として振はざりしが遂に閉店するに至れり稍や見るべしものを眞砂兄弟鐵工場とす本場は蒸氣原動力を用ひ主として日本製鋼所諸機械製作及港内出入船舶の船具諸機械の製作及修繕等に從事す
- 八、造船 栗林佐々木岡本等の造船工場あるも皆な自家用解の新造及修繕に從事するものにして其他漁舟の新造又は修繕を爲すもの本間外二軒あり
- 九、電燈 北海道炭礦漁船株式會社の創設したるものにして逐年隆盛に赴き明治四十年に於て發電所を輪西製材所に併置し電力を増すの計畫ありと云ふ
- 沃度製造 本業は最初川合利吉氏の投資に依りて起業せしものにして近海の昆布を採取して之れが製造を爲す

(五) 室蘭實業團體

- 公私實業團體左の如し
- 一、室蘭實業會
- 二、米穀商組合
- 三、水産組合

- 四、理髮業組合
- 五、履物商組合
- 六、時計商組合
- 七、履製造業組合
- 八、旅人宿營業組合

(六) 學務委員氏名

職	氏名	職	氏名
學務委員	谷 朝 雄	學務委員	阿 部 文 治
同	最上谷次吉	同	幸 松 秀 三
同	栗 林 五 朔	同	大 黒 文 治
同	今田房次郎		

(七) 衛生組長及消防組頭氏名

職	氏名	職	氏名
衛生組長	岡田房之助	消防組頭	河田幾次郎

第十一章 室蘭の交通

(一) 概 言

室蘭港の地勢たるや背後陸を負へ一方海に面するが故に陸には其の埠頭より起る鐵道追分に於て二となり一は夕張炭山に通じ一は北走して岩見澤に到り手宮より札幌を経て來る空知線に合し蜿蜒として本道の中央を縦串し旭川に於て更に岐れて天鹽十勝の二線となり手宮より函館に至る北鐵線に通ず海には汽船の來往遠く歐亞の大陸に及び此兩者を連結するに完全なる海陸の設備間然する所なきに至れり而して日航海陸連絡線は青森に到り奥羽官鐵線に連絡を保ち又金森汽船草薙丸及び振洋丸は室蘭より紋龜、虻田、辨邊等を経て函館に日々航海せり而して檜崎汽船部喜生丸は對岸森港に日々航海せり本船は往路二時三十分にして森に達し乗客をして函館間の鐵道に連絡を保たしむ其の他東海岸地方へは二百五十哩西海岸へ七十七哩あり小樽に比して近く函館に比して十三哩乃至五十二哩遠きも北海道の中央に接するの利あり故に小樽函館間の鐵道開通後と雖渡道者多く此地に上陸す又噴火灣汽船會社汽船は室蘭、紋龜、虻田、辨邊函館に向つて航行し加ふるに北海道炭礦汽船ありて三陸地方に對する航海をも開かる又紋龜、虻田、辨邊等へは汽船いろは丸日々航海して内浦灣内一部の交通を便にす近く釧路鐵道布設せられ輪西俱知安に到る交通を開始せらるゝに至らば函館室蘭間の交通に至大の利便を與ふるに至り加之金山鐵道線を布設し浦鹽斯徳との航路開始せらるゝに至らば本道東海岸に於ける旅客又は貨物の集散地と化し室蘭港前途の發展や蓋し

測り知る可からざるものあらむ而して室蘭より札幌に通ずる人道の一斑を示さば室蘭港札幌通りに起りて港内の東南部に於ける海濱に沿へ字母戀を経て輪西村に於て分れて二となり一は鷲別に到り東岸札幌より漸次苦小牧に到るものにして一は輪西より分岐して元室蘭に到り伊達村より内浦灣沿岸を繞り長萬部に達するものと黒松内より右折して西岸壽都港に到る又虻田村より岐れて眞狩、俱知安等を経て岩内港に達するものと眞狩村字留壽都より右折して定山溪を経て札幌に通ずるを得此の幹線として室蘭に起る道路は實に本港の要道あるも日本製鋼所埋立工事を開始せらるゝに當り字母戀及び佛坂以北に於ける丘陵を崩壊して平坦ならしめ附近海面の淺瀬を埋め立てんとするの設計實施中あるを以て室蘭輪西間の國道は全然梗塞せられつゝあり而して室蘭岩見澤間の鐵道線中の室蘭輪西間に於ける字母戀の海岸線も又製鋼所敷地内樞要の箇所を以て該線路を山手に移轉變更するに至れり故に室蘭輪西間の人道は此鐵道線路に沿ふて開鑿せられたり斯の如く國道及び鐵道線路を變移するに至りたるも一般交通の上には格別の支障あるなく其交換的事業として最も目覺ましきもの、一二を擧ぐれば埋立地中央地先きより渡り一千五百五十尺高さ六十三尺の埠頭を築設し以て軍艦商船等を横付けに爲さしむるの設計にして今や晝夜を分たす幾百の人夫を役し巧みの機械を應用して作業中なれば之れが竣工を觀るの曉きに至らば製鋼材料搭載の船

舶と軍器彈丸等積取りの内外國船舶をして遺憾なく荷役を爲さしむるに至るべし

(二) 郵便及電信線

郵便線路は室蘭町海岸町に起りて國道輪西に於て分れて二となり一は苫小牧に至り東岸日高を経て釧路根室及千島等に至るものにして一は千歳漁等を経て札幌に達し一は旭川に到り宗谷より海を越へて樺太島に達す一は小樽に到り余市、古平等の海岸を繞ふて岩内に達するものと余市より左折し稻穂峰を越へて岩内又は壽都方面に通ず亦輪西村より縣道内浦灣沿岸伊達村を経て虻田に到り一は俱知安岩内方面に達するものと一は靜狩山道を超へて黒松内に到り壽都方面に通ず一は長萬部を経て函館に到り海を踰へて青森市に連絡す

電信線路も亦郵便線と稍や似たるものにして室蘭町海岸町に起りて宇電信濱に到り海底渡島國茅部郡砂崎に達し更に陸上函館に到り又海底内地に達するものと函館より陸路西海岸を繞ふて福山江差に通ず又札幌通りに起りて輪西に到り一は伊達村を経て虻田局に到り分れて長萬部海岸函館に達するものと俱知安方面を経て余市岩内等に通ず一は輪西局より岐れて苫小牧局に到り右折して東海岸日高、釧路、網走、根室等に到り海底千島國擇捉島に達するものと同國國後島に通ず一は苫小牧より分れて札幌に至

室蘭大觀

室蘭大觀

り旭川より十勝方面に到るものと西海岸小樽を経て岩内壽都に到り江差福山等を経て函館に達するものあり又札幌より石狩に至り西海岸増毛留萌等の沿岸を繞ふて北見國宗谷に到り更に海底樺太島に通ず

(三) 交通

種別	延長	數量	量
國道	三二里二七町		
假定縣道	五〇里十六町三〇間		
殖民地道路	二四里三町三四間		
鐵道	七九哩九分		
軌道	三七哩		
驛		一八戸	
渡船場		二二所	
棧橋		四所	
汽船		二六艘	(二、二〇七噸)
船		二八艘	(二六、二六六石)

(四) 室蘭森間定期航路

室蘭町の檜崎平太郎は明治四十一年六月二十日より小蒸汽船喜生丸(百二十五噸)を以て室蘭森間の定期を開始し毎日室蘭出帆午前七時半、森出航午前十時室蘭着〇時三十分(航海二時間三十分)にして森より函館行は午前九時四十五分發、小樽行は〇時三十分發、室蘭より岩見澤及び札幌方面行は午後三時發の列車に接續し乗船賃は二等二圓五錢三等一圓二錢(兩地方の船賃及通行税を含む)を以て専ら室蘭函館間の交通を便にするの途を啓けり

(五) 室蘭函館間海底電話

室蘭函館間海底電話架設せんとして函館區に於ては該架設費の寄附金を募集せしに頗る好果を奏し既に豫定の金壹千圓の應募を得殘額八百圓を室蘭の負擔額として募集中なり既に炭礦汽船會社に於て四十二圓出資せし程なれば其他の有志者に就き寄附せしむることは容易なるべし

(六) 鐵道乗容出入

類別	明治三十八年	明治三十九年	明治四十年
出	五、三五八人	四、五八八人	
入	五、七九人	六、八〇〇人	

(七) 室蘭上陸移民

年度	戸數	人口
明治三十八年	三、六七戸	八、八八〇人
明治三十九年	八、八四戸	一九、九三〇人
明治四十年	一五、一五戸	三二、九三〇人

(八) 海外要港に對する哩程

自室蘭	至	哩程
浦鹽	仁川	五〇〇
牛莊	天津	一、五七〇
上海	香港	二、三三九
新波香	巴達維亞	二、〇九二
トシヤ	桑港	一、五八四
		二、一九四
		二、五六四
		四、〇〇〇
		四、〇五五
		四、二〇〇

(九) 内海要港に對する哩程

自室蘭	至	哩程
伊達	虻田	二二
辨邊	函館	一八
青森	横濱	二四
神戸	新潟	七九
敦賀		一〇九
		五三九
		八六九
		三〇三
		五〇一

第十二章 室蘭の商業

(一) 概言

室蘭港は函館小樽の二港と鼎立し北海道の利源を啓發すへき一大任務を帯ぶと雖も政府の施設に至りては二港に於けるものと昔壞の差も曾ならず爲めに屢々悲境に沈論せり然れども今日の景勢より察するときは今後益々發達を促し更に既往に倍蓰するに至るや論を待たざる所にして従つて海岸埋立の必要を惹起すへきは勢の然らしむる所なり加之風光の明媚は觀光者を誘致し船舶の出入頻繁なれば海員上陸すへく之れに伴ふ遠來の諸客に娛樂を興ふるの設備は最も緊要なり又石炭コークス林産物及び農産物水産物等の集散場として海陸運輸の便を有す隨て商業の發達を見るは自然の勢ひなるのみならず町の沿海は地勢出入多く殊に繪柄半島及びボンモイ老名牛、トツカリシヨの如きは最も漁港に適し生魚のみを以て一ケ年の收穫高十萬餘圓を算せり今當町に於ける重なる會社及本支店出張所等を左に掲げて取引上の參考に供せん

(二) 室蘭の諸會社及支店

類	別	位置	資本額	營業名	年月創立
		北海道銀行室蘭支店	二〇〇,〇〇〇	銀行業	明治三十四年六月
		札幌倉庫會社室蘭代理店	一〇〇,〇〇〇	倉庫業	明治三十七年
		今井合名會社室蘭支店	三〇〇,〇〇〇	販賣業	明治三十三年一月
		噴火灣汽船會社代理店	五〇〇,〇〇〇	海運業	明治三十三年五月
		室蘭共成株式會社	一〇,〇〇〇	依託販賣業	明治三十九年七月
		室蘭産物株式會社	一〇〇,〇〇〇	同	明治三十一年六月
		日本郵船會社室蘭代理店	三,〇〇〇,〇〇〇	海運業	明治三十三年二月
		室蘭給水株式會社	一〇〇,〇〇〇	給水業	明治三十八年九月
		内國通運株式會社室蘭取引店	一,二五〇,〇〇〇	陸運業	明治三十五年六月
		北海道炭鐵汽船株式會社	三〇,〇〇〇,〇〇〇	採炭及海運業	明治三十九年七月
		株式會社日本製鋼所	一〇,〇〇〇,〇〇〇	製鋼業	明治四十年三月
		室蘭煙草合資會社	：	煙草元賣業	明治四十二年
		小樽共成株式會社室蘭支店	：	精米業	明治二十四年四月
		栗林合名會社	：	漕業	明治四十二年六月
		樽崎合名會社	：	同	同 四十二年

山崎合名會社 同
日本商業銀行室蘭出張所 札幌通

銀行業 同

(三) 輸出入總計

室蘭港外國貿易累年對照表

室蘭大觀

年次	額
二十七年	二八、六二七
二十八年	一八二、九七六
二十九年	三四〇、五四八
三十年	七二一、六六七
三十一年	四八一、〇七六
三十二年	四七九、二八八
三十三年	一、一七二、八三五
三十四年	一、四三六、九四二
三十五年	一、一一三、三三九
三十六年	一、六九一、二六二

室蘭大觀

年次	(四) 輸出	合計	木材類	石	炭	其他
二十七年	三、三七八	三、三七八	三、三七八			
二十八年	三、三七八	三、三七八	三、三七八			
二十九年	三、三七八	三、三七八	三、三七八			
三十年	三、三七八	三、三七八	三、三七八			
三十一年	三、三七八	三、三七八	三、三七八			
三十二年	三、三七八	三、三七八	三、三七八			
三十三年	三、三七八	三、三七八	三、三七八			
三十四年	三、三七八	三、三七八	三、三七八			
三十五年	三、三七八	三、三七八	三、三七八			
三十六年	三、三七八	三、三七八	三、三七八			

室蘭大觀

年次	三十四年	三十五年	三十六年	三十七年	三十八年	三十九年	四十年	四十一年	四十二年
合計	九四一、三七〇	一、一三三、三三九	一、四四四、一八三	一、三三三、七五九	一、二六六、〇三三	一、三三一、八九六	一、九二四、六六七	一、三五三、八八七	一、二五〇、二五八

(五) 輸 入

年次	三十四年	三十五年	三十六年	三十七年	三十八年	三十九年	四十年	四十一年	四十二年
鐵道用材	二八四、四三三	三三三、〇九二	四三三、七〇二	三三六、二五三	三三三、四七七	一、〇五一、一六二	一、四一八、八七三	九六二、八八〇	一、〇七〇、〇三八
器械類	七三三、九〇七	八八六、二六〇	一、〇三九、一三七	六五五、五五五	八三三、八二〇	一、七〇〇、七三七	三九〇、六〇二	三九二、〇〇六	一、四一、四三〇
其他	〇	〇	〇	七三六	〇	二五二、二三	〇	〇	一、七〇〇

第十二章 室蘭の商業

室蘭大觀

年次	三十六年	三十七年	三十八年	三十九年	四十年	四十一年	四十二年
合計	一、二二七、〇八〇	二、四、六七五	一、七四、二一四	三、〇四六	三、八八七	四、三五六、九〇七	四、一二二、二二九

(六) 外國貿易船入出港

年次	三十六年	三十七年	三十八年	三十九年	四十年	四十一年	四十二年
入 港	二二六、六五六	〇	一七三、七八一	〇	〇	〇	〇
出 港	四二四	二四、六七五	四三三	三、〇四六	三、八八七	〇	〇
入出港計	四二四	二四、六七五	四三三	三、〇四六	三、八八七	〇	〇

備考 本港ハ三十六年ヨリ輸入ヲ許サレタリ
備考 製鋼所機械及建築材ハ四十一年ヨリ輸入ヲ始ム

第十二章 室蘭の商業

室蘭大親

年次	入 港	出 港	入出港計
三十年	四五	四六	九一
三十一	三八	四一	七九
三十二	四四	四八	九四
三十三	六七	八八	一五五
三十四	九七	一〇七	二〇四
三十五	七二	九〇	一六二
三十六	七四	一〇〇	一七四
三十七	五三	六六	一一九
三十八	一〇二	〇八	一一四
三十九	一一四	三八	一五二
四十	一一〇	四五	一五五
四十一	一〇八	一六	一二四
四十二	五七	七九	一三六
噸數	八二、一八四	八三、七四七	一六八、九三一
噸數	四一、四一二	五二、〇六五	九九、五三七
噸數	六八、〇八三	七三、九三八	一四三、〇二一
噸數	一一六、二八一	一四一、五三八	二五七、八一九
噸數	一九六、九八九	三〇八、〇四八	四〇五、〇三七
噸數	一四〇、七〇三	一六七、六五三	三〇八、四五六
噸數	一五六、七五四	一九七、六六五	三五一、四一九
噸數	一三五、五〇二	一五四、四二七	二八九、九二九
噸數	二六九、六九六	二一一、三三二	五四七、〇二八
噸數	二七一、〇二八	三〇四、〇一八	五七五、〇四六
噸數	二六六、七一八	三二〇、七四二	五八七、四六〇
噸數	二七七、五八〇	二八四、八二二	五六二、四〇七
噸數	一五四、八八六	一九一、〇四三	三四五、九二九

(七) 外國船入出港

室蘭大親

年次	入 港	出 港	入出港計
二十七年	四〇	四〇	八〇
二十八年	五六	五六	一一二
二十九年	九〇	八八	一七八
三十年	六六	七〇	一三六
三十一年	六七	六七	一三四
三十二年	五三	六二	一一四
三十三年	三三	二八	六一
三十四年	二九	二七	五六
三十五年	二六	二六	五二
三十六年	二五	二五	五〇
三十七年	二四	二四	四八
三十八年	二三	二三	四六
三十九年	二二	二二	四四
四十年	二一	二一	四二
噸數	六五、五〇〇	六五、五〇〇	一三一、〇〇〇
噸數	一〇八、六六八	一〇八、六六八	二一七、〇〇〇
噸數	一九〇、九八四	一八六、五五七	三七七、五四一
噸數	一三六、六六三	一四三、〇九〇	二八一、七五三
噸數	一五六、三七二	一五六、三七二	三三二、七四四
噸數	一三三、九八四	一四五、四四三	二七九、四二七
噸數	二六九、六九六	二七七、三三三	五四七、〇二九
噸數	二四〇、二三三	二五五、八五九	四九六、〇九二
噸數	二〇九	二〇八	四一七
噸數	二〇三	一四	二一七

關 大 蘭 登

年次	入港	出港	雙數
噸數	噸數	噸數	噸數
三十一年	九四六、二八〇	四一六、四三八	一、三六二、七一八
三十二年	一、〇四七、四七二	九四三、五二四	一、九九〇、九九六
三十三年	一、五九六、六七三	九三二、二九九	二、五二八、九七二
三十四年	一、九七三、八六〇	九四〇、五七〇	二、七一四、四三〇
三十五年	一、九四二、六四五	一、二〇三、五五一	二、〇六三、〇〇〇
三十六年	二、九四〇、八七四	一、三九一、〇〇四	四、三三一、九四八
三十七年	三、八七五、二五六	一、九二四、〇一五	五、七九九、二七一
三十八年	六、七二五、九〇一	二、〇五一、七三六	八、七七七、六三七
三十九年	六、二四八、六八六	三、〇五一、三九二	九、三〇〇、〇七八
四十年	七、四四三、五八六	六、八三二、四四四	一四、二七六、〇三〇
三十七年			一四、二七六、〇三〇

(二二) 沿海通航船入出港

全

關 大 蘭 登

年次	輸出	輸入	計
三十四年	四二一、三五三	七、九七五	四二九、三二八
三十五年	二八九、〇〇二	一三、三七八	三〇一、五八〇
三十六年	二七三、一一九	一〇、八一〇	二八三、九二九
三十七年	二四六、一七四	八、八二二	二五四、九九六
三十八年	五三七、四七三	一四、二八六	五五一、七五九
三十九年	四七六、六五〇	二二、九二一	四九九、五七一
四十年	四一六、三六二	一六、三六三	四三二、七二五
四十一年	三二七、七三八	一五、〇五五	三四二、七九二
四十二年	二七三、四四二	一三、一七〇	二八六、六一二

(二〇) 沿海商業輸出入

全

二十八	二十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一	四十二
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
一、〇二九	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七
四六八、一九〇	五〇三、二〇七	六〇二、三三三	五三九、五二五	五八四、三六五	一、〇八一、六二七	一、〇七六、六〇八	一、〇七六、六〇八	一、〇七六、六〇八	一、〇七六、六〇八	一、〇七六、六〇八	一、〇七六、六〇八	一、〇七六、六〇八	一、〇七六、六〇八
一、〇二五	一、〇〇五	九八七	一、〇三二	九九二	一、五四三	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇
四六九、三九四	四七一、三四五	六四八、一九四	五三二、二四八	五四七、七八三	一、〇七四、七三七	七九、八〇七	一、〇七六、四二四	一、〇七三、九二二	九二二、〇八七	九二二、〇八七	九二二、〇八七	九二二、〇八七	九二二、〇八七
二、〇四〇	二、〇三六	二、〇〇四	二、〇六四	二、〇三二	三、〇八〇	二、八二〇	三、一八六	三、三三八	三、二七〇	三、二七〇	三、二七〇	三、二七〇	三、二七〇
九七五、五八四	九七三、五五二	一、三二〇、五五八	一、〇五二、九三三	一、二三三、一四八	一、二五六、三五四	一、四四四、四四五	二、一五七、〇五〇	二、一六七、七〇六	二、一七〇、六三三	二、一七〇、六三三	二、一七〇、六三三	二、一七〇、六三三	二、一七〇、六三三

第十三章 室蘭の經濟

(一) 概言

今茲に室蘭に於ける經濟上の景況を叙するに當り主要の原因を探究するを要す蓋し一般經濟界に與ふる事實は金融狀況の如何にあるは喋々を待たざる所にして室蘭港が將來内外國に對する主要の商業港たるは既に前章述べし如くなれど輸出品の經濟界に及ぼす勢力は最大と認めて可なる事は寸時と忘るへからず沿道諸工業に關する需用供給は當港を経て行はれ而して夫等作品は又當港に輻輳し當港商人の手に據りて取引せられざるも倉入れ又は荷物の積卸等に依りて受くる利益は決して悔るべからざるものあらん況んや將來膨脹日高の兩國及石狩國等より輸送する所の農産物の集散も亦大に増加するは勿論此田鐵鑛業の擴張、骸炭の製造、造船場の設置製材業の發達朝夕炭鑛業の擴張等に依りて終始金融緩漫を告げ之れに反し農産、水産、木材等出廻りの期節は經濟界活躍の時期にして其貨物は如何に室蘭の經濟上に影響するかは豫期すべからざるものあり今室蘭經濟上に影響を與ふる原因の主要なる點を講究すると共に既に於ける室蘭金融機關の成績を照査することは又商業家の必要事と思料するに因り左に北海道銀行豫金及貸付金、手形扱高、郵便爲替貯金、勞働賃金等を示す

室蘭大觀

(三) 北海道銀行室蘭支店預金及貸付金

類別	明治三十八年	明治三十九年	明治四十年
預入	二、七三二、八五六	二、九八五、〇五六	四、五〇三、二九四
拂戻	二、五二八、三七五	二、八五七、三七八	四、〇五五、二五四
貸出	三、五二〇、七七六	二、八一、三五八	五、五五四、二〇五
返金	三、七四三、三九〇	一、八七四、四九七	三、九六、七五七

(三) 北海道銀行室蘭支店手形扱高

類別	明治三十八年	明治三十九年	明治四十年
送金手形	三、三三八	三、五三七	四、三九九
振出	二、五八六	二、五五五	三、三五七
荷爲替	三三三	三三三	一五〇
割引手形	九九九	六六八	八九九
當所他所	三三九	二五五	三五七
貸金取立手形	三五八	二八九	六六
常所他所	三三〇	四〇〇	六六

(四) 室蘭二等郵便局爲替及貯金

類別	明治三十七年	明治三十八年	明治三十九年	明治四十年
振出	一四、八七六	一九、二三八	三三、一〇七	二六、三五三
拂渡	一四、二七七	一五、六〇〇	三三、七二一	一七、八六四
預入	四、六〇三	五、二二一	五、九七一	八、八四二
拂戻	一三六	一八九四	二、〇八七	三、一四四
新規入員	五〇〇	六五	六九四	二、二〇八

(五) 母戀二等郵便局爲替

月別種別	明治四十一年五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
振出	三八四	四六五	五二三	六五一	七八二	七五〇	六〇三	七二三	四、八八一
拂渡	二、九三四	三、一四二	四、三六三	五、五二四	七、七七〇	六、九二二	五、五五二	六、三二〇	四二、五〇一
預入	二二〇	三四	四九	四七	六四	七〇	五四	七九	四一九
拂戻	二二	三三	四二	四七	六四	七〇	五四	七九	四一九
新規入員	六九、八六〇	一一九、七四〇	一八〇、〇九〇	四二四、五六〇	四七七、三〇〇	四三二、六五〇	二一一、三三二	三三一、四〇〇	二、二四六、九二二

第十四章 室蘭の衛生

(一) 概言

室蘭港は公衆衛生的の設備著々其の歩を進めつゝゆるも個人衛生思想の發達遅々たるを免れず蓋し本港は從來洋沈定まりのなきの土地なれば永住するもの極めて少なく隨て健康被害等の媒介を以て衛生の重きを知らず舊慣に泥み單に個人自營の方法に據りて満足するの傾向あるは甚だ遺憾とする所なり若し市街の汚水穢物等を公共事業として市外に運搬し以て衛生上の一大改良を爲すならば當だに公私衛生上に於て益するのみならず一は港灣に汚穢物を排出するの途絶へ隨て海水腐敗の源泉を絶つのみならず港底の埋没を未然に防ぎ一は陸上に於ける惡臭を減するに至らば公衆衛生上に至重至大の利益を與ふるや蓋し鮮少にあらざるを信す之れに反して現今の如き衛生思想を以て各般の施設を爲すに於ては或は八種傳染病の襲來を縦にし其の病毒を撲滅すること容易の業にあらざるべし何んとなれば本港の如き水利不便にして市街高低多き土地にありては特別の施設を爲さざる時は汚水其他の汚物をして高處より低處に波及せしむるの妨ひ大なるを知るに足らん既に明治四十二年夏季本港に於ける赤痢病の猖獗

室蘭大觀

を逞ふせし一例に徴するも明かなるべし故に當局者大なる手腕と覺悟とを以て衛生上百年の大計を樹つるにあらざれば本港の發達を遲緩ならしむるの恐れあるなり本港は函館小樽に亞ぐの商港として將來衛生上諸般の設備を爲さざるべからざることは前叙の如し左に既往四年間の衛生費及び町立病院、傳染病舎、傳染病舎收容患者病名及年別表開業醫數及び資格及び公私立病院衛生組合等を掲げて其の一斑を窺知するの資に供せんとす

(二) 衛生費累年支出額

項目支出年度	明治三十七年	明治三十八年	明治三十九年	明治四十年
衛生費	三、三三、一五〇	一、七三〇、五八五	二、四〇〇、五七五	人

室蘭町に於ける衛生上の實況を觀察するに當り年次人口の増殖に伴ひ衛生費を増すの景勢あるを認めるは理勢の然らしむる所なり故に將來町立病院の改築を企畫し隨て院内の設備を完全ならしめ町民の生命を安全に保護すると共に内外國に於ける海員又は遠來の旅行者等をして遺憾なく治療を施すの感運に向はしむるは本港民の責任ならん室蘭町立病院は米川院長退職後兎角批難の聲高く町前雀羅を張るの觀ありしも明治四十一年六月田中醫學士院長として着任以來頓に人氣を恢復し從來午前中に於ける外

室蘭大觀

來患者二十人内外なりし者今や倍加して百有餘人の多きに達せり現今の割合を以て將來を推測せば町立病院存廢問題の如きも田中國手の手腕に待つの外なかるべし左に室蘭町立病院を掲げて其の内容を示す

(三) 室蘭町立病院

種別	員數	收容患者最大限	坪數	入院及外來患者數
醫師	四人	人	坪	明治卅七年 明治卅八年 明治卅九年
醫藥師	二人	人	坪	人 人 人
付屬員	七人	人	坪	人 人 人
入院患者	人	人	坪	五、七〇三 六、六〇〇 七、七三六
一年ノ入院患者	人	人	坪	三、三八四 三、四七〇 二、四五五
一年ノ外來患者	人	人	坪	人 人 人
備考	人	人	坪	人 人 人

(一) 醫師の資格は醫學士一人開業免狀一人助手一人

室蘭大觀

- (一) 藥劑師の資格は藥劑師試驗合格一人助手一人
 - (二) 一年の入院患者數に於ては一日平均三十七年には十五人強三十八年には十八人強三十九年には二十一人強なり
 - (三) 一年の外來患者數に於ては一日平均三十七年には五十九人強三十八年には六十二人強三十九年には六十七人強に達す
- 室蘭傳染病舎は本町通り字老名牛の高臺に在り眺望稍々可なりと雖も四面畑を以て圍繞せられ加之塵芥燒棄場に接近するに依り農耕時季に際せば肥料の臭氣と塵芥物燃燒の惡臭襲ひ來り收容患者をして健康を害するの恐あるのみならず室蘭の發達に伴ひ市街の外觀上よりするも現在のケ所に存置し能はざるの状況を呈せり當局者速かに相當敷地を選定し以て移轉の實行を期せられんことを望む左に室蘭傳染病舎及び室蘭傳染病舎收容患者病名及び年別を示す

(四) 傳染病收容患者病名

年別種別	赤痢	腸壘扶斯	實布里亞	痘	瘡	計
明治三十七年	一人	一人	一人	一人	一人	五人
明治三十八年	一人	二人	八人	二人	二人	十四人

明治三十九年 二二二
 明治四十年 二二三
 二二四

(五) 開業醫數及資格

類別 敷試驗及第奉職履歴
 七人 六人 一人

(六) 公私立病院及院長氏名

名	稱	所在地	人院患者設備有無	職員數	院長及院主氏名
室蘭町立病院	室蘭町常盤町	設備あり	八人	院長醫學士 田中好治	
私立米川病院	本町同	設備なし	六人	院主醫學士 米川虎吉	
島影療院	海岸町	設備なし	五人	院主 島影義績	
本多醫院	札幌通同		四人	同 齋藤專藏	
齋藤醫院	札幌通同		四人	醫學得業士 本多芳太郎	
米川病院母戀出診所	母戀同		二人	醫學士 米川虎吉	
後藤醫院	同		四人	院主 後藤願美	

室蘭大觀

中野、醫院同 札幌通同 三同 中野勝太郎
 健原、醫院同 濱町同 一同 健原

外に獸醫一人あり又、常盤町に接骨所あり所主を樋富彦太郎と云ふ其他又鍼治業兼接
 康八軒あり

(七) 衛生組合

室蘭町に於ける衛生組合は明治三十一年の組織に係り全町を三十四區に分ち各部に部
 長副部長を置き部長の次位に副部長及伍長副伍長を等置きて以て組長之れを統轄する
 ものにして公衆衛生上の觀念を涵養するの點に於て此組合の必要なることは勿論ある
 も之れを運用するの法宜しきを得ざれば其規約も遂に死物に屬するに至るべし左に各
 町に於ける衛生上の概況を示す

常町に於ける衛生上の一般を観察するに各町概ね不潔にして殊に千歳町及び海岸町裏
 通りと札幌通りの裏町即ち濱町傍近の地域は土地極めて濕潤なるヶ所多く且つ下水疏
 通不完全にして悪水所々に停溜し隨て降雨等に際せば下水溝の汚水汎溢して根太下若
 しくは路次等に浸水することあり而して塵芥物の如きも各戸備付けの容器以外に散亂
 しありて臭氣鼻を突くの有様なれば之れより蒸發する空氣の不淨なるは言を待たざる

なり又本町通りの東方老名牛通路沿ひ及び武揚小學校右側一帯の谷地は目下北海道廳に於て新道路測量中なれば早晚豫定區畫割の如く開墾工事を起すに至るべく果して其新道竣工するに至らば傍近土地所有者に於て相當地盤を改造することは敢て疑なき所なるも各戸に於ける下水溝及び厠等を姑息的に施設するもあらは前者と同様汚水停溜し其の衛生上に及ぼす所の障害蓋し少少なからざるべし

又室蘭港に新來の人々にして湯屋の不潔と飲料水の不足なることを口外せざるものなかるべし而るに飲料水の善悪と其便不便なることは固より人爲の能くし難きことにあらず敢て喋々するの要なしと雖も湯屋の設備を改良することは當業者の義務に屬せり宜しく速かに町の發展に顧み相當改良を爲すにあらざれば遂に各種の病毒を媒介する關機として人々の嫌忌を惹くに至るべし

劇場内設備の不完全なることも人口に啗食せらるゝ所なり其他二三の旅館を除けば旅人宿下宿屋等に於ける厠洗面場の設備其外夜具布圍器具類に至るまで其の不完全なるは言語に絶せりと云ふ又老名牛濱の塵穢燒棄場の惡穢と肥料（生魚のはらわた及び骨皮の類を製造するもの）製造の臭氣其町内傍近に紛々たり然れども右等の事は衛生組合の規約と行政警察の取締を勵行せば漸次改廢するを得べしと雖も水道の布設下水溝の改修等に至りては其の工費に要する財源に乏しくして一朝一夕に之等の解決を見る

能はざるの状態なるも専用水管工事は海岸町八幡神社下に於ける湧水を分水して海岸町及千歳町附近一帯の飲料用に供せられたるを以て此の水管に沿へる人家は多少の便利を得るに至りしも其他に至りては須らく町實力發展の時機を待つて水道を布設し町民の飲料と船舶に供給する方法を講せば蓋し財源の途なきにあらざるを信するなり

第十五章 室蘭の警察

室蘭警察署は官制の定むる所に據れば警視一人、警部三人、巡查十人を以て定員とし膽振國（俱知安及真狩二村を除く）一圓管轄する廳舎にして大字本町通りに在り其の位置室蘭區裁判所室蘭支廳等に近通するを以て頗る便利の方なり然れども今後人口の増殖に伴ひ繪鞆 母戀 オハシナイ等に巡查派出所の設備を促すに至るや必然なり就中西輪には將來警察分署を設置して輪西母戀に於ける警察事務を處理するに至るべし

(一) 水上警察及母戀巡查派出所

水上警察巡查派出所は字海岸町波止場前に在り港灣一般の警察事務を處理する所なり本港は將來内外國船舶の出入頻繁なるに伴ひ其事務の擴張を見るに至るは亦必然なり母戀請願巡查駐在所は日本製鋼所敷地内に在り駐在の巡查は同所埋立工事勞役者其他

の取締に任せられ四人の巡查をして屬精其事務を處理しつつあるも工事竣工の曉きに至らば更に巡查派出所の設備を見るに至るべしと思惟せらるる
 前述の如く室蘭町の警察事務日と逐て繁雑となるの景勢をれば消防及び衛生の事整備せざる可らざるは固より論を待たざる所なり故に消防組の範圍を擴張すると共に公衆衛生上の實を揚ぐることに勉むるは又當町民の責任なるも一面に於ては監督官署の取締上寛嚴其の宜しきを得ざれば衛生上の發達を期すること得て望む可らず消防も又然り室蘭港の如き水利不便にして市街高低甚しく車馬通行の困難なる土地にありては消防機械を充分に設備すると共に消防夫の訓練を要することは固より論なき所なり左に消防上の一斑を述べん

(二) 消防組合

室蘭町に於る消防組合は明治三十年の設置に係り全部を二部に分ち各部に組頭及び小頭を置き組合内の消防夫を統禦し組頭之れを總轄するの組織にして現在の消防夫は一百二十五人なるも蒸氣機鐵の設備僅かに一箇に過ぎざれば其の設備完全なりと云ふべからず故に今後充分なる設備を待て後ち財産を安全に保護するを得べし當局者須らく室蘭の趨勢に鑑み速かに適當の施設を爲さしむると共に將來新築の家屋をして屋上

桎に換ふるに不燃質物を用ゆる様告諭を爲すは刻下の一大急務たるを信ずるあり
 近年北海道に於ける市邑中火災の厄に罹るもの頻々たり其の中に就て尤も慘憺たりしものを擧ぐれば小樽の大火災に亞ぐ札幌の火災を以てし函館に於ける大火の如きは悲惨中の悲惨にして其の状況たるや筆紙の能く盡す能はざる所なり是等は何れも消防機關備はり消防夫亦相當訓練せられつゝありと雖も水利不便なる爲め消防夫の動作をして何等効力を顯はすの餘地なく三區に於ける幾百萬の財産を一朝にして烏有に歸せしむるに到りたるの其の罪や風伯又は用水の不便等に訴ふる所あるべしと雖も又以て消防機關の不備と其の組織の不完全等に歸せざる可らず見られ上輓近東京に於ける一般火災數の減せしと共に大火災の減少するに至りたるもの一は市區改正と共に不燃質物の建築を見るに至り其の延焼區域を縮少するの利益を示したりと雖も結局延焼區域を縮少するに至りしものは消防機關の完備と水道の布設に基因するや毫も疑ひを容れざる所なり

第十六章 室蘭の漁業

(一) 概 言

當港の産業としては從來漁利の外見るべきものなし只漁業は内灣外洋共に魚介族の分布豊富にして漁期又久し、に渉るを以て斯業に専事する者頗る多く生魚の輸出は一ケ年約二十萬圓に達す其の製造業としては雲丹罐詰魚粕等あるのみ左れば本港金融界の原動力を爲すものは實に漁業なりとす

室蘭沿海一百有餘里、津浦到る所として魚類に富まざるなし其の豊富なること到底西海岸の及ぶ所にあらず而して水産物中の重なるものは鮭、鱒、鱈、鮪、鮠、公魚、鱈、鱈、小鱈、ソイ、アブラコ、章魚、海鼠、鰻、海扇、蛸、目援鯛、鯖、海參、ヒラメ、オヒヨウ、鱈、鮪、鯉、雲丹、昆布、若布、銀杏草、海羅、海苔等あり右等の漁業は手繰又は建網、引網、配繩、差網等舊慣に依り相當漁具を用ひ收穫するものにして其の販路は青森又は炭山其他の部落に輸送するを常とす而して是等漁業を營むもの二百五十餘戸あり若し將來大局面より此の水産物に注目し或は漁具漁船を改良し或は沖合漁又は遠洋漁業を始め或は鱈大敷網、鰻揚線網、其他鮪、鯉等の漁業を營むに至らば其收入價格は果して幾何の増加を來す未だ知るべらず而して更に噴火灣内及び襟裳岬に到る沿海に據りて之れを見るに族魚饒多にして其種類多きこと北海道中他に比類を見ず故に古來優農は此の海灣に流出する所の各河川に於ける鮭、鱒其他の魚類に據りて生活を爲し尙ほ餘裕ありたるもの如し斯の如き状況なるにも拘らず北海

道東海岸と云へば鯉、昆布の産地と稱し漁業家の常住し得べからざる如く或は云ふ東海岸は濃霧甚だしく風烈しく海荒く周年漁業に従事する日少なく營業困難なり是れ何の事や其實況に通せざるも又甚しと云ふべし近時噴火灣に於ける鮪漁の開始と幌別郡釧路沖合に於ける鯉又は目援鯛の如きは漁法の改良進歩に據りて漁獲するに至りたるものにして曾て是等魚族の棲息し居るや否やを判別し能はざるの實況なり一當海岸に明治三十二年以來漁民となく農民となく移住するもの多きを加へ是等移民は據りて以て漁具を改良するの端を啓くに至れり若し逐年漁業家の増加するに伴ふて各種の漁法を擴張するに至らば多年を俟たずして層一層出産額を増加するは勿論其未だ曾て漁家の手に觸れざら目には及ばざる水産物をも漸次獲取するに至り其の物産の種類を饒多にするや決して疑ひなかるべし

聞く處に據れば北米加奈太亞細亞諸領に於ける漁業の如きは其の事業年々進歩し従つて收穫高の増加するもの歳に月に倍蓰するの状況なりと然るに我國の金庫と稱せらるる北海道の水産物收穫は之れに反して年々著しき増加を示さざるは何等の原因や之れ一は一般民人の水産事業に注目する者少なきと一は政府の奨励其の宜しきを得ざるに座するのみ果して然らば今より官民共に進んで之れが進歩發達の策を講ずるは室蘭の發展に伴ふ一大急務中の急務にあらずして何ぞや他なし噴火灣内及び襟裳岬に至る

沿海の住民は將來共同一致して漁具漁船を改良し其の沿海に於ける漁業は勿論沖合漁業に従事すると共に内地府縣の沿海に於ける漁業者若くは遠洋漁業に經驗あるもの又は漁業を以て一家を經營せんと欲する輩を移住せしめ須臾先づ政府又は室蘭町民が指導者となり漁業法を改良し及び海産物の製造法を改善し盛んに斯業に従事せしめ一面に海産物の銷流法即ち室蘭町に東京市に於ける日本橋魚河岸の如く魚類仲買業組合を組織すると共に魚類市場を設置し仲買人をして魚類の販路を擴張せしめ又は製造法を指導し漁業家、製造家、仲買人等各々分業法に依りて營業するならば管九に營業者の利益のみならず一は漁業獎勵の策として一は室蘭港の繁盛を助長するの町是として之れが實行を期するは刻下の急務なり果して然らば之れに水産的學業を授くるの方法を講せざるべからず蓋し室蘭は沿海一百餘裡に跨る良港にして北海道東海岸に於ける漁港に充つるは地の理に於て當然なり而して傍近海洋に於ける魚類即ち鯉、鮪、鱈、鰈、鰯、鰺、鰈、鰒等に至りては其豊富なること前述する如く他に比類を觀ざるなり果して然らば此天與の魚族を漁征すると共に一面之れを無窮に保護繁殖せしむるの必要あるは固より論を待たざるなり然らば即ち今日に於て水産講習所及び水産試験場等を室蘭に設置し一は水産的人才を養成し他は噴火灣及び本道東海岸に於ける一般魚族の種類と其の棲息所を探究し據りて以て西海岸に於ける高島水産試験場と要

待つて東海魚族の試験事業を實行するに至らば國家經濟上に一大利益を與ふるや昭々として火を觀るよりも かならん左に室蘭に於ける水産物の産額及び漁船トロール漁業等の成績を示す

(二) 室蘭水産物産額

種類	数量	價格	種類	数量	價格	摘要
鱈	三〇	三七五	アブラコ	五〇	五	生魚販賣高水産額 合、調査の分
鮭	六	二、八二四	海鼠	〇	五	
鱈	一五〇〇	一八〇	海扇	五〇〇	二〇〇	
公魚	二、八三〇	二、五六六	海參	〇貫	〇五	
燻製魚	九四〇	二二三	燻製鱈	三〇〇尾	〇	
燻製鮭	四〇〇尾	三三〇	淡菜	五貫	六〇	
鱈	二五	九七	長切昆布	八〇石	六〇	
鱈	三〇	一、〇五〇	雲丹	五〇〇貫	五〇	
鮪	一、二〇〇	一、四〇〇	價額計	五〇〇貫	同	
鱈	一、〇〇〇	二〇〇	價額計	四〇〇尾	同	

からざるの狀態にありしを以て全く人為的其の發達を遂げ亦其の繁榮を維持したるものあり然るに本道拓殖の事業進歩と共に往來交通自由なるに及んで常港の如き地位一方に偏在せる港灣は忽ち旅行者の顧みざる所となり加ふるに地方産業の著しきものなかりしを以て數年來の繁榮は一朝にして衰運の姿となり爾來漁利に依て僅かに其餘喘を保つの有様となれり然るに炭礦鐵道會社の貯炭場として海陸の設備實現せらるるに及んで初めて港灣としての價値を發揮するに至れり爾來製鋼製鐵の二大事業勃興されと共に海面の埋築棧橋の築造其他本港灣を利用するの目的を以て種々の事業齎策され既往十年間に於て港灣の設備並びに市街の改良を施し商工業櫛比鱗次し商業稍や繁榮して戸口増殖の度を示し現今本道東海岸に於て優に覇を稱するに至れりと雖も内本道各地の開發と外貿易及航路の大勢に鑑みて熟々之れが將來を考ふるときは改良施設すへらもの二三にして止まらず就中其の急務と認むべきものは本港の將來を豫想して港制を確立し公私各般の施設は此の大本に準據せしめて漸次門戸の完備を圖るを急務と爲す前章既に述べたるが如く當町は博學堪能の士を顧問と爲し相當技師を聘して港灣を調査し改修の計畫を樹てしむるは本港に取りて最大急務たるは言を待たざる所にして近き將來に於て巴奈麻運河成功の曉には歐米の諸船舶其の西よりせんと欲する者は香港上海より長崎馬關神戸等に航すべく其の東よりせんと欲するものは直ちに室蘭横濱

に航すへし此等船舶に要する石炭及飲料水の供給は將さに室蘭港の一大任務にして之れが供給の設備は一日も忽緒に附すへからざる問題たること片時も忘るへからず論者或は云はん室蘭は灣小にして大艦巨船を入るゝの器にあらざると云ふと難も全灣能く溼砂を浚渫するに於ては數十隻の大艦船を入るゝ若し大黒惠比須の兩島と大根暗礁との三箇を基礎とし防波堤を築設し及び室蘭大觀初版に於て述べたる如く元室蘭村宇日方泊岬より防波堤を築き更に灣内に小なる防波堤を築造し該堤防の間に適當の航路を設け浮標を配置し其の區畫を定めて繋留せしむる等の施設を爲すに於ては優に一百隻の船舶を入るゝを得べきなり又輪西市街地先海面埋立のことは久しく有志者の計畫せるものあり之れ等は何れも倉庫其他の敷地に充て貨物の吞吐に便せんとするものなれども未だ許可を得て現實に着手するの運びに至りたるものなし尙ほ此種の計畫は續々行はるゝの形勢なるを以て將來本港をして秩序ある發達を遂げしめんには港制の確立を緩ふすべからざるなり今や當路者亦此に見る所あり鑿きに道廳技師を派遣し港灣の改修に關し調査する所ありたるも之れに要する費用の點に就き未だ實行するの運びに至らず而して今日に於ては政府及地方民人の築港問題に對する意嚮に就ては杳として消息の聴く所なし惟ふに本港は近く函館小樽の良港を控へ加之東岸釧路の築港工事を現實にするに至りし景勢より見るも本港自衛上修築問題の等閑に附す可きものにあら

ざる事は言を俟たざる所なるも如何せん本港は開拓使設置以來官民共に天然の良灣として之れが修築の件を畫策するに至らざりしは國家の爲め誠に慨嘆に堪へざる所にして今日に至り釧路、根室、留萌、函館、小樽港等の築港事業に激して之れが提案を見んとする如きは迂遠も亦甚しきものと云はざる可からず何んとなれば日高金山兩鐵道線及膽振鐵道を敷設するに於ては膽振、日高、十勝、根室、釧路、北見等の諸國に於ける農産、水産、林産及鑛物等は勿論旅客貨物をも擧げて本港に吸集するを得可し果して然らば石狩、天鹽の二ヶ國に於ける物資も亦自ら集散するを得へし之に反して釧路根室の兩港は將來如何に港灣を修築し海陸の設備を完成んとするも農業は夏季海霧の襲來するありて作物の成熟を阻害すること甚しく冬期は海上常に不穩にして激浪流水等の危険あり殊に北見根室地方の如きは濃霧四塞快晴の日稀なるを以當港に連絡の鐵路開通するに至らば海路に比較して多少運賃の増加を見るへきも貨物と人命の安全を期する點より打算すれば陸路當港に輸送するに如かざるへし亦從來函館小樽を中繼地としたる前記各地方の需用品は多く當港に據りて集散し京坂地方は勿論諸外國と直接の取引を開始し以て北海道に於る過半數の商權を掌握し一躍して東洋唯一の開港場たる地位を占むるに至べし此の秋に至らば元輪西村は勿論室蘭村に至る荆棘荒無地も變じて熱鬧繁華の街衢となり空しく魚鳥の群游に委せし港津磯浦は化して大艦巨舶を入

る、の開港場となり期年ならずして本邦無比の模範市制を施行するに至り當港の面目を一新するの機運到來するや蓋し疑を容れざるなり
按するに當港の膨脹は過去十年間實に急速の程度を示し徹々たる漁村より起りて今や本道第二の繁華たる小樽をも凌駕せんとする勢ひを示せりと雖も今日の有様を以て袖手看過するに於ては過去の歴史に顧みるも進歩發達の時機を逸するの憾なき能はず斯の如くにして果して能く大勢に打勝ち得へきや否や大に疑なき能はざる所なり此故に當港の將來は海陸連絡の設備を完成すると共に金山日高兩鐵道敷設事業の爲め忙殺せられんとす其の一二事項を列記せば
一、水道の敷設 二、港底の浚渫 三、市區の擴張 四、貯炭場の設置 五、防波堤の築設 六、風防林の設置 七、棧橋の増設 八、海面の埋築等擧げて以て漏れざらんことを恐るゝもの多し當港の前途豈に多事ならずとせんや

第十八章 室蘭に對する將來の希望

室蘭町の所轄區域は南北に狭く東西に稍々長しと雖も其の土地面積僅々一千六百五十八町八反二畝十九歩に過ぎず幅員甚だ狭少にして其の形狀殆んど弓形狀を爲し東は輪西村に接し西はホトエウシ岬を限り内浦灣に望み北は海を抱きて輪西一帶の丘陵に對

す其の面積狹隘にして現在の市街地を措いて將來發展すべきの餘地なき事は人々の認むる所にして將來發展上に幾多の支障を醸生するかは識者を待たずして明かなり故に輪西村西北海岸一帯の地及び元室蘭宇日方泊の海岸を限り室蘭町に編入し以て本町百年の長計を樹つるは刻下の一大急務あり

室蘭港の發展に伴ふて起すべき事業夥多ありと雖も宇白鳥沼の埋立及び祝津の埋立工事は一日も緩ふしべからざる事業にして之れ等の事業と相待つて膽振鐵道の速成を促かすと共に輪西村舊屯田兵給與地一帯の地域を水陸產物製造所又は工業場として社界に唱導するの覺悟なかるべからず故に室蘭港の發展を導くの一機関として室蘭に日刊新聞の發刊を望むこと切なり著者從來日本水産新報を發刊しつゝあるも室蘭の將來に就き感ずる所あり之を改題して實業新報を發刊せしめんとす今試みに室蘭及び輪西村に起すべき事業の種類を略叙して當業者の参考に資せん

(一) 小麥製粉所 是は洞爺湖水を利用し水力電氣を以て麥粉を製造し電力の餘れるものは之れを他の器械工場に供給すること而して製粉原料たる小麥は伊達村及び虻田真狩俱知安地方に仰ぐべし

(二) 造船所 是は膽振日高の兩國に材料を仰ぎ室蘭港灣の北岸又は繪鞆灣及祝津の西方海面に沿ふて起業するとせば有利の事業たるや疑ひなかるべし

(三) 機械工場 是は製鋼所及製鐵所の事業逐年盛大に至らば内外國船舶の幅輳すること固より云ふを待たざる所にして膽振日高石狩十勝等農工業の進歩に伴ひ歲に月に機械の需用を増すは時世の然らしむる所なり

(四) 酒類製造所 室蘭を始めとして膽振日高石狩後志國等の一部に供給するも其の販路の廣大なること多辨を待たず

(五) 麵麩製造所 室蘭は將來諸工業に従事する幾萬の職工居住するに至るは勿論外國船の出入頻繁となれば隨て食麵麩の需用を増すは當然なり故に菓子麵麩食麵麩の類を製造せば將來有望の事業なるべし

(六) 倉庫會社 是は室蘭に幅輳する貨物を安全に保管するの目的を以て廣大なる倉庫を設置し内外國に於ける商業家の需用に供するの必要あり

(七) 競馬場 是は馬匹改良の趣旨に基き膽振日高其他の産馬を奨勵すると共に内外國人の娛樂に供するの必要あり速かに設置を要す

(八) 貸馬營業所 是は將來内外國軍艦又は商船の出入頻繁なるに伴ひ海員をして遠來の煩懣を慰むると共に内外國人の乗馬術研究の資と爲すべし

(九) 製糸機械場 北海道廳が本道拓植事業の進歩に伴ふて養蠶を奨勵すること最も盛んなり然れども其の割合に製糸機械所の設備未だ完たからず故に當業者之等の事業を

起して將來室蘭に於ける職工等の妻女をして授産の途を講せば一は薄給の工女を使役し他は鐵道を利用して繭の買入を爲さば工賃を減ずると共に購買力を鞏固ならしめ營業上益する所少からざるべし

(二〇)魚油製精所 苫小牧沿海に於ける鱈漁業は頻年著しく衰頽に傾きたるも將來漁具を改善し漁法を改良せば舊時の如く漁獲するを得べし此時に當り魚油を製精して白油以上の品質と爲し工業又は鐵道、船舶、その他に供給せば其販路の廣大なるは勿論之を香油及び時計其他細密なる機械の需用に供するあらは裨益すること莫大なるべし而して日本製鋼所の事業著手するに至らば製鋼に要する精油の需用多大にして一ヶ年の消費額數萬圓を計上するに至ると云ふ精油事業の前途又多望なりと云ふべし

(二一)冷蔵庫 は交通機關の設備に伴ひ商業上の機關として設置を要することは言を待たず室蘭は内外國に連路を保つ所の要路なるに因り魚菜又は生肉其他の物資をして安全に貯蔵するの設備を爲すは當港民の責任なりとす

(二二)疊表及び花蓆製造所 近時北海道廳に於て製作を奨勵せられつゝある疊表及花蓆は將來北海道に供給するの目的を以て之れが製造に著手するも又一大事業なるべし況んや疊表及び花蓆等は海外に輸出の望みあり今日に於て之れが起業を計畫するに便宜に適し最も有望の事業なりとす

室 蘭 大 觀

(二三)室蘭銀行設立の急務 室蘭の商業機關として現に二の銀行あるも室蘭港の發展に伴はざるの感あり故に資本金五百萬圓餘の銀行設備の必要を認む

(二四)室蘭町大字海岸町字ライナウシ濱間に運河を開鑿する事は室蘭港民の死活問題なり日本製鋼所室蘭製鐵場等の工場より將來各種流動體汚穢汁を港内に排出せらるゝの豫防策として一日も早く之れが決行策を講ずるにあらざれば遂に室蘭港は不具の港灣と化するや測り知るべからず

室蘭港灣修築に關する管見

室蘭港は北海道東海岸に於ける良灣として世人の視線を惹くに至りしは最近十數年來のことにして此の形勝無比の港灣が今日まで世人の視線を脱し獨り隅郷の群游に委せしは函館小樽の兩港利用に急にして渺たる室蘭港を顧みるの遑なかりしは時勢の然らしむる所なりとは云へ今や世界の一大問題たる巴奈麻運河の開鑿は峻々として進歩し將に西曆一千九百十五年を以て全く竣工し太西、太平洋の航路は著く短縮すると共に貿易は太平洋部面に於て驚くべき大活動を見るに至るべし而して我國は該貿易の中心に當り世界中最も繁榮にして最大發達力を有する米國東南岸と、無窮の需用力を有する亞細亞大陸に於ける市場との貿易媒介をなすに恰かも便宜なる位置にあるを以て

之に對する帝國の施設如何は我國貿易の消長に甚大の影響を與ふべく帝國は最善の方法を講じて以て其利の多くを我有に歸せしめざるべからず而して其法種々あるべしと雖も南洋航路の衝に當り該貿易の中心的位置を占むる港灣の設備を完成して大船鉅艦の出入及び碇繋を安全ならしめ貨物の揚卸を便ならしむるに若くものなし然り而して吾人の視る所を以てすれば帝國港灣中地理上經濟上此大勢に應ずるに適當なるは我が室蘭港を措いて他に之を求むべからず何となれば該貿易船の航路として採るべき二様の航路則ち津輕海峽線、瀬戸内海線との優劣を比較するに津輕海峽線は乘客及び貨物が横濱神戸の兩港に關係を有するものを除くの外地理上の關係即ち潮流及熱帶線との距離氣象航路の難易石炭供給地の所在等の關係殊に石炭供給地として室蘭港が存在し瀬戸内海線に數倍するの利益あるを以て此等諸船舶は室蘭港を寄港地とせざるを得ざるに至り其結果本港は炭水供給地として多數の船舶を出入せしむるのみならず貿易中繼港として發達すべき運命を有するを以て前途の繁榮や豫測し能はざるものあらん而して室蘭港は米亞航行船舶が迂路を取るを要せずして寄航し得べき利益あるのみならず瀬戸内海線に於ける石炭供給地たる門司港に比し該航路發着點の中心に近接せるを以て積載燃料炭の量を減じ貨物積載力を増加するの利益あり亦室蘭港に於て供給する夕張炭の品質は遠洋航海船に恰當する發熱の強盛なると燃焼の充分なるとの點に於て本

邦石炭中最も優良にして又炭量豊富なり其炭價は一般の需給及採炭費運賃積込等の關係上稍々門司の其れに劣るの缺點あれども若し之れが採掘に精良なる機械力を應用すると港灣修築及び石炭専用高架棧橋完成の曉は著しく炭價を低減せらるべきに反し門司港に於ける築豊炭は漸次採掘し盡さるゝと共に炭量の稀少なると採掘の困難なるを免れず逐年炭價騰貴すべきを以て結局該航海船は室蘭港を以て炭水供給港として入出せざるを得ざるべし而して將來航行船舶の増如するに伴ひ安全にして利益ある津輕海峽を捨て、困難にして不利益なる瀬戸内海線を擇る能はざるを以て漸次室蘭港に寄航するに至べく況や一朝日米間の親交相破れ不幸にして戰端を開かるゝ時ありとせんか此の時に當り彼我石炭の供給を何の地に仰かんとするか他なし室蘭港を措て他に之れを求むべからず室蘭港の位置夫れ斯の如し今後日高金山膽振鐵道等の完成と共に米國及横濱行貨物巨額に達し隨て船賃も漸次低減すべきを以て實に米亞貿易に對し船舶炭水供給地たるに止まらず更に米清、日米、日清、日露等中繼貿易港として太平洋貿易に對し重要な位置を占むるに至るべく更に内國貿易に於ても將來小樽港と匹敵するに至るべし室蘭港が外國貿易に於て現在五百七十一萬二千二百圓小樽港六百一十一萬二千八百九十圓にして函館に勝ること三百二萬圓釧路に勝ること五百四十二萬圓にして本道外國貿易總額の三割九分を占む是れ室蘭港と内地諸港間の距離及航海の便宜

しきと本港が其背部に本道大生産地の殆んど二分の一を負ふて之を其勢力範圍と爲すに因る則ち現今に於ては僅かに其府縣に對する貿易千百九十七萬餘圓北海道内貿易二百十萬餘圓合計千四百七萬餘圓に過ぎずと雖も之れ畢竟鐵道の敷設完からざるが爲めにして日高、金山、膽振鐵道が開通せらるゝに至らば十年後の室蘭港に於ける内外貿易は優に五千萬圓の巨額を算するに至るべし即ち室蘭港を起點として有珠虬田の沃野を横斷し俱知安に至り函館線に連絡すべし膽振線早來驛を起點として勇拂煤田及勇拂原野を経て金山に至り十勝線に連絡する金山線苦小牧を起點として浦河を経て十勝線に合する日勝線敷設の議ありて一は明治四十二年其實測を了し二は前年北海道炭鐵道會社に於て實測を了し三は遠からず實測し著手する由なれば此等鐵道は拓植線として亦營利線として三四年中に開通するに至るべし斯の如く室蘭港は天然の良港灣として各種の事業が續々發達するの景勢を示しつゝありと雖も水深豊大なる地域は外海波浪の侵入を受け受け且つ漂沙流入の爲め逐年埋没の傾向あるに拘らず何等人工の施されたるものなきを以て天惠の利を活用するに由なく世の遺忘閑却する所となりしものは畢竟難には海軍鎮守府の經營せらるべきものとして除外され其後海軍との關係斷絶せられたるも更に本港は天然の灣形良好にして隨て之れを修築するの必要なしとの謬説が世人の多くに提唱せられたるが爲めなれども近時室蘭港の發達と共に其の非なるは事實を以て立證せられ當局又見る所あり明治四十一年中岡崎技師を派して港灣の調査を爲さしめ一面に於ては港灣調査會を開始しつゝあり是等完了の上は適當の修築方案確立せられんとするの機運に際會したるを以て早晚好報を齎すものあらん凡そ商港としての價値は港灣の地勢、海底の地質、水深及面積、港口の幅員、港心よりの距離及潮汐、背部諸方に對する交通の便否、輸出入貨物、出入船舶の隻數及噸數、人口増殖の程度、事業發達の難易、氣候風土の良否に由て定まるものなり室蘭港は是等諸要件の内天然に屬するものは殆んど具備し亦具備せざるも此れが缺を補ふに僅少の工費を以て足るに反し其人爲に屬するものは一二要項を除くの外殆んど皆な具備するることなし

本港灣は西北に向て開敞するも其度最も僅少にして灣口約一哩に過ぎざるを以て天然無比の良港にして他港に比すれば餘波の甚だしく内部に侵入することなく些少の人口を施すに於ては港内靜穩にして船舶の碇緊貨物の積卸最も容易にして又適當の浚渫を施すに於ては陸地に近接して大船鉅艦投錨し得べし惟ふに其天然の缺けたる所を補ひ海陸連絡の諸設備を完成するに於ては其利は今日に比し幾百倍を増すに至るべし只だ本港は水深の豊大なる區域は波浪の襲來を免れず風波の虞を確實に掩護せらるる地域は二十五萬坪内外に過ぎざると防沙堤の築設なき爲め漂沙の侵入甚だしく港内は此れ

が爲め年々其水深を減退し天然の良灣も年に月に荒廢に屬せんとするの傾向あり而して海底の地質は其中央部に於て軟質の細砂及泥砂にして干潮面以下三十尺以内にて硬盤に達することなきを以て錨泊安全にして且つ浚渫容易なり港灣として漂沙の恐るべきみとは他港に於て實例あるのみならず室蘭港は此の侵入を受くること最も甚だし即ち西北風の誘致する漂沙の大黒島附近の大根岩礁より幌前間に横はる堤狀硬盤の爲めに横遮せられて再び流出する能はず北岸を沿ふて輪西村沿岸其他に至り相集つて海底に沈積し港内の水深年々減少するの實況なるを以て防砂堤を築設するにあらずんば港灣の價値を減却するに至るべし故に港灣の修築は刻下の最大急務に屬するを以て左に吾人の希望を畧叙し官民の參考に資せんとす

- (一) 港灣修築の規模は最も大なるを要す
- (二) 金山、日高、膽振の三鐵道敷設せば入出商船の數増加する以て錨泊區域廣濶なるを要す
- (三) 米亞航路の中繼港として炭水供給港として大船鉅艦をして安泊ならしむる爲め水深の豐大なるを要す
- (四) 輪西市街地先一帶の淺洲を浚渫して帆走船の碇繋又は五六千噸の汽船碇泊場と爲すを要す

(五) 元室蘭村字日方泊岬を基點として防波堤を築設し及大黒島エンルム岬間を埋築するを要す

(六) 元輪西村の入江一帶の淺洲を浚渫すると共に埠頭を築き石炭及木材又は農産物の積卸に便ならしむるを要す

(七) 輪西市街より西北海岸一帶の地は石炭置場と成るは勢ひの免れざる所なるを以て同村に於ける市街は漸次元輪西村に連絡せしむるの方針を取るを要す

(八) 輪西市街及元輪西ベキヨウダ、元室蘭村は將來市街豫定地として各般の設備を爲すを要す

(九) 繪柄村及ヲハシナイの地は自然市街と成るの景勢なるを以て當局は道路の開鑿及び水源地涵養林を造成し及び官林を保護するを要す

(一〇) 室蘭町字老名牛岬又は茶羅津内其他の地を選んで燈臺の建設を要す

前述する處は輪西村部落に對する事業の概要に過ぎざるも左に列記する所は將來室蘭の發展に伴ひ本港と姉妹の關係を有する伊達村に對し起畫すべき事業の二三を掲げん

第十九章 伊達村に於ける起業策

有珠郡伊達村は世人の普く知る如く從來農業地として其名高かりしも創業以來數十年

間施肥を怠り耕作せしと輪耕的耕作を爲さざりし結果地味大に衰へ年々收穫高を減じ
今や粗大的農業を経営し能はざるの狀態に立至れり此の時に當り農業組織上一大革命
を爲すにあらざれば逐年生産力を減耗し遂に名譽ある團體移民をして自然離散する
の止むを得ざるに至らしむるや測り知るべからず故に後來粗大的農業を革らため集約
的組織となし園藝又は製造工業其の他養蠶家畜等の業務を採らざらばからず幸に地方
の志士著者の管見を容るゝに吝ならざれば速かに實行の任務を果されんことを

(一) 養蠶業 本村には既に蠶業講習所を設置せられ殊に伊達家に於ては蠶業の其の土
に適することを認めたる結果として多年模範的飼育を爲し治績に於て見るべきものあ
りと雖も一般の意向は粗大的農業を株守するの傾きありて養蠶業に重きを措かざるも
の、如し依て左の方法に據り蠶業の發達を計るは刻下の急務たるを信す即ち各戸一反
歩乃至二三反歩の桑園を設けて農業の傍ら養蠶に従事し以て將來養蠶地と爲すの覺悟
なかるべからず今や全世界に於る文明の進歩に伴ひ絹布類の需用を増加するは固より
論なし故に永久の事業として斯村農家の副業には養蠶を措いて他に好き事業なかる
べし

(二) 機械業 農事閑散の時季に於て農家の婦女子をして機械業に従事せしめ若くは養
蠶業に従事する婦女をして之れ等事業を専門的に經營せしむるに至らば伊達村の將來

は絹布木綿の特産地と化し外資吸集の本場たるに至るべし若し廣く外國に輸出するに
至らざるも北海全道に供する目的を以てするも蓋し有望の事業なり

(三) 養鶏業 桑園の周圍に牧棚を設けて牧鶏を營まば農家又は養蠶家の副業として有
利なるべし今や室蘭港の發展に伴ひ鶏卵の需用多きを致すと共に函館青森其他の都邑
に輸出するの商行爲を實行せば其効果の多大なるは論を待たざるあり

(四) 養豚業 室蘭港の發達に伴ふて副食物又は外國船の食料として豚肉の需用を増す
は驟やを待たず故に將來自家用として及び販賣用として小規模の養豚業を營むを好し
とす

(五) 漬物製造業 各種の漬物を製造して室蘭、函館、小樽、樺太其他の都邑及び海外
に輸出せば有利の事業なり殊に伊達村はキノコ漬の産地として名わり福神漬も可なり
各種の味噌漬も好し澤庵漬奈良漬等に至りては其販路廣くして産額の多きを要するこ
とは豫想外なりとす殊に本業は多額の資本を要せず農家の副業に最適せり

(六) 蔬菜耕作 蔬菜は東京横濱を中心として近くは室蘭、函館、青森、仙臺其他の都
市に供給せば有望の業務なり若し之れを實行せんと欲せば三峰神社代參講を利用して
東京に於ける蔬菜耕作法を實見し來りて徐ろに試作を爲さば其の成効疑ひなかるべし
(七) 罐詰業 小魚其他小魚果實類の罐詰業を起して其の製品を東京に輸出せば相當の

營業となるべし若し規模を大にして膽振國沿岸に於ける小魚類を蒐集し以て罐詰と爲し陸海軍の御用に供するを得ば國家を益すること莫大なりとす

(八)養馬 農用馬匹の外各戸一二頭の牝馬を養ひ軍馬及競馬、農用、輓馬、駄馬等に供する目的を以て馬匹を飼養せば未來の産馬地として頭角を顯らはすに至るべし何となれば古來膽振日高の兩國は産馬地として名あり之れ地勢の然らしむる所にして本道中牧馬に適するの土地此の兩國を措いて他に求むべからず況んや交通の便に於てをや

(九)果樹栽培 果樹栽培の利益あることは一般に認むる所なれども兎角之れが實行を努むるの勇氣よくして巨利を一部の地方に獨占せらるゝの傾きあり交通の便利よりするも本業を盛大ならしむること必要なり將來重なる販路は浦塩期徳及び滿韓方面を最として内地一般の供給を爲すの目算なかるべからず北海道に於ける林檎は紀州に於ける蜜柑に最適し全國到る所として年次其の需用を増すは疑ひあかるべし具眼者宜しく永遠に着眼するを可とす而して近時青森産林檎の品質は北海道産に優ること數等なり

(一〇)麵類製造業 北海道に於て毎歲乾温純及素麵の消費高莫大なり斯村に於て之を製造販賣せば特産物として本道各地に輸送するを得べし本業は製粉事業と相待つて實行するあらば蓋し有益の事業なるを信ず況んや食物改良の上に於ても之れが實行を好

しとす

(一一)製粉所 伊達村は北海道開拓の模範地として一時天下に馳名を轟かしたるも現今の景勢より將來を推測するに今日の有様を以て往時の名聲を維持すること至難なるべし故に此際製粉所を起して小麥粉を製造し一は他道へ輸出し一は斯村の食料其の他麵類製造の用に供せば自然米穀の輸入を防ぎ改良の指導者を以て任ずるに至らば邦家を益すること鮮少ならざるを信ず況んや食物改良は吾人の先鞭を促すこと急なり

(一二)製網所 大麻亞麻は共に斯村の特産物なり大麻を以て製網又は製網の事業を起し以て北海道其他の漁業用に供せば永遠の事業として頗る有望なり

(一三)薄荷栽培 北海道に於て近時薄荷の栽培漸く多きを加へ明治三十九年の作付反別は一千九十五町歩收穫高一万五千九十貫に達せり之れ等の耕作は他の農作物に比し収益多きは多辨を要せざるなり交通の便に於て本村は本道各地の耕作者に打勝の利あり

前項の外施設すべし事業枚擧するに遑あらず粗大的農業の薄利なるを了りたらんには宜しく舊慣を改め漸次簡易にして有益なる事業を經營すること蓋し最大の任務なるべし

終りに臨んで一言す伊達邦成君の開拓事業の成功を助成したる田村顯允氏は今年八十

一歳の高齡に達せらる氏の爲めに記念銅像を建設し現在と永遠に其の功績を表彰する方法を講ずるは伊達村出身後進者たるもの、責任なるべし依て著者は左の考案を提出す

一田村顯允君銅像 建造費 金三萬五千圓也

右は伊達村字館山の南端に建設し以て斯村開拓の記念と爲さんとす但し建造費は第一伊達村有志者第二北海道に於ける有志者第三普く天下の有志者より寄贈を受くるの見込みなり

論者或は云はん田村氏の銅像可なり之れに先んじて伊達男の記念碑こそ建設するの必要あらんと否々伊達男は既に永遠の爵位を授けられ開拓の功績は其の家門に光輝を放つゝ、あり故に田村氏の爲めに斯案を提出するものなり然れども時機を見て伊達男の銅像建設も亦著者の腹案あり本文寄附金の募集方法は更に相當手續を爲し他日發表せんとす

第二十章 室蘭に於ける官公署其他

(一) 官 署

●室蘭支廳 室蘭町大字本町に屹然たる高層の建築を見るは是れ則ち室蘭支廳なり其の廳舎は木造柱葺にして廳内の周圍には一條の廊下を通じ其内部を大廣間と爲し事務室に充てらる廳員四十七人内支廳長一人高等官にして他は屬官技手事業手技術員事業生等を以て廳務を處理す現任支廳長は服部慶太郎氏なり

●室蘭警察署 室蘭町大字本町に在り其の廳舎は西洋風を模擬したる木造平家にして最近の新築なり而して敷地は一區畫を充用せしに依り四隣皆な道路たり署長は飯田誠一氏なり

●室蘭稅務署 は字本町に在り其の包轄區域は膽振國一圓にして屬六人雇員三人を以て稅務に關する事務を處理す署長を高原玄熊氏とす

●室蘭郵便局及電信局 は明治五年の設置に係り室蘭に於ける官署としては古き經歷を有せり明治三十一年宏壯なる廳舎を大字海岸町に建築す

●室蘭區裁判所 は大字本町通りに在り膽振國一圓を管轄するものにして檢事判事各一人及書記雇員等十人を以て其事務を處理す

●室蘭稅關支署 は大字海岸町新棧橋前に在り港内に於ける輸出入に關する事務を管掌す署長立山氏は精勵署務を處理して速算なし

●室蘭土木派出所 は北海道廳第六部の派出員詰所なり本所は函館、檜山、室蘭、浦

河等四支廳の管轄内に屬する國費工事を施行する所にして其の職員四十餘名を以て事務を處理す本所は明治四十二年三月を以て廢止す

●札幌營林區室蘭分署 は大字本町通りにあり官制の改正に據り明治四十一年四月室蘭支廳より分離せらる本署は膽振國一圓の營林事務を管掌する所にして屬二人森林監守二人事業手一人雇員一人を以て其事務を處理す

●室蘭執達吏役場 は大字常盤町に在り室蘭區裁判所包轄内に於ける執達吏事務を處理する所なり佐伯有敏氏其局に當る

●室蘭町役場 は大字常盤町に在り明治三十二年町村制實施と共に獨立せられたるものにして室蘭支廳の直轄する所町長助役收入役各一名及び書記付屬員を置ひて教育、衛生、兵事、土木、勸業、戶籍、宗教、財務、稅務等の事務を處理す而して町政に參與するには町會議員ありて町政を料理す町長は岩波常景氏なり

●水產稅區署 は室蘭町役場内に在り其事務は役場員之れを兼掌す

(二) 學 校

●室蘭高等尋常小學校 は大字本町通り四隣閑雅なる地にあり明治三十年現在の新校舍に移り尋常科高等科を併置す本校は敷地高燥にして頗る眺望に富み井水亦善良にし

て一般衛生に適す校長は工藤謙次氏なり

●武揚尋常小學校 は元追直し分校と稱し追直し方面の兒童收容の目的を以て建設せられたるものにして近時室蘭の發展に伴ひ住民順に増殖し隨て入學兒童日に増加するの景勢なれば明治三十八年より四十年間に現今の校舍に移轉せり而して本校は三十七八年戰役中の増設に係るを以て現任河島北海道廳長官名くるに武揚の二字を撰み武揚尋常小學校と改稱するに至れり校長は幸松秀三氏なり

●成徳尋常小學校 は室蘭町札幌通字母戀に在り本校は明治四十二年九月一日を以て開校式を舉げられたるものにして現今八學級の編制に據り教授しつつあるも開校以來未だ半歳ならざるに校舍狹隘を告ぐるの勢ひにして現今増築の必要を認めらる校長白戸俊夫氏は百事創始の任に當り精勵校務を處理しつつあり

●花崎尋常小學校 は室蘭町字花崎に在り本校は花崎附近に於ける炭礦漁船會社定備夫其他の兒童收容の目的を以て設置せられたるものにして其校舍の如きも同社所屬の建家を充用したるものなりしも年次兒童増加し今や校舍狹隘の勢を呈し増築の必要を認むるに至れり校長阿部文治氏は室蘭町に教鞭を執ること二十有七年間一日の如し

●繪柄尋常小學校 は室蘭町大字繪柄町に在り本校は舊土人保護の下に土人簡易教育所として設置せられたるも後ち改めて繪柄尋常小學校と稱し和人混合教授を爲しつつ

あり校長大黒文治氏は二十有餘年間熱心其職務に従事す

●室蘭商業補習學校 は室蘭尋常小學校内に併置しあり本校は専ら商業補習の學業を教授する所なり其生徒は二十人餘ありて傍ら英語を教授しつゝあり

●兒守學校 室蘭高等尋常小學校内に假設し名稱の如く本校は義務教育の修學終らざるものに對し單級教授を爲すものあれば父兄は進んで就學せしむるの義務あり

(三) 病院

●町立室蘭病院 は大字常盤町に在り其の建物は西洋風を模造せし平家にして建坪二百五十一坪を有し敷地高燥四隣又閑雅なるを以て自然入院患者の清養に適す院長醫學士田中好治氏は醫術に精通し殊に外科術に至りては其名高し氏が院長として就任以來未だ一年半ならざるに日に月に院務舉かり隨て外來及び入院患者の數を倍加するの景勢を示しつゝあり

●米川病院 は大字本町通りに在り本院は明治四十一年開院したるものなり

●島影療院 は大字海岸町に在り外科、内科、眼科、産科等を以て其の門戸を張る院長島影義徳氏は町立室蘭病院副院長として勤務中一般患者の信頼厚く明治四十一年退職開業するに至りて名聲噴々たり

●香藤醫院 は大字濱町通に在り院長香藤專藏氏は曾て町立室蘭病院に院長として職を奉じ後ち獨立して本院を開業するに至る醫員石塚一二氏と共に患者に接する懇切丁寧にして一般の信頼極めて厚し

●本多醫院 は大字海岸町に在り内科、梅毒科、小兒科、婦人科を以て其の名高し院長本多芳太郎氏は曩に町立室蘭病院に奉職せらる後ち退職して本院を開業せし以來日増隆名を招ぎつゝあり

●中野醫院 は大字札幌通りにあり院長中野勝次郎氏は曾て室蘭病院に職を奉せしことあり明治四十一年現在の所に開院せし以來名聲日に高く中野内科、外科、秘尿生殖器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科と云はゞ知らざるものなきに至れりと云ふ

●後藤醫院 は室蘭町大字札幌通りに在り本院は内科、外科、眼科、齒科、醫院として三尺の童兒も皆能く之れを知る何となれば院長後藤顯美氏の室蘭に開業すること日淺きにも拘はらず氏は文明的頭腦を以て廣告を利用すること歐米人の其れの如くなるに依り其効果として患者門に滿ち手術の妙と相待つて令名高きを致す

(四) 會社

▲北海道炭鐵瀛船株式會社 は大字札幌通りに在り本社は石炭の採掘及び骸炭製造廠

賣業並に電燈經營、山林經營、煉化製造、製材、製鐵、船舶回漕業を營業とす資本金貳千七百萬圓及び社債六百萬圓の一大會社にして其の所有鐵區六千四百餘萬坪の内第一夕張、第二夕張、空知、幌内、幾春別等より年額一百五十萬噸餘を採掘す社長は井上角五郎氏あり

▲株式會社日本製鋼所 は室蘭町大字母戀に在り本社は日英共同經濟的組織にして明治四十年の創立に係り資本金一千萬圓及び社債一千萬圓の大會社にして其の業務は鋼鐵材料、商船、軍艦、軍器等を製造する所なり

▲室蘭產物株式會社 は大字海岸町に在り生魚其他の委託販賣を營業と爲す而して其の販賣は競賣の方法にして春秋及び冬季間は室蘭旭川間鐵道幹技線に沿へる市邑に送荷し又は函館青森及び東京方面に出荷す

▲室蘭共成株式會社 は大字海岸町に在り其の營業は前社と同様生魚其他の委託販賣を目的として明治三十九年七月開業す

▲噴火灣汽船株式會社室蘭支店 は大字海岸町に在り其の營業目的は専ら噴火灣内に於ける貨物海運業を營むにあり本社を有珠郡伊達村に置く

▲日本郵船會社室蘭代理店 は大字海岸町に在り船舶回漕を營業とす

▲内國通運株式會社室蘭取引店 は大字海岸町に在り陸上運送を營業とす

▲札幌倉庫株式會社室蘭代理店 は大字海岸町にあり其の營業は倉庫業とす

▲今井合名會社室蘭支店 は札幌通りに在り吳服洋物類販賣を以て營業とす

▲室蘭煙草元賣捌合名會社 は札幌通りに在り煙草元賣捌業を以て營業とす

(五) 銀行

▲北海道銀行室蘭支店 は札幌通り中央に在り本行は北海道商業銀行及び小樽銀行の合併したるものにして其の資本金は七十五萬圓を有し専務取締役は添田弼氏にして其の取引先は頗る廣く一般の信用厚し支店長は豊浦且明氏にして能く行務を處理す

▲株式會社日本商業銀行室蘭出張所 は札幌通りに在り本社は資本金二百萬圓を有し其の頭取は斯界の大家安田善三郎氏なり

(六) 旅館

▲丸一旅館 は海岸町室蘭停車場前に在り本館は本道東海岸屈指のものにして館主を蛸子源吉と云ふ

▲丸本旅館創成館 は海岸町棧橋前にあり本館は高尚閑雅にして上流紳士の投宿に適す名聲夙に聞へて丸一旅館と相比肩す館主を本田新と云ふ氏は地方の名士たり

丸の旅館山城屋 は海岸町停車場前にあり汽車汽船の乗降に便利なり館主を藤岡熊太郎と云ふ

▲鍋屋旅館 は大字海岸町停車場前にあり移住民指定宿なり館主を鍋屋チセと云ふ

(七) 旗 亭

▲常盤 は札幌通りにあり本樓は室蘭の料理店として遠近に其の名を知らる地位ある者と無きものとを問はず一酌を傾けんとするもの皆な常盤に快を需むるあり

▲壽 は札幌通り七十番地にあり意氣を凝らせる客室は四季の眺望尤も佳に淺酌低唱の小宴に適す

▲菊水 は札幌通りにあり室内の清潔女中の氣轉は粹客をして知らず識らず足を運ばしむるは宜べなり

(八) 娛 樂 場

▲千歳座 は千歳町にあり本座は當港に於ける劇場の鼻祖なり

▲神田座 は札幌通にあり創立日尙は淺きも建築の宏大なる爲め看客の氣受け好し

(九) 名 所

▲測量山 は八幡神社を距る西方にあり海拔六百六十餘尺に達す茲は町内に於ける名所として其の名高し而して山頂に於ける四至の眺望佳に轉者たる老樹は稚木と相交り左に駒ヶ嶽の洋々たる内浦灣に映するを望み右には港内碇船の大船鉦船の林立するを睹更に眼球を北方に放てば有珠嶽の赫峰と蝦夷富士の天に發ゆるを眺むべし右顧すれば茫々たる太平洋上遙かに襟裳岬の海波に突出し惠山岬と相腹背して自ら入江を爲す又右方渡島半島に駒ヶ嶽の麓に突出する砂崎を見渡せば一大灣を爲す内浦灣之れなり

▲高島翁銅像 札幌通り舊棧橋前の北隔に屹立し巍然として港灣を睥睨しつゝあるを高島嘉右衛門翁の銅像と爲す

第二十一章 室蘭附近に於ける名勝

▲永山男銅劍 海岸町に建設しある銅劍を故陸軍中將勳一等功二級男爵永山武四郎君の彰碑と爲す將軍が文武官として在職三十年間北海道開拓事業に盡されたる功績の偉大なると共に炭礦汽船會社の發展に對する功勞多大にして同社基礎鞏固となり今日の如き盛運を見るに至たるは男の賜ものなりと爲し同社に於て其徳を表彰せしものなり

も好し老名牛の漬茶難津内奔前繪鞆祝津等は遊獵に適し時雨の磯邊老名牛の漬電信濱等風致に富みて海水浴に適す

(二)カル、ス温泉 は幌別郡幌別村に在り室蘭より陸路八里許り汽車四十分にして幌別停車場に着す之れより陸路三里馬車にて鑛泉場に達すべし旅館は松田館あり鑛泉の効能は實業家略傳に據りて知るを得べし

(三)登別温泉 は幌別郡登別村に在り登別停車場まで陸路九里餘あり室蘭より汽車一時間にして登別停車場に着す下車すれば温泉場まで乗合馬車にて達するを得べし此間陸路一里二十八町あり有名なる温泉場は登別岳の麓にあり四面山に圍繞せられ摺鉢底にあるが如く幽邃閑雅あり鑛泉場より約二町にして湧泉地に達す幾十の鑛泉噴出蒸騰煮沸し其狀の壯觀なるよりも寧ろ悚然たる無数の温泉流れて一條の湯川となり温泉場に注ぐ瀧の湯は屋外に在り四季共に温度變ることなくして浴すれば心氣一轉恰も別天地にあるの思ひを起さしむ此瀧の湯は瀧本旅館の所屬なるも他館の浴客茲に浴するも妨げなし旅館は瀧本、丸一等を最とす

(四)櫻組製澁所 は勇拂郡早來村に在り本所は扁柏の皮より澁を製造する所にして廣大なる器械を据付け盛んに澁の製造に従事しつゝあり斯業は革類輸入の防壓的目的を以て建設せられたる所なれば實業家又は學生等をして一見せしむるの價值あり

(五)コークス製造所 は夕張郡追分に在り本所は夕張炭礦粉炭を以てコークスを製造する所にして北海道炭礦汽船株式會社の所屬とす

(六)夕張炭礦 は夕張郡に在り追分停車場に於て夕張線に乗り換へれば二時間にして炭山に着す茲は即ち有名なる夕張炭礦なり礦區内には幾千の坑夫採掘に従事し廣大なる設備と相待て鑛業を經營する所の實況を一見せば實に目を驚かすに足るべし而かも室蘭の生命を左右する所又北海道炭礦汽船株式會社の金庫たり政治家實業家學生等一見するの價值あり追分より二十四哩にして岩見澤停車場なり岩見澤驛より鐵路右すれば旭川左すれば札幌小樽にして遠く函館に通じ北海の都市に遊ぶことを得旭川は第七師團所在地にして北海道中央の都府なり

(七)伊達村 明治維新の時に方り仙臺の名門伊達邦成君が舊臣を従ひ天下に率先して北海道拓植の業に従事し一は勤王の名分を明かにして宗家伊達伯爵の罪を償ひ一は臣家授産の道を樹てしめ外露國の凱倫を防がん爲め君臣盟約して開拓の實効を奏せし處なり

室蘭より伊達村に航するに港口左舷を眺むれば大黒島目捷に顯はる此島はプロトン將軍の遺跡あり右舷に泪利歌の陣趾を吊ひ進航すること暫時にして伊達男爵の忠臣たる田村顯允翁經營の牧場を右舷に見左舷には遙かに駒ヶ嶽の洋々たる内浦灣に映射する

を望み船頭又有珠嶽の楮峰を眺めつゝ西紋蔵村に著すれば男爵伊達邦成君の偉業を見ることを得ん伊達村より陸路三里にして有珠灣に達す海濱岩礁錯曲奇勝に富む鑛泉洗心館あり滯留一日にして大白山地獄洞極樂演善光寺其他の勝地を訪了すべし

(八) 壯瞥淵 伊達村大字西紋蔵より白山麓を迂回し三里許にして壯瞥に達す屹然として登ゆる白山微かに白煙上り壯瞥淵は森然として落ち偉觀云ふべからず坂路三町許りにして洞爺湖畔なり瀧下旅館には庄司定吉安西、稀玉等あり

(九) 洞爺湖 は膽振國蛇田有珠兩郡に跨る大湖にして周囲十三里半餘湖中二の島嶼あり碧水靜かなる時遙に蝦夷富士を望めば湖面の眺望尤も佳に漫々たる湖水に漂ひ一日の舟遊水禽の眠りを驚かす又一興ならん湖中鰻、雨鱒を産す夏季産卵の候湖畔よ垂釣を弄ぶも亦可ならん

(一〇) 辨慶温泉 は有珠郡壯別村にあり伊達村より陸路四里半長流川上流の山中にして山容水態秀絶清絶あり一日の清遊に適す

(一一) 鱒溪温泉 は有珠郡壯別村長流川上流の右岸に在り四面山に圍繞せられ幽邃閑雅なり雨鱒及びヤマベ魚を産す

(一二) 遊園 イダキ沼は室蘭郡輪西村にあり室蘭より陸路二里許、茲は海濱を距る一町餘あり風致に富む又水禽を得らる時化の時を殊に好しとす輪西停車場を距る東方

二十町餘なり

▲クワタリウン沼 は白老郡敷生村にあり室蘭より敷生停車場に汽車一時三十分にして達す沼水靜かなる所に水禽の眠るを見れば遊獵家の興味思ひ半ばに過ぐるものあらん

▲白老沼 は白老村にあり此沼に鰻を多産す愛儀云ふ往昔仙臺藩の勤番役某本國より若干の鰻を携ひ來りて蕃殖を試みたり爾來白老郡沿岸に鰻を産するに至れり白老敷生兩村の下流には鴨、山鳥、鳩、雁等多し

▲勇拂郡 勇拂方面の各沼湖には雁、鴨、白鳥、鶴其他種々の水禽群棲し千歳より鶴川に至る山間には鹿、狐、狸、狝、鼬、兎等出没す此邊室蘭線鐵道に沿へり而して伊達村蛇田地方は農業地なるを以て小鳥多し網網の獵に適す

前掲の外記載すべきもの夥多あり第三版に詳記すべし

第二十二章 膽振國各郡の狀況

膽振國は大別して八郡と爲す内室蘭、幌別、白老、勇拂、有珠、蛇田の六郡は室蘭支廳の管轄區域と爲し山越郡は函館支廳管内に屬し千歳郡は札幌支廳の管轄にして尙ほ蛇田郡の一部俱知安村は後志支廳に屬せり今室蘭支廳管内の地勢を窺ふに極東は日高國沙流郡石狩國空知郡膽振國勇拂郡を堺とし東經百四十二度四十二分極西は後志國瀬

棚郡及び太樺郡膽振國山越郡に界し北緯四十二度三分極北は北緯四十二度六分に位置して石狩國空知郡膽振國勇拂郡を境とせり故に東は日高國に隣り南は海面に接し北は石狩後志の兩國に跨り西は渡島國に對す國中河川山岳多しと雖も亦平原沃野過半を占め氣候溫和にして土壤肥瘠相半ばし陸に流車海に流船の便を有し本道東海岸の要區たる室蘭港は海外貿易市場として日進月歩の状態を呈し鐵路は其埠頭より北進して岩見澤を経て旭川及釧路港に達し夕張線は追分驛より分岐して石炭及旅客の輸送に任じ更に岩見澤驛より札幌小樽等を経て殆んど半月形に一週して函館港に抵る海路僅々七十九哩にして函館に達し亦十二時間にして本洲青森港に日々直航するを得るのみならず府縣各港に西週するも東周するも自在にして且つ樺太島浦潮斯德等にも航行を得るの便あり殊に株式會社日本製鋼所及室蘭製鐵場が室蘭港頭に設置せられてより海の内外を問はず其聲價を高めたり今や製鋼事業の一部營業を開始せられ其餘の敷地工事は孜々として進捗しつゝあり吾人が期待する所の膽振鐵道線も明治四十二年秋其比較線の調査を遂げられ一般の歡迎を受けつゝあり俱知安驛より南東に方面し流雷一聲を放ちて輪西驛に連結するに及んでや有珠蛇田の二郡に於ける鑛業の開發は勿論農工業上一大面目を施し膽振國内の富源を遺憾なく啓發せしむるの時機將に眼如に迫らんとす加ふるに膽振國が北海文明の輸入港の室蘭を有し岩内小樽の物資を吸集する俱知安及

狩の大農村を有す若し北海の天地が一個師團の存在を以て不足なりと叫ぶの時あらば釧路の設置を運定するに吾人は指を蛇田都内に屈せんとす試みに日本地圖を繕けば北辰星下鳳凰翼を張り將に舞ひ下らんとするが如きもの之れ北海道にあらずや渡島に巨嘴を開きて北見十勝に兩翼を張り石狩天鹽に便腹を擁して蝦夷富士即ち後方羊蹄に頭冠を擡ぐる山下一帯の裾野にして鳳凰島の咽喉を扼する所即ち是れ俱知安村の東南部と眞狩村の東北部に方る目名原野は之れ北海十一州の脚部大腿の要部を占むるを見る真に形勝なる哉國防なる哉東には無意寧及び喜茂別山北には稻穂の連脈西は即ち岩雄別、西高山等に擁せられ尻別河諸水を集めつつ坦々たる平野の中央を貫流す山河襟帯して四塞せる天府將に之れ無線電線の交換所望遠臺の要衝金城鐵壁の地なり金城鐵壁と云ふ海拔既に六百尺餘空氣乾燥にして水質亦清冽なり地味稍や疲脊なるを以て練兵場として市街地としてその要途を自在にするの便あり而して風は札幌及び海岸地方の如く甚だしからず寒威は旭川根室等に比すべくもあらざるあり唯だ積雪に至りては未だ多量を免る能はざるは天與の然らしむる處なり回顧すれば千二百二十餘年前阿部比羅夫將軍が後方羊蹄の原野を卜して征所を置きしもの蓋し地利の必然より起りしとは云へるの地位は口蝦夷と奥蝦夷の交通衝路に當り東西兩海岸の迫る所にして漁すべし尻別河の靈水と獵すべし幌夷富士の靈山を有するとは云へ茲に政廳を置くに至

室蘭大觀

もしは蓋し二十世紀時代の今日を見越したるの識見と云はざるを得ざるなり
 室蘭郡は東洋の一大工業地として將た亦特別輸出港として益々發達の運命を擔へつゝ
 ある室蘭港の所在地たり郡の西方は有珠郡に接し北端は鷲別嶽の山麓東は幌別郡に境
 を張り南は海に面す室蘭港は其港口を西に開く丘陵海水を擁して水尋深く船舶の繫留
 に適し港口の北岸は元室蘭村にして南岸は室蘭町大字檜柄村とす其中央南岸に近き孤
 島は大黒島と稱し岩頭に燈臺の慈光を發して航海の指針盤たり此島の北西に方り暗礁
 あり大根礁と稱す礁上の水深最も深き處三尋半に達す燈臺より紅光を照射して之を警
 戒す郡は南北二里餘東西四里周圍十八里四町此面積五方里餘にして沿海線は十里二十
 九町あり室蘭町輪西村元室蘭村千舞籠村の一町四ヶ村より成る郡の北部は火山岩より
 成り南部は第三紀層に屬す其の表土は埴質土壤なりとす郡は約二分の一は半島にして
 海面に突出するが故に潮流の爲め中和を得て寒暑共に甚だしからず最長受光時八時間
 乃至十四時間とす風力は平均速度八米突にして年中最も多きは北風なり積雪は平均一
 尺位にして雨量亦稀薄なり本郡は工業の發展に伴ひ今や地域の陔隘を感ずるの趨勢を
 示せり早晚本郡沿海の大部分は擧げて市街區域に編入せられんとするの形勢なれば實
 業界の願盼を聚め俄然農耕地より一躍して工業地としての大經營を企てられ政府は鐵
 道國有の主義を實行し自ら進んで港灣の修築を經營し海陸の設備を完成し以て交通機

室蘭大觀

關の連絡を計らんとするありて海には港頭既に高架棧橋の架設するあり之れが連絡を
 保たしむる爲めには繫留棧橋架設工事施工の舉あり陸には膽振鐵道敷設の急務を認め
 られて之れが線路の實測を爲したる如き北海道炭礦漁船株式會社は室蘭港發展の先覺
 者とし將た其繁榮の擁護者として偉大の雄圖を齎らして此地に移轉せし以來既に製鐵
 製鋼及製材事業の大經營を實行し尙ほ電氣事業を擴張し又コークス製造所の起業を企
 畫しつゝあり三井物産合名會社は遠大の希望を抱いて本郡の接續地たる幌別に銅鑛の
 採掘に着手せしのみならず苫小牧村に一大製材所を新設し以て木材輸出の大計を立て
 んとするあり王子製紙株式會社は豊富なる森林と有利なる水力電氣とを應用し將に其
 營業に着手しつゝあり
 更に石狩石炭株式會社其他の炭鐵主は石狩築港の無謀なるを自覺したると共に小樽港
 には多量の貨物を集積するの不可能なるを了り早くも其抱負を室蘭港に轉じて頻りに
 壯舉を畫策しつゝあり開拓使設置以來動もすれば衰微の一方に偏し萎微悲運に呻吟し
 政府の疎外を啣ち潜行黙移徐々時運の旋到を期待しつゝありし室蘭港をして今や乍ら
 發展の順潮に乗じ一瀉千里急奔の勢を以て大なる進歩と大なる膨脹とを爲さしむるに
 至りし者時運の變遷に伴ひ室蘭港は當然帶ふべき天與の世界的貿易港たるの地位を獲
 得し其使命を完ふせんとしつゝある者にして本港の歴史は茲に光彩陸離たる一劃線を

播けるもの、この豈に本郡と廳振國との爲めに永く忍るべからざるの好記念時ならずとせんや而して本郡は沿岸悉く魚介族の分布は富み且つ屈曲多きを以て之れを根據と爲し近時沖合漁業の發達と共に漁獲物の販路四通八達の状態を呈し年々の其獲高三十萬圓餘より工業の隆昌と相俟つて一層機聲と漁笛とを放たんとするの勢ひを示しつゝあり夫れ斯の如く室蘭郡は工業の發展を伴ひ漁業益々發達して貿易港を兼ねるに漁業港の觀を呈するに至るべき乎悉く望を前途に屬すべき實在のものなるを以て本郡將來の大發展大進歩が果して如何の程度にまで達すべきかは未だ遽かに豫測し能はざるものあり宜べなり本港膨脹の歩武峻々として暫らくも息まず既に資費茫々たる輪西村の草野及び尙ほ進んで沿岸幌別附近にまで膨脹せんとするの勢を示しつゝあり退いて元輪西村の沿岸を顧みればインターナショナル、オイル、コンパニー會社の石油事行は近き將來に於て實現せられんとし同社亦一大埠頭を此地に築設し以て其抱負を實踐せんとの計畫ありて天與の富源と自然の風物が如何に人爲の工作に據り開發せられんとす左に輪西村の概況を掲げて今後の趨勢を卜するの參考に資せんとす

沿革

室蘭郡は往昔南部侯の支配せし衛戍地にして其の帷帳の白障を元室蘭村字泪流歌に置

かる之内地人に知られたる嚆矢にして安政三年南部人播磨力松なる者家族と共に繪柄村に移住して漁業を經營す之れ内地人が本郡移住の始めたり降りて明治二年仙臺藩の一門石川光親氏の支配地となり石川家の藩臣を本郡千舞籠村及元輪西村に移住するあり同三年に至り郡の西北部を仙臺藩公族阿波守伊達邦成君の支配地となり爾來政治機關を元室蘭村に置き専ら拓植事業の任務を期せらる明治五年開拓使が本道の經倫を試みるに及んで對岸トキカリモイを新室蘭と改め伊達公の支配地を擧げて直轄するに至り政治機關を此地に移し白鳥沼を港とし汽船稻川丸を浮べて渡島半島の森港に航路を開きしは第二の發展紀元なりとす故に本郡は薩と蝦夷人の部落に過ぎざりしことは明けし

開拓使所管に歸して以來石川家の家臣等致々として本村開拓の任務を盡さんとして農業其他の産業に努めたりと雖も對岸室蘭港の市況常に振はざるのみならず本村の土壤多くは泥炭地にあらざれば傾斜地其の強半を占め農業不適の土地多きに居り折角の移住者も漸次減少するに至り十五年廳使置縣と共に室蘭港の市況俄然衰頹の狀を呈するに至り本村も亦之れが影響を蒙り農業進歩するの形勢なく衰頹頗る杞憂の狀態となれり二十年屯田兵員百餘戸の移住あり大に活氣を添へり加之二十一年には更に炭礦鐵道延長の許可ありて遽かに人氣引立ち或は鐵道人夫諸職人等の來村と共に亦一層の繁